



第3次 つくば市 観光基本計画

令和4年(2022年)4月

〔対象期間〕

令和4年度(2022年度)から
令和8年度(2026年度)まで



市長挨拶

つくば市は、名峰「筑波山」をはじめとする美しい自然や周辺地域の豊かな歴史と文化、世界最先端の科学技術が集積した自然と科学が調和した魅力あるまちです。

2000 年代には、つくばエクスプレス(TX)の開業や首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の開通に伴う交通利便性の向上をはじめ、駅周辺の市街地開発が行われるなど、更なる発展を遂げています。

近年、国内のみならず世界的に少子高齢化や気候変動、価値観の多様化や急速なイノベーション、SDGs の取組など、私たちを取り巻く環境が大きく変化しています。

このような中で、つくば市は「持続可能都市」を目指し、中長期的な視点で一貫したまちづくりを行うための道標として「つくば市未来構想」を策定するとともに、未来構想の実現に向けたより具体的な施策や取組をまとめた「第2期つくば市戦略プラン」を策定しています。更に観光振興分野の個別計画として、本計画を策定し、今後5年間ににおける本市の魅力や強みをいかした観光施策を推進していきます。

前計画である「第2次つくば市観光基本計画」では、つくば市の豊かな地域資源とアクセスの良さを背景に、同計画最終年度(2021 年度)の到達目標指標として設定した「観光入込客数 400 万人」に対し、平成 30 年(2018 年)には約 421 万人、令和元年(2019 年)には約 425 万人と、2 年連続で目標を上回り順調に推移してきました。しかし、令和 2 年(2020 年)には、全世界で猛威を振る新型コロナウイルス感染症の影響により、本市の観光産業は大きな打撃を受け、観光入込客数も大きく減少しました。

こうした社会情勢の中、新型コロナウイルス感染症の収束後を見据え、観光 PR の強化や観光地の魅力を高めることなど、更なる観光振興施策の展開等が求められています。

今回作成した本計画では、「つくばと“つながる”つくばが“つながる” —つくばの自然・科学・歴史・文化で人と地域と世界をつなぐ—」という基本理念の下、社会情勢の変化を捉え、市民の皆様とともに、SDGs への貢献と持続可能な観光を目指しています。

また本計画は、市民委員に初めて御参加いただいているなど、市民の声を積極的に取り入れた計画となっております。

最後に、本計画の策定にあたり真摯に御議論いただきました、各委員の皆様に心より感謝申し上げます。

つくば市長 五十嵐 立青



目 次

第1章 計画の基本的考え方.....	1
1 策定の背景と目的	1
2 本計画の位置づけ	2
3 本計画の期間	3
4 S D G s 達成に向けての取組	4
5 本計画の実施体制	5
第2章 つくば市の観光を取りまく現状と課題.....	7
1 つくば市の概要	7
2 つくば市の観光資源の特徴	10
3 国内の観光動向	13
4 統計データからみえるつくば市の現状	25
5 アンケート結果の概要	32
6 つくば市の観光における主な課題	41
第3章 つくば市観光振興の指針.....	43
1 基本理念	43
2 基本方針	44
3 目標指標	44
4 施策の体系	46



第4章 基本方針に基づく主な施策..... 47

- 1 観光客とつくばが“つながる”－つながる・役立つ・広がる情報発信－ 47
- 2 伝えたい資源を観光に“つなげる”
－観光資源の強みをいかした更なる誘客促進－ 50
- 3 地域と“つながる”－周遊観光の促進－ 54
- 4 未来に“つなげる”－持続可能な観光地域づくりの構築－ 59

資料編 64

- 1 つくば市観光基本計画策定委員会要項 64
- 2 つくば市観光基本計画策定委員名簿 66
- 3 アンケート結果 67
- 4 用語解説 82
- 5 つくば市の観光資源の詳細 85
- 6 これまでの取組実績 平成28年度(2016年度)～令和2年度(2020年度) .. 95



計画の基本的考え方

1 策定の背景と目的

つくば市では、平成24年（2012年）6月に、本市の持つ地域資源や特性を最大限にいかした観光振興の推進を図ることを目的に「つくば市観光基本計画」を策定しました。平成29年（2017年）3月には「第2次つくば市観光基本計画」を策定し、「つくばの資源をいかし、世界を魅了するまちへーつくばの魅力発信に向けてー」を基本理念に、観光施策を展開してきました。

これらの取組により、つくば市への観光客数は平成30年度（2018年度）に約448万人、令和元年度（2019年度）に約425万人と2年連続で目標の400万人を超え、過去最高水準となりました。

しかしながら令和2年（2020年）の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、全国の観光関連産業は大打撃を受けており、様々な社会情勢の変化にも対応した新たな観光戦略が求められています。

こうした社会情勢の中で、将来にわたって持続可能で豊かな市民生活を実現するためには、観光を起爆剤とした地域経済の活性化及び交流人口の創出を図り、つくばの魅力を市民とともに創りあげていくことが重要です。

また、豊かな市民生活の下支えとなる自分の住むまちへの愛着や誇りを感じることなど、市民の理解が得られる持続可能な観光地域づくりを推進する必要があります。

こうした背景のもと、これまでの取組や社会情勢の変化を踏まえ、これからの観光の未来につなげていくため、「第3次つくば市観光基本計画」（以下、「本計画」という。）を策定しました。

2 本計画の位置づけ

本計画は、上位計画である平成27年（2015年）3月に策定（令和2年（2020年）3月改定）された「つくば市未来構想」及び令和2年（2020年）3月に策定された「第2期つくば市戦略プラン」の内容を踏まえ、これらの部門別計画として位置づけ、本市が取り組むべき今後の観光施策の基本方向を示すものです。

また、市民や関係企業・各種団体などが自主的かつ積極的な活動を行うための指針として位置づけるものです。

なお、本計画では、国及び茨城県それぞれが策定した関連の計画との整合を図るとともに、市が策定した関連計画との連携を図ります。

<<市の上位計画>>

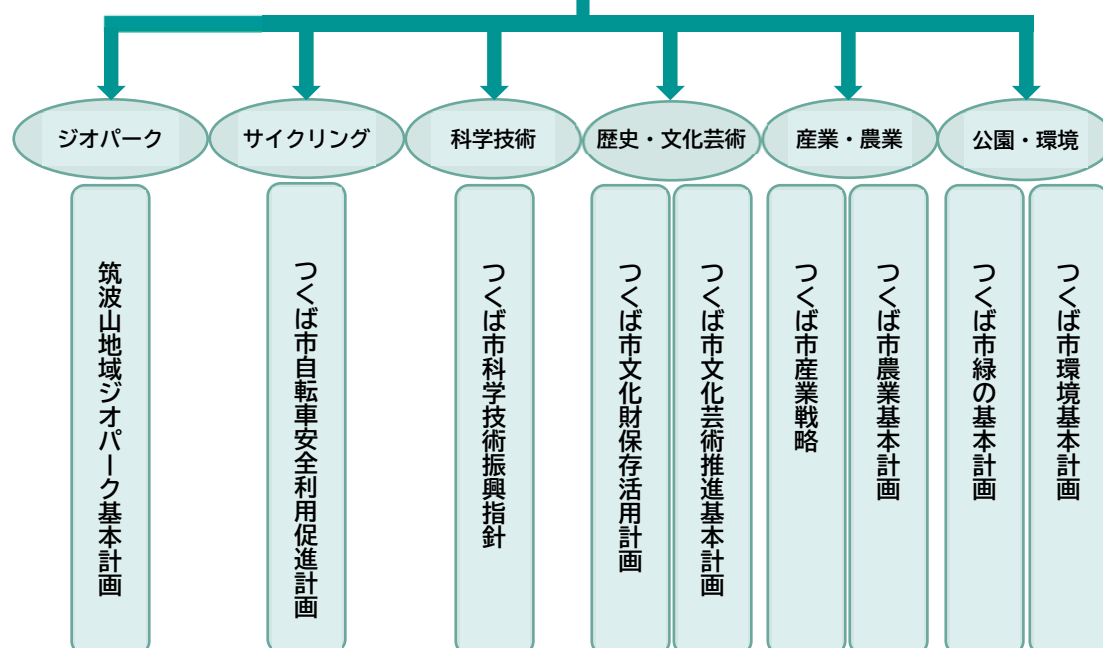
つくば市未来構想(2020-2050)
第2期戦略プラン(2020-2024)
つくば市SDGs未来都市計画

<<国・茨城県計画、指針>>

観光立国推進基本計画
日本版持続可能な観光ガイドライン
SDGsへの貢献と持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）の推進に係る取組方針
茨城県観光振興基本計画 など

つくば市観光基本計画

<<関連計画>>



3 本計画の期間

本計画の対象期間は、令和4年度（2022年度）から令和8年度（2026年度）までの5年間とします。また、社会情勢等を鑑み、計画策定後の2年ごとに、「第3次つくば市観光基本計画中間検証会議」を開催し、事業の取組の評価・検証を行います。

さらに、新型コロナウイルス感染症の流行により観光を含む社会経済活動への影響が生じており、今後の観光のあり方や新型コロナウイルス感染症収束後を見据えた戦略を、適宜検討していく必要があります。そのため、社会情勢の変化や計画の進捗状況等により、必要に応じ見直しを行います。

<<スケジュール>>

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
第3次つくば市観光基本計画				
	評価・検証		評価・検証	

策定後2年ごとにつくば市観光基本計画策定委員による中間検証会議を行い、各施策の進捗や有効性を評価・検証します。

また、各年度ごとに事務事業評価の指標や「主要施策の成果」を評価し、本計画の進捗管理を行います。



4 SDGs達成に向けての取組

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は、平成27年（2015年）9月の国連サミットにおいて採択されました。令和12年（2030年）までを期限とする持続可能でよりよい世界の実現を目指し、17のゴール・169のターゲットから構成され、「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。

本計画においても、17のゴールのうち「8 働きがいも経済成長も」を主軸に、市民をはじめ、観光コンベンション協会、観光事業者、交通事業者、商工事業者、研究機関、大学、行政が相互に協力し、すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用及びディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進し、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につなげ、市民が主役となる持続可能な観光地域づくりを推進するための施策を立案します。

このほかにも、「11 住み続けられるまちづくりを」、「15 陸の豊かさも守ろう」の取組として、筑波山をはじめとする豊かな自然との共生による持続可能な観光を推進します。また、観光施設の整備にあたっては、「5 ジェンダー平等を実現しよう」、「6 安全な水とトイレを世界中に」についても取り込み、サステナブルツーリズムを推進し、魅力あふれるまちの創出に向けた各種取組を進めていきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





5 本計画の実施体制

本計画の推進にあたっては、市や市民、観光コンベンション協会、観光事業者、交通事業者、商工事業者、研究機関、大学が相互に連携・協調することで、つくば市の観光の未来を市民とともに創る取組が必要です。

(1) 市

市は、市民、観光事業者、交通事業者、商工事業者、研究機関、大学と十分に連携を図りながら、本計画に基づく総合的な観光施策を実施するとともに、各主体が自主的に取り組む観光事業への支援を推進します。

また、社会情勢の変化に適切に対応するため、国・茨城県及び近隣市町村等との連携を図り、情報収集や分析を行い、観光振興に資する調査・研究を行います。

そのほか、観光施策実施のために必要となる情報発信や、様々な観光プロモーション活動を展開します。

(2) 観光コンベンション協会

観光コンベンション協会は、観光誘客促進や情報発信、コンベンション誘致推進の中心的役割を担っているとともに、行政、交通、宿泊、飲食、観光事業者とを結ぶ重要な役割を担っています。

また、市内観光事業者のおもてなし人材育成を推進し、市内観光サービスの質を向上することが求められています。

(3) 観光事業者

観光事業者は、観光の最前線で観光客と接する、おもてなしの主役を担っています。こうしたことから、おもてなしの質の向上を常に心掛けるとともに、人材を育成し、観光客の多様なニーズに対応した質の高いサービスを提供することが期待されています。

(4) 交通事業者

交通事業者は、市内における周遊観光を支える観光客の足として、安心・安全を第一とした移動手段を提供する中で、観光地域における利便性の高い交通の実現が期待されています。



(5) 商工事業者

つくば市商工会及びその会員をはじめとする商工事業者は、経済活動による賑わいの創出や、観光による地域振興を目指す観光地域づくりにおいて、重要な基盤です。来訪者への付加価値の提供や、地域経済の活性化が期待されています。

(6) 研究機関

「科学のまちつくば」には150を超える研究機関が集積しており、それらはつくばを特徴づけるものであり、本市にとって重要な財産です。

それらは、市民はもとより、茨城県民、国民にとって、他に類を見ない貴重な“学び”を得られる場となることが期待されています。

(7) 大学

最先端の科学技術が集積するつくば市は、日本でも有数の学術都市であり、複数の大学が立地しています。

大学が有する教職員や学生は、つくばの未来を築く貴重な人材であり、教職員や学生が観光振興に積極的に関わり、地域での新たな価値の創出が期待されています。

(8) 市民

市民は、地元つくばの魅力、これまでの自然、歴史、文化を後世に紡ぐ主役です。市民自らがまちの魅力や価値を知ることにより、持続可能な観光地域づくりへの積極的な参画や、本市の魅力の情報発信が期待されています。



第2章

つくば市の観光を取りまく 現状と課題

1 つくば市の概要

つくば市は、茨城県の南西部に位置し、首都東京から北東に約50km、成田国際空港（成田市）から北西に約40kmの距離に位置しています。市の総面積は283.72km²で、茨城県内で第4位の広さとなっています。

北には関東の名峰筑波山を擁し、東には我が国第2位の面積を有する霞ヶ浦が控えており、これら一帯は水郷筑波国定公園に指定されています。

筑波山周辺を除く市域の大部分は、筑波・稲敷台地と呼ばれる標高20～30mの関東ローム層に覆われた平坦な地形であり南北に流れる小貝川、桜川、谷田川、西谷田川などの河川は、周辺の平地林、畑地あるいは水田等と一体となり、落ち着いた田園風景を醸し出しています。

気候については、年間平均気温が15.1度と温暖な地域であり、年間降雨量は、1,336.0mmとなっています。（令和2年度（2020年度））また、降雪は年に2～3回程度で、特に冬季に吹く「筑波おろし」と呼ばれる乾いた冷たい風は、筑波山南部地域の特徴となっています。

つくば市

総面積
283.72km²

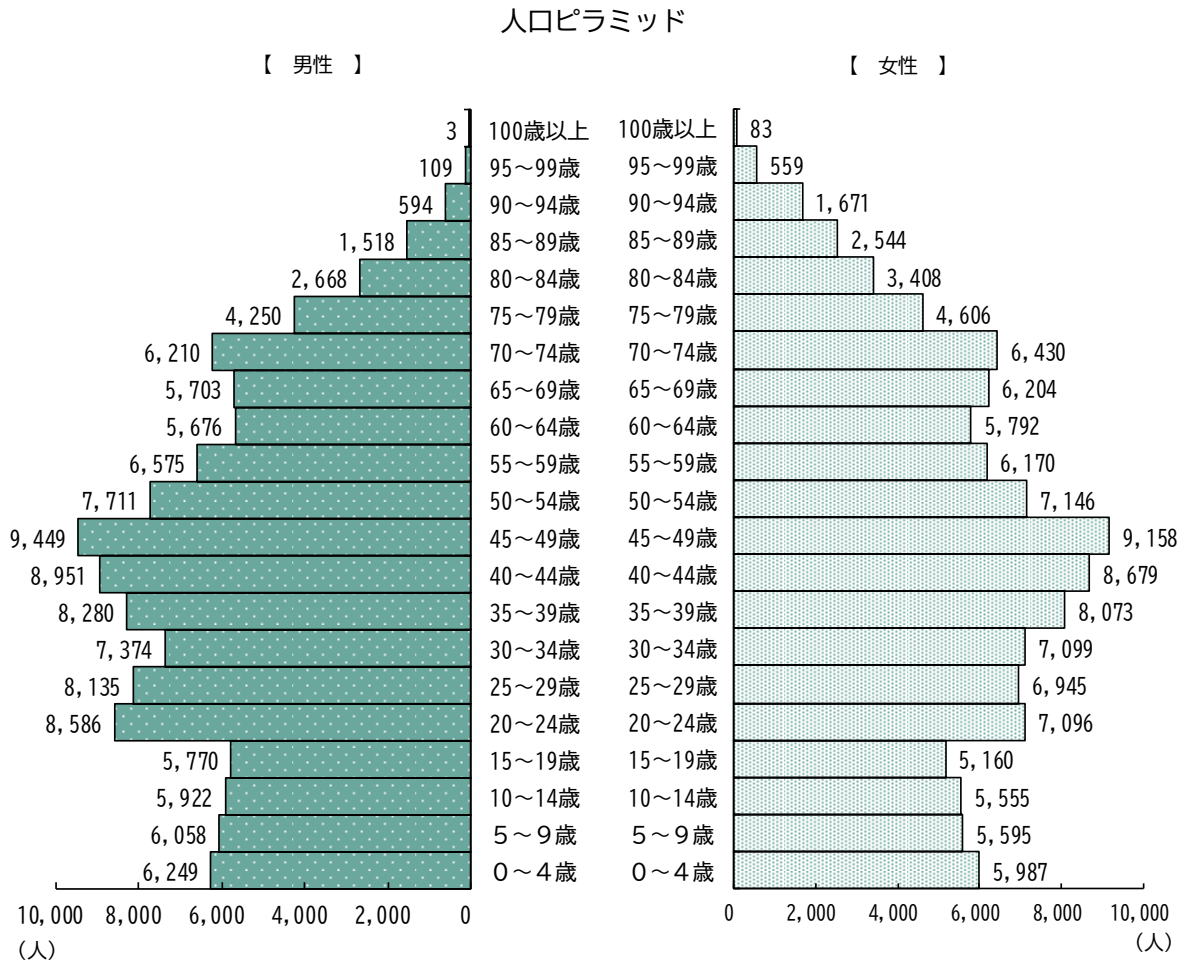
位置
北緯：36度5分0.9秒
東経：140度4分35秒

*総面積と位置は、国土地理院
電子国土基本図（地図情報）
に基づいています。



ア 人口ピラミッド

つくば市の令和2年（2020年）10月1日の人口ピラミッドをみると、生産年齢人口が多く、年少人口、老年人口が少ない「ほし型」となっています。人口が最も多いのは男性、女性ともに45～49歳で、次いで40～44歳となっています。

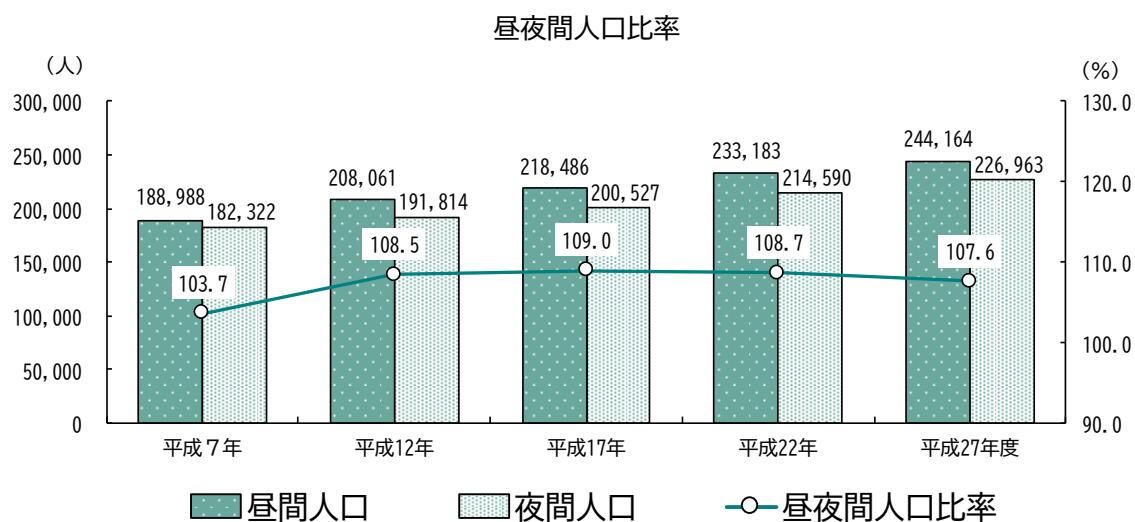


資料：統計つくば 令和2年度（2020年度）（茨城県常駐人口調査 令和2年（2020年）10月1日現在）



イ 昼夜間人口比率

つくば市の昼夜間人口比率をみると、昼間の人口の方が多い「中心都市型」となっています。平成17年（2005年）の109.0%をピークに、平成27年（2015年）では107.6%となっています。



資料：国勢調査



[つくば駅周辺]

2 つくば市の観光資源の特徴

(1) つくば市の観光資源

つくば市は、水郷筑波国定公園に指定されている「筑波山」や静かに水をたたえる「牛久沼」など、豊かな自然に恵まれ、農業なども盛んな地域です。また、市の中心地区は、最先端の科学技術が集積され、整然とした街並みによる優れた都市景観を有しています。さらに、これらを活用することで、新たな体験型観光の促進が期待されます。

つくば市の観光資源

特産品・食	観光イベント	自然の観光資源
つくばコレクション 筑波山地域ジオパーク認定商品 芝 ラーメン パン うどん 福来みかん ネギ ブルーベリー 米 ワイン 日本酒 等	つくばフェスティバル まつりつくば 筑波山ガマまつり 筑波山麓秋祭り 筑波山梅まつり くきざき夢まつり 等	筑波山地域ジオパーク 筑波山 筑波山温泉郷 フォレストアドベンチャー・つくば 宝篋山 筑波山ふれあいの里 筑波山梅林 豊里ゆかりの森 高崎自然の森 荃崎こもれび六斗の森 つくば霞ヶ浦りんりんロード 不動峠 桜川 小貝川 牛久沼 等
花の名所	歴史・文化の観光資源	科学の観光資源
桜 筑波山 北条大池 科学万博記念公園 洞峰公園 農林さくら通り 高崎自然の森 つくば露ヶ浦りん りんロード 彼岸花 燧ヶ池周辺 梅 筑波山梅林 あじさい 筑波山梅林 福寿草 筑波山 ヤマユリ 高崎自然の森 等	筑波山神社 平沢官衙遺跡 蚕影神社 大曾根鹿島神社 金村別雷神社 千勝神社 普門寺 泊崎大師堂 桜歴史民俗資料館 つくば市出土文化財管理センター つくば市谷田部郷土資料館 つくばセンター広場 長屋門 つくば道 小田城跡歴史ひろば 筑波山大御堂 等	筑波実験植物園(つくば植物園) 地図と測量の科学館(国土地理院) つくばエキスポセンター JAXA 筑波宇宙センター 地質標本館 サイエンススクエアつくば (産業技術総合研究所) つくばサイエンスツアー 等

詳細は資料編をご覧ください。

主な市内観光資源分布図



(2) つくば市の観光施策の経緯

ア つくば市の観光のあゆみ

昭和60年（1985年）には、21世紀を創造する科学技術のビジョンを世界に示した「国際科学技術博覧会」（つくば科学万博）が開催され、つくば市は最先端の科学の街としても国内外に知られています。現在では官民合わせておよそ150の研究機関・企業等が立地しており、我が国最大の研究開発拠点となっています。

さらには、常磐自動車道や、つくばエクスプレスの開業、首都圏を結ぶ首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の開通に伴う交通利便性の向上が、観光誘客の下支えとなっています。

つくば市の観光のあゆみ

年	できごと
1918	土浦駅ー筑波駅間筑波鉄道開通
1922	筑波駅ー神社間自動車道路開通
1923	筑波山乗合自動車運行
1925	筑波山ケーブルカー開通（戦後1954年再開）
1949	ガマまつり開催（以降、毎年開催）
1963	町営筑波山駐車場完成
1965	筑波山つつじヶ丘駐車場完成、筑波山ロープウェイ開通
1966	筑波山梅林造成
1969	水郷国定公園に筑波山、加波山地域を加え水郷筑波国定公園となる
1974	筑波山梅まつり開始（以降、毎年開催）
1979	表筑波スカイライン完成
1981	常磐自動車道開通
1982	筑波山大駐車場完成
1985	国際科学技術博覧会（つくば科学万博）開催
1987	大穂町、豊里町、桜村、谷田部町が合併し、つくば市誕生（11月30日） 筑波山観光センター開館 筑波鉄道廃線
1988	筑波町を編入合併 つくばフェスティバル開催 まつりつくば（以後、毎年開催）
1989	豊里ゆかりの森オープン 筑波ふれあいの里オープン 一般財団法人 茨城県科学技術振興財団発足
1990	つくばフェスティバル '90開催（以後、毎年開催） つくば市物産会発足 つくば市観光協会設立
2002	つくばりんりんロード全線開通（延長40.1km） 荻崎町を編入合併
2005	つくばエクスプレス開業
2006	初代つくば観光大使、筑波山もみじまつり開催
2007	つくば市国際交流協会設立 宝篋山小田休憩所開館 つくば市総合案内所開館（つくば駅構内）
2008	筑波山麓秋まつり（以降、毎年開催）
2010	つくば観光コンベンション協会（つくば市観光協会とつくばコンベンションビューローの組織統合）
2011	つくば国際戦略総合特区 指定
2012	つくば市観光基本計画策定
2013	市営筑波山麓平沢駐車場完成
2014	市営筑波山第1駐車場完成（拡張） 市営筑波山麓筑波駐車場完成 筑波山森林体験パーク開館（フォレストアドベンチャー・つくば）
2015	市営筑波山麓小田駐車場完成 筑波山おもてなし館開館 旧長島家土塀修復（市営小田駐車場を整備） つくば総合インフォメーションセンター観光案内所開館（BiViつくば内） つくば市総合案内所閉館（つくば駅構内）
2016	「G7茨城・つくば科学技術大臣会合」開催 筑波山地域「日本ジオパーク」認定 市営筑波山第1駐車場公衆トイレ完成
2018	「筑波山」が日本夜景遺産に認定
2019	「G20茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合」開催 「つくば霞ヶ浦りんりんロード」が国のナショナルサイクルルートに指定（延長180km）

3 国内の観光動向

(1) 国・茨城県の観光施策の状況

ア 国の観光施策の推移

国においては、平成19年（2007年）1月より施行されている観光立国推進基本法に基づき、観光を日本の重要な政策の柱として位置づけています。平成28年（2016年）3月には「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定し、国内外からの観光誘客を推進することは、地域経済の活性化において重要な施策の一つとなっています。

イ 茨城県の観光施策の推移

国の動きを踏まえ、茨城県では平成28年（2016年）に「茨城県観光振興基本計画」を策定しました。「いばらきの個性をいかし、世界を惹きつける新たな首都圏観光を目指して」を基本理念に、施策を展開してきました。そして、令和2年（2020年）には、第2期「茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するとともに、新たに令和4年度（2022年度）からの「茨城県観光振興基本計画」を策定しています。

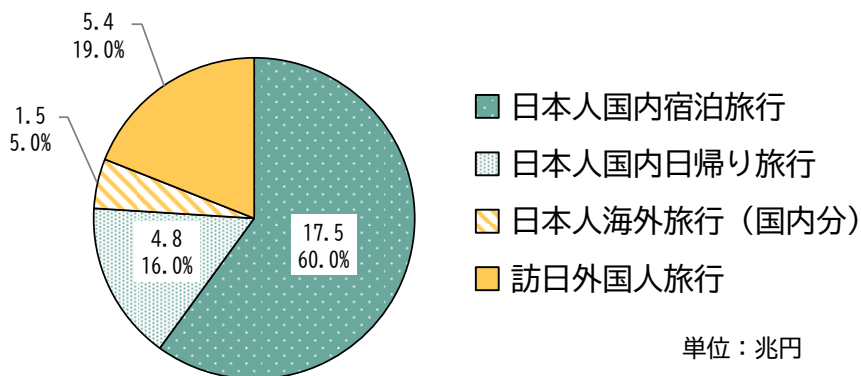
(2) 国・茨城県の観光の状況

ア 国の観光の動向

日本国内における内部観光消費（国際基準）

令和元年度（2019年度）の日本国内における内部観光消費は、29.2兆円でした。その内訳は、日本人国内旅行が全体の約8割を占めています。

日本国内における内部観光消費（国際基準）



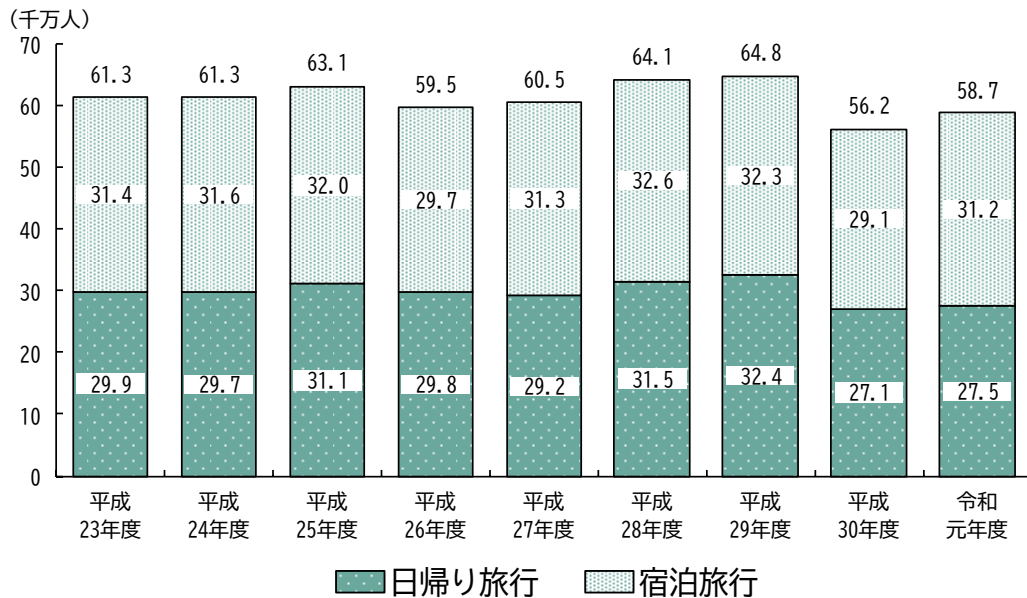
資料：観光庁 2019「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」

(ア) 日本人旅行者について

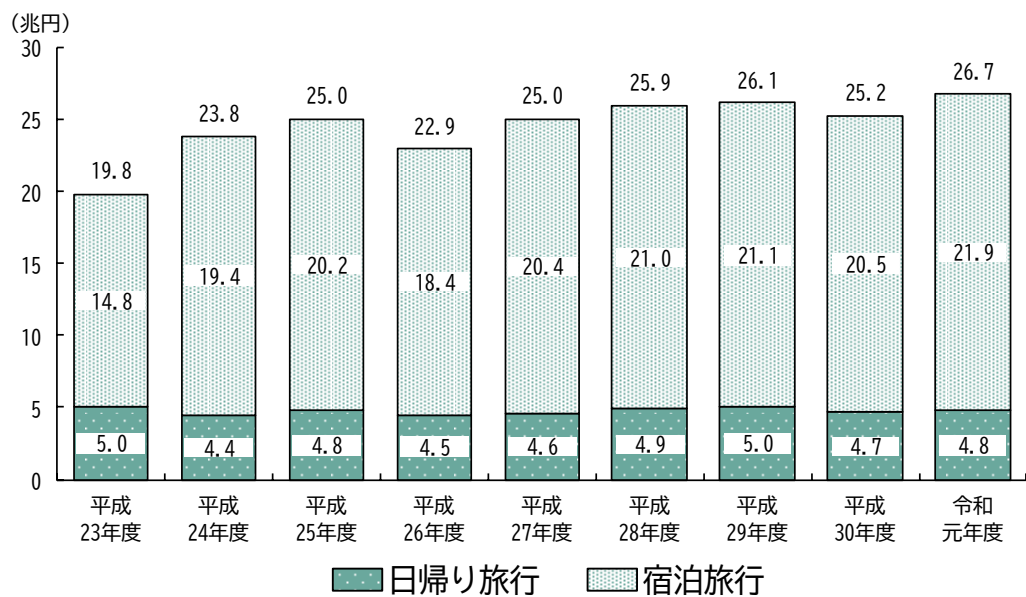
① 日本人国内旅行者数と旅行消費額の推移

日本人国内旅行者数は、平成26年度（2014年度）と平成29年度（2017年度）を除き、日帰り旅行者数に比べ宿泊者数が多くなっています。また、全年度で旅行消費額が日帰り旅行に比べ宿泊旅行が大幅に上回っています。

日本人国内旅行者数の推移



旅行消費額



資料：観光庁 2019「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」



② 旅行形態別の消費単価

観光庁が実施した「旅行・観光消費動向調査」の旅行形態別の消費単価を見ると、宿泊旅行は日帰り旅行に比べ約3.6倍となり、宿泊旅行を推進することで、より経済波及効果が高くなることが分かります。

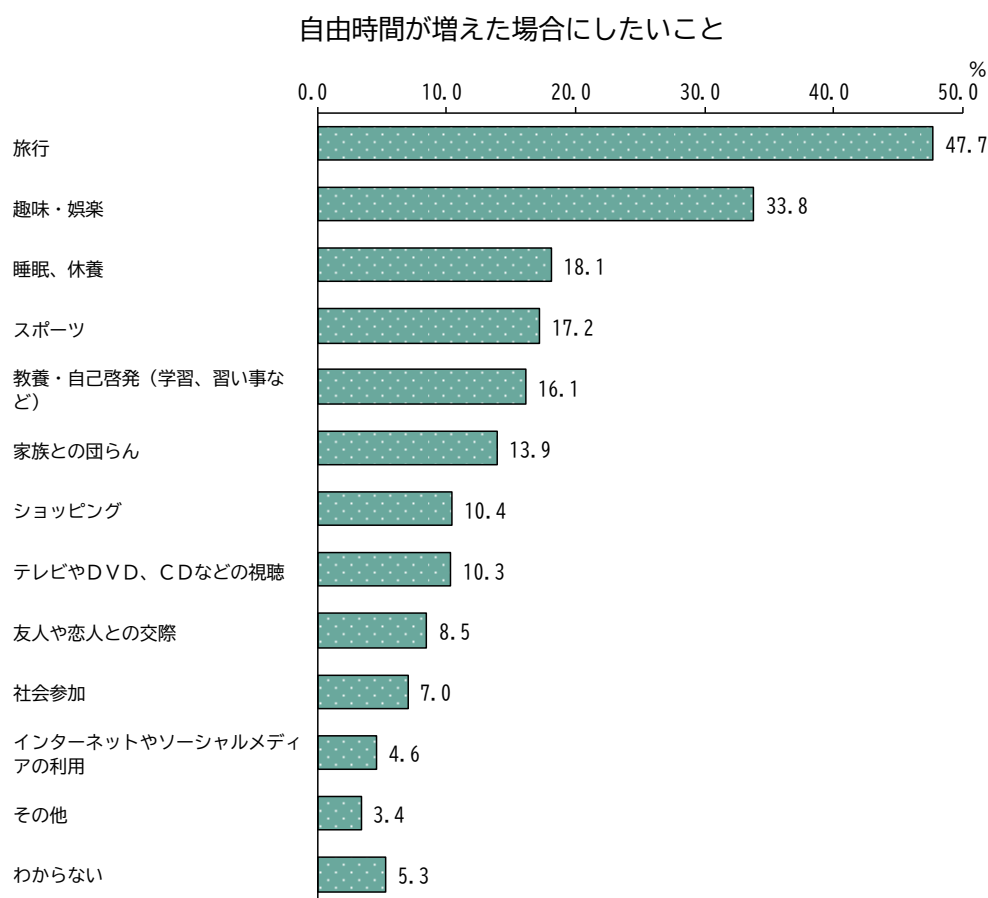
旅行形態別の消費単価

	観光・レクリエーション			
	旅行経験率 (%)	旅行平均回数 (回／人)	旅行単価 (円／人回)	平均泊数 (泊／人回)
宿泊旅行	52.03	1.3605	60,995	1.7
日帰り旅行	41.38	1.5556	16,870	—

資料：観光庁 2019「旅行・観光消費動向調査」

③ 国民の観光に関する意識

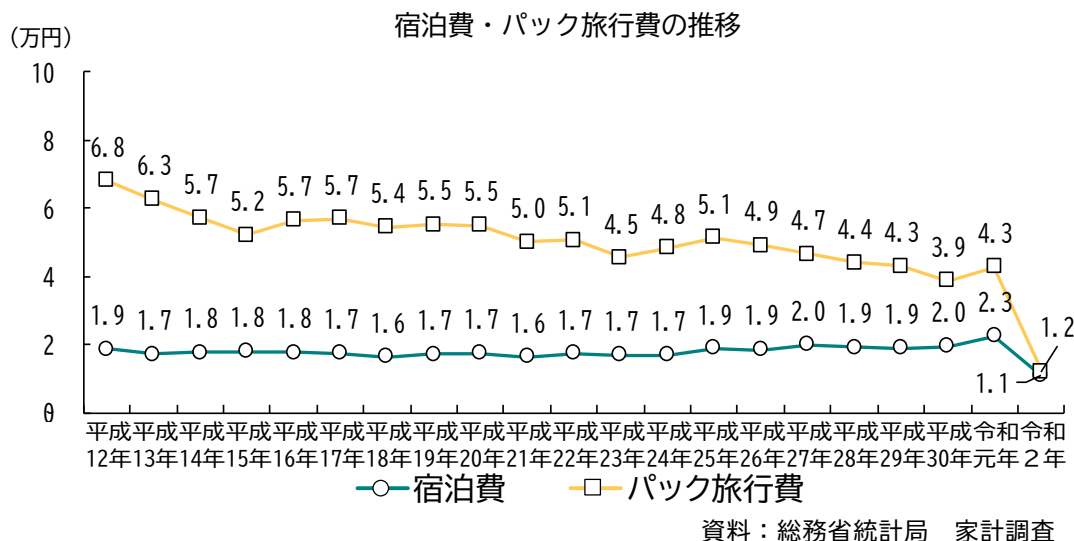
内閣府が実施した「世論調査」によると、自由時間が増えた場合にしたいこととして、「旅行」と答えた方の割合が最も多いです。このことから、旅行に関する需要の高さがうかがえます。



資料：内閣府 2019「世論調査」

④ 家計に占める宿泊費・パック旅行費の推移

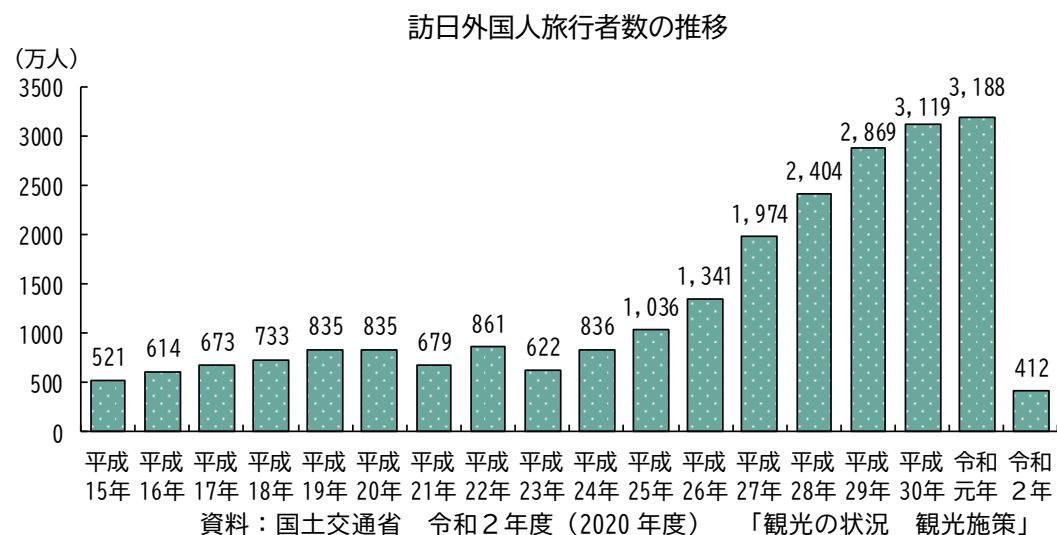
総務省統計局が実施した「家計調査」によると、家計に占める宿泊費は新型コロナウイルス感染症の流行前の令和元年（2019年）までは横ばいで推移しており、パック旅行費は減少傾向にあることがわかります。



(イ) 訪日外国人旅行者について

① 訪日外国人旅行者数の推移

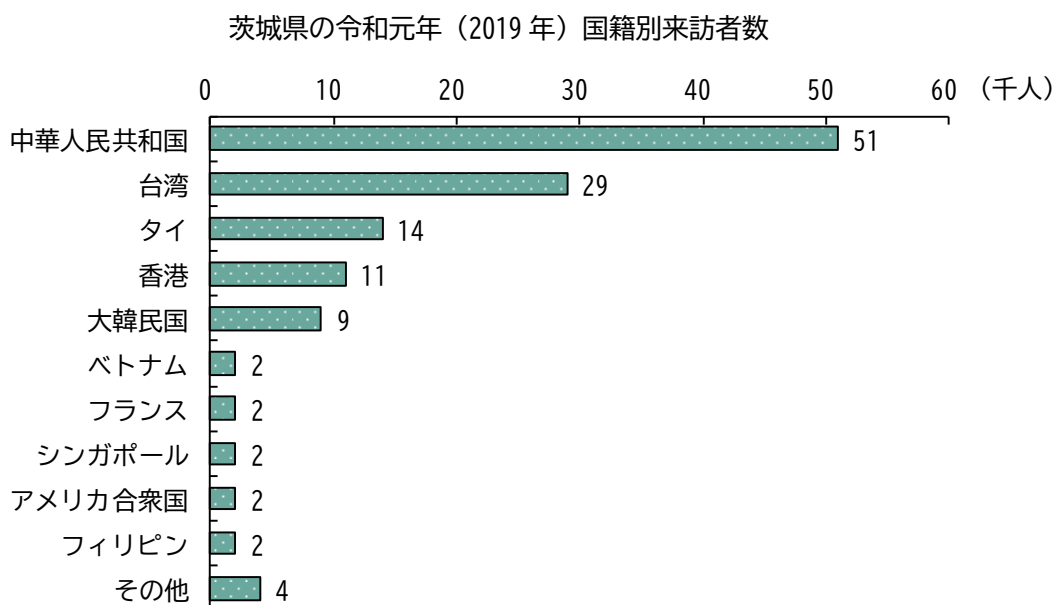
国土交通省「観光の状況 観光施策」によると、訪日外国人旅行者数は、平成21年（2009年）のリーマンショック、平成23年（2011年）の東日本大震災の影響で落ち込んだものの、それ以降は急増しています。しかしながら、令和2年（2020年）には新型コロナウイルス感染症の流行により、海外からの渡航が規制されたことで大幅に減少しています。





② 茨城県の令和元年（2019 年）国籍別来訪者数

地域経済分析システムや観光庁、日本政府観光局の報告によると、茨城県の令和元年（2019年）の国籍別来訪者数は、アジア圏からの訪問者が上位を占めており、特に「中華人民共和国」からの来訪者が最も多く、次いで「台湾」、「タイ」、「香港」となっています。



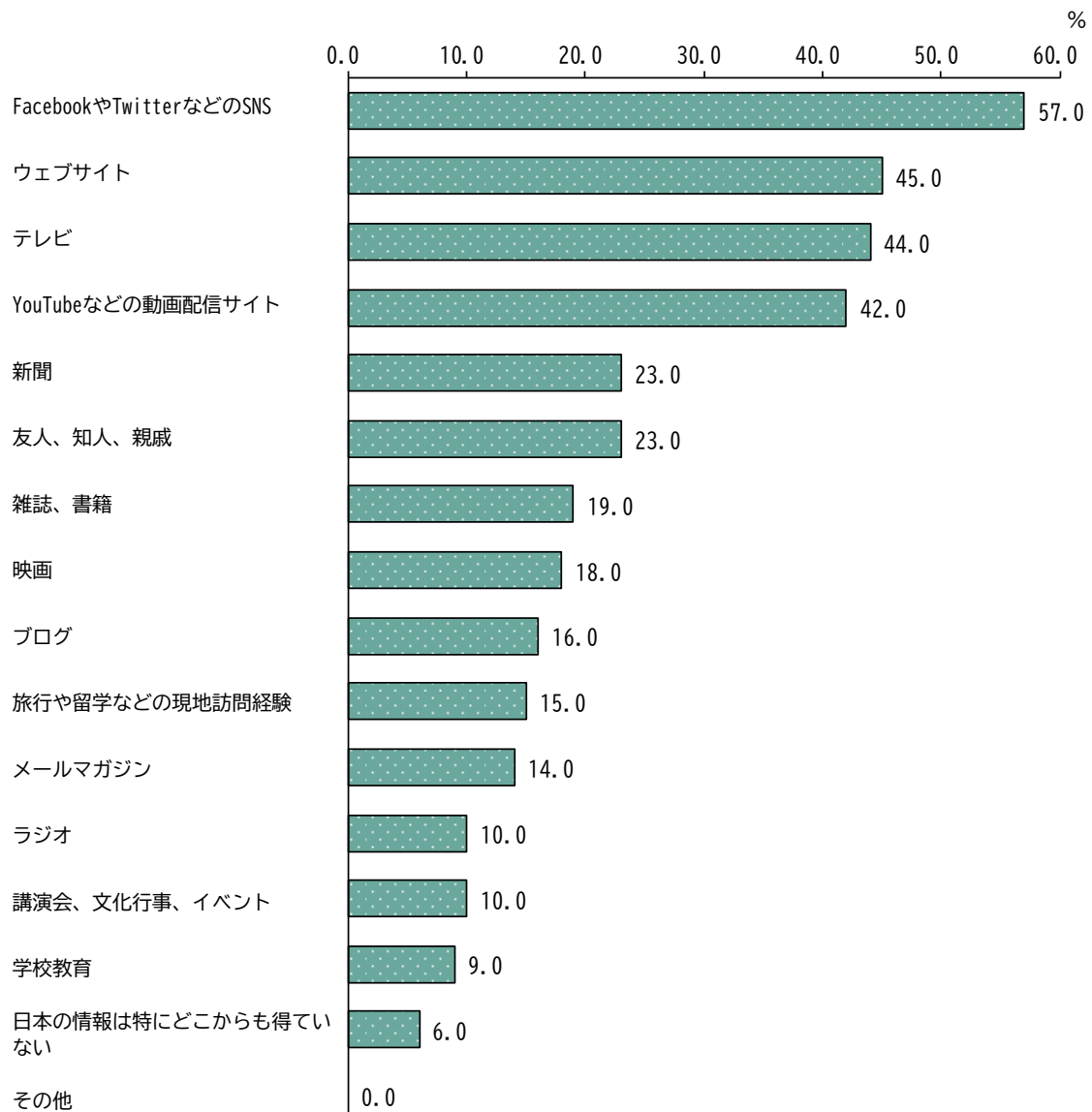
資料：地域経済分析システム（RESAS）

観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」
【注記】「地域別の訪日外客数＝地域別の訪問率【観光・レジャー目的】×訪日外客数
×旅行目的別構成比【観光・レジャー目的】」により推計している。

③ 日本の情報の取得媒体（ASEAN 諸国に関するデータ）

外務省が実施した「海外における対日世論調査」によると、茨城県の外国人旅行者の中でも比較的割合の多いASEAN諸国では、日本の情報をSNSやウェブサイトなどのデジタル媒体で収集している人が多いことがうかがえます。

日本の情報の取得媒体（ASEAN 諸国に関するデータ）



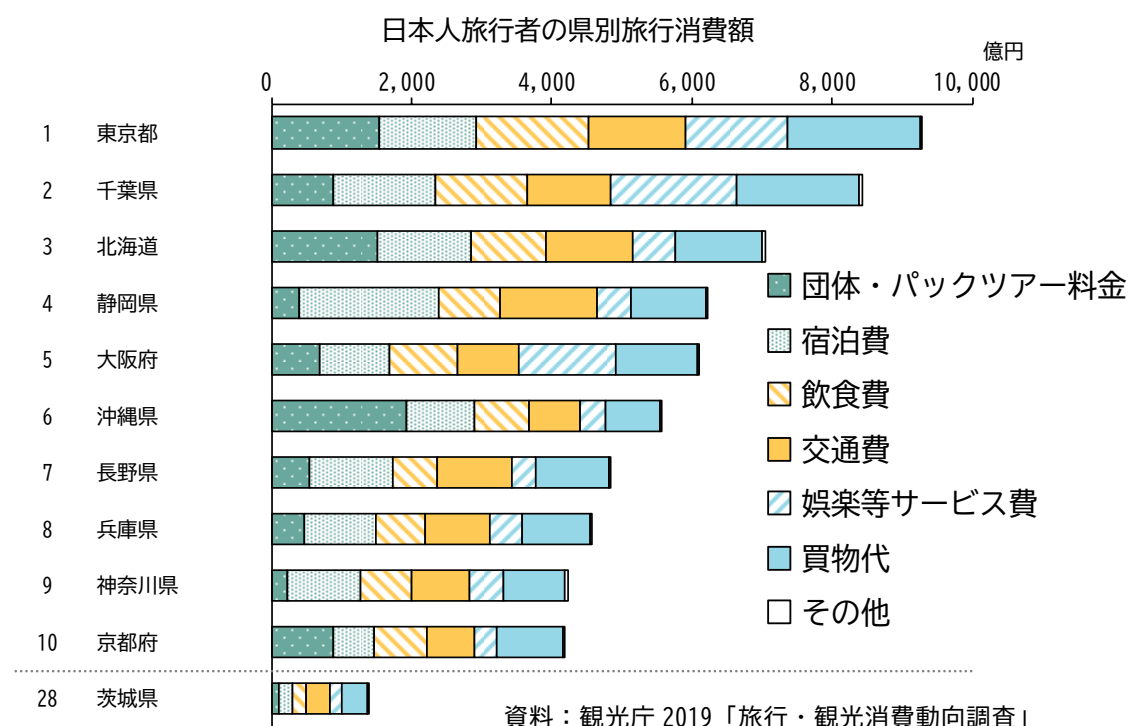
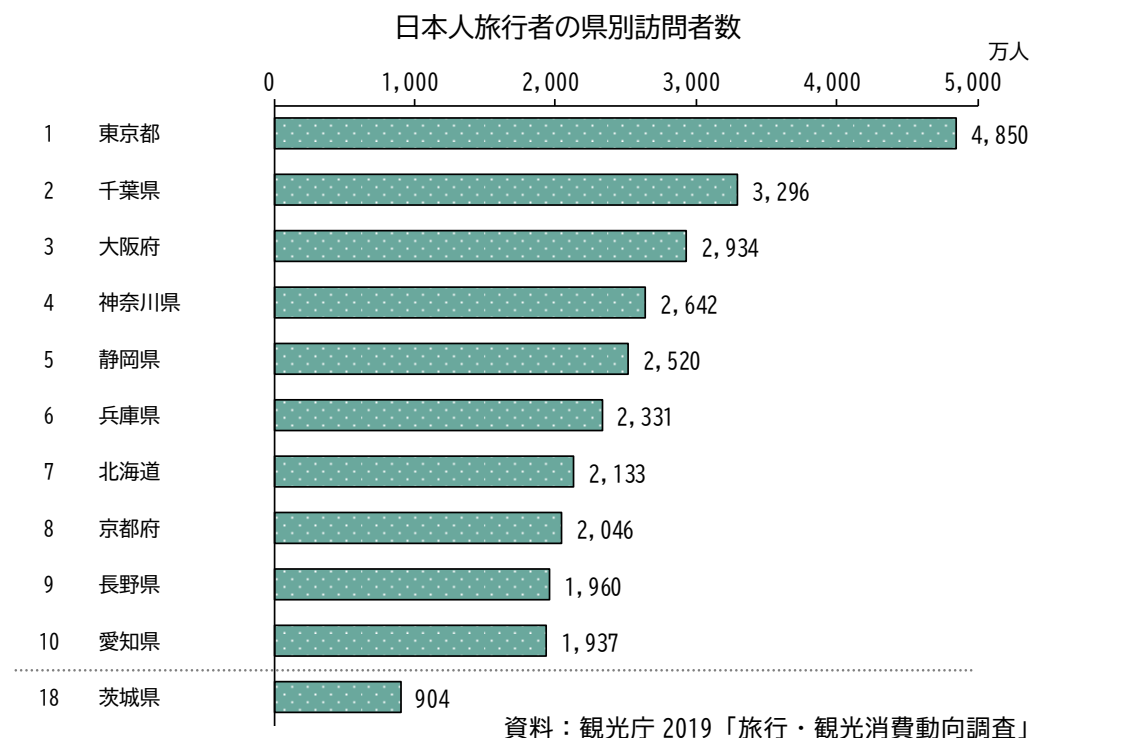
資料：外務省 2019「海外における対日世論調査」



イ 県の観光動向

① 日本人旅行者の県別訪問者数・旅行消費額

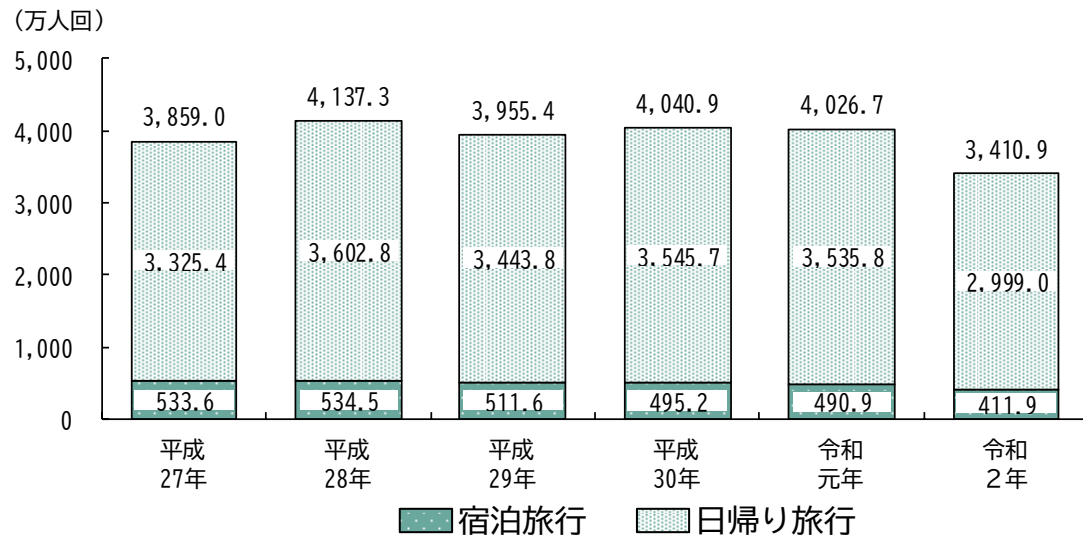
観光庁が実施した「旅行・観光消費動向調査」によると、令和元年度（2019年度）の県別訪問者数の順位で、茨城県は18位でした。一方で、旅行消費額については28位であることから、茨城県は来訪者数が多いものの、旅行消費額は少ないことがうかがえます。



② 茨城県の旅行形態別観光客数の推移

茨城県「茨城県の観光レクリエーション現況」によると、茨城県の観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症流行以前の5年間は大幅な増減がありませんでした。また、旅行形態としては日帰り旅行が宿泊旅行の約7倍となっています。

茨城県の旅行形態別観光客数の推移

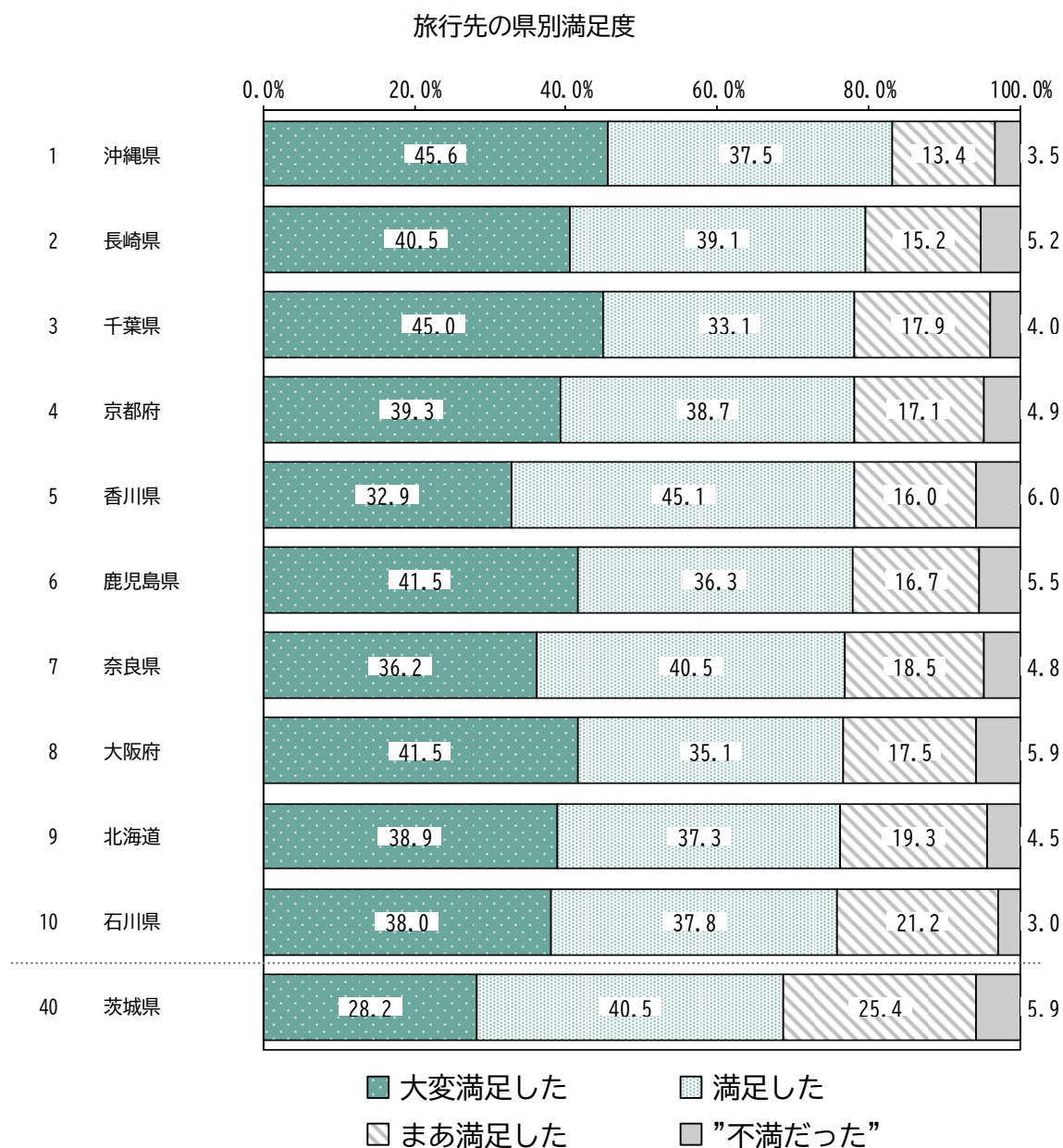


資料：茨城県「茨城県の観光レクリエーション現況（令和2年（2020年）観光客動態調査報告）」



③ 旅行先の県別満足度

公益社団法人日本観光振興協会「観光の実態と志向」によると、旅行先における県別の旅行満足度について、全国的に見て茨城県は満足度が低い傾向にあります。

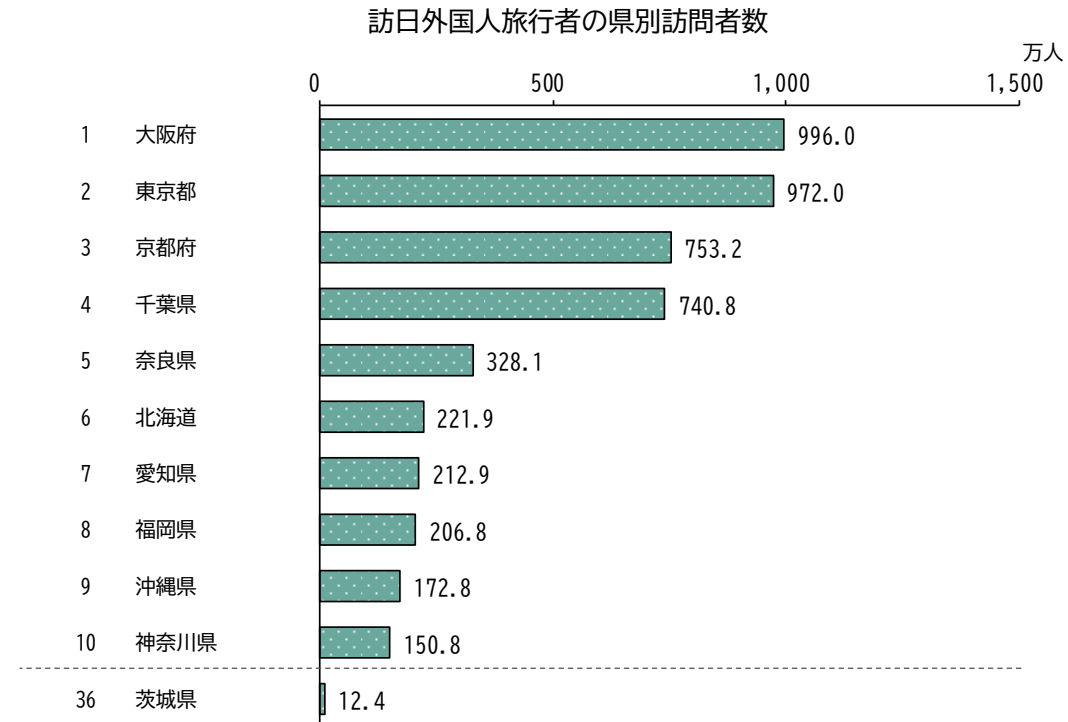


資料：公益社団法人日本観光振興協会 令和元年度版 観光の実態と志向

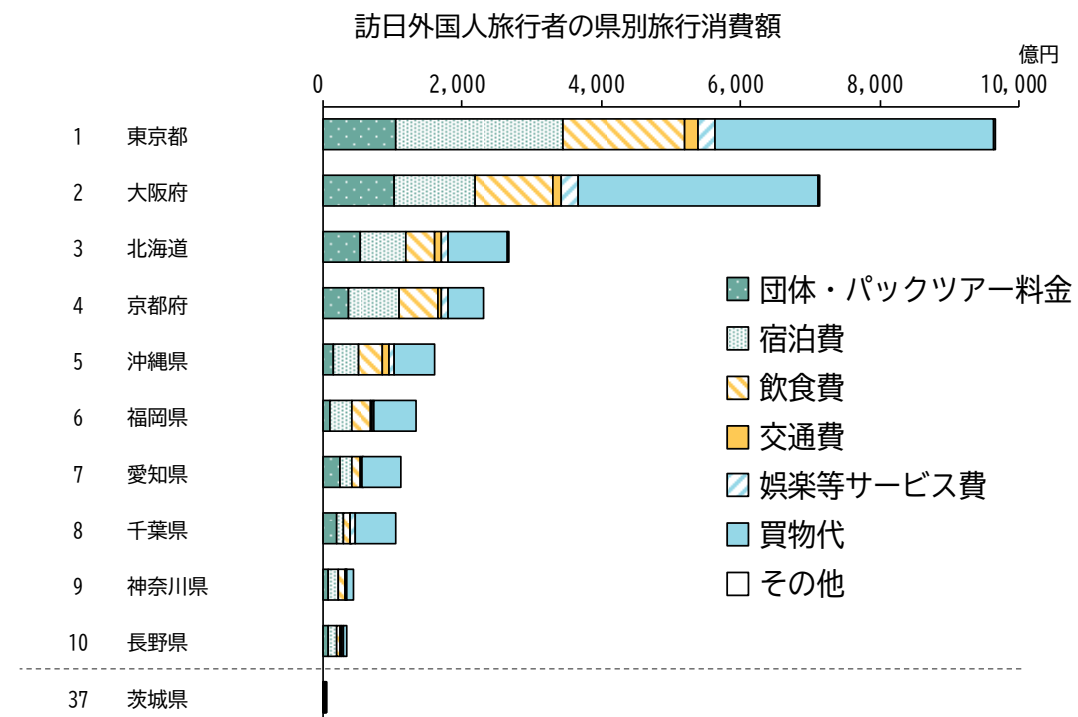
【注記】「” 不満だった”」は、「どちらともいえない」、「やや不満だった」、「不満だった」、「大変不満だった」を合わせた割合。

④ 訪日外国人旅行者の県別訪問者数・旅行消費額

観光庁が実施した「旅行・観光消費動向調査」によると、茨城県は、訪日外国人旅行者の県別訪問者数が36位、旅行消費額が37位となっていることから、全国的に見て訪日外国人旅行者の来訪が少ないことがうかがえます。



資料：観光庁 2019「旅行・観光消費動向調査」

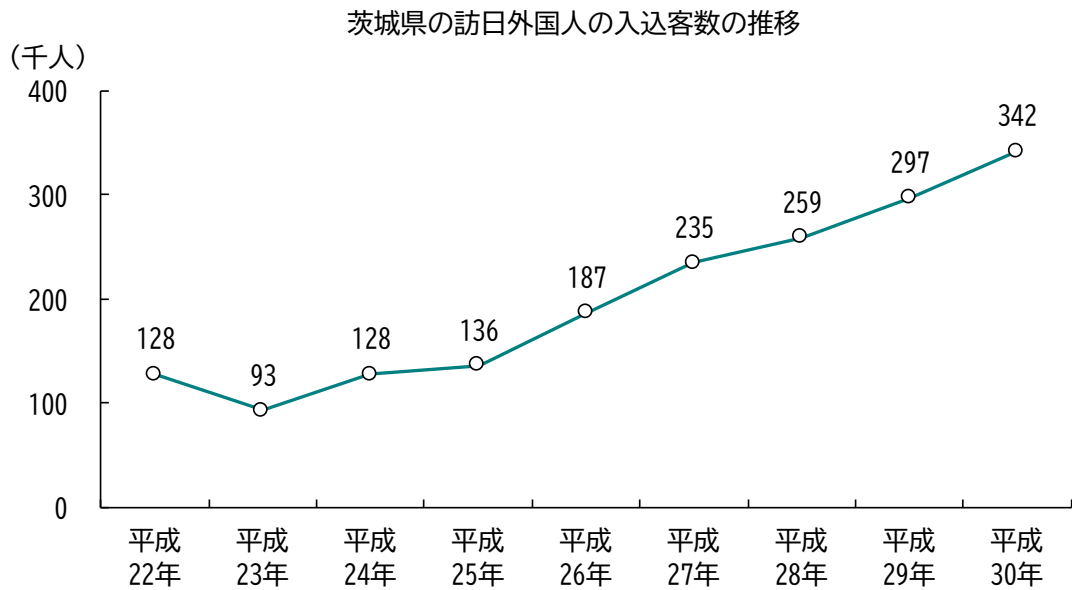


資料：観光庁 2019「旅行・観光消費動向調査」



⑤ 茨城県の訪日外国人の入込客数の推移

茨城県「茨城の観光レクリエーション現況（観光客動態調査報告）」によると、訪日外国人の入込客数は、新型コロナウイルス感染症の拡大前において、平成23年（2011年）に一旦減少しているものの、その後は年々増加し、平成30年（2018年）には34万2千人となっています。



資料：茨城県「茨城の観光レクリエーション現況（観光客動態調査報告）」



(ウ) つくば市の観光を取りまく現状

つくば市では、豊富な観光資源を活用し、筑波山地域ジオパークやつくばサイエンスツアーなどの特徴的な取組を行ってきました。また、まつりつくばや筑波山梅まつり等の観光イベントの開催により、観光客の集客が図られています。

つくば市の観光入込客数は、令和元年度（2019年度）には420万人を超え、第2次観光基本計画時の目標値を達成しました。（P26 ア 観光入込客数の推移参照）

しかし、世界的に蔓延した新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度（2020年度）観光入込客数は大幅に減少しました。こうした現状から、今後は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮するとともに、その収束後を見据えた観光振興施策の取組が必要です。



〔筑波山〕

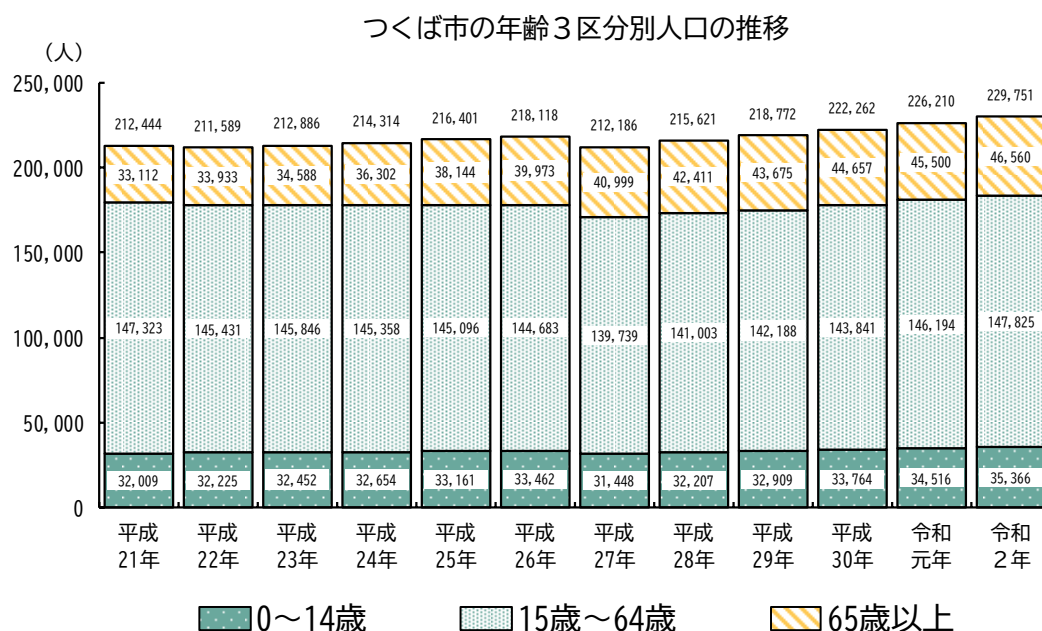
4 統計データからみえるつくば市の現状

(1) 人口

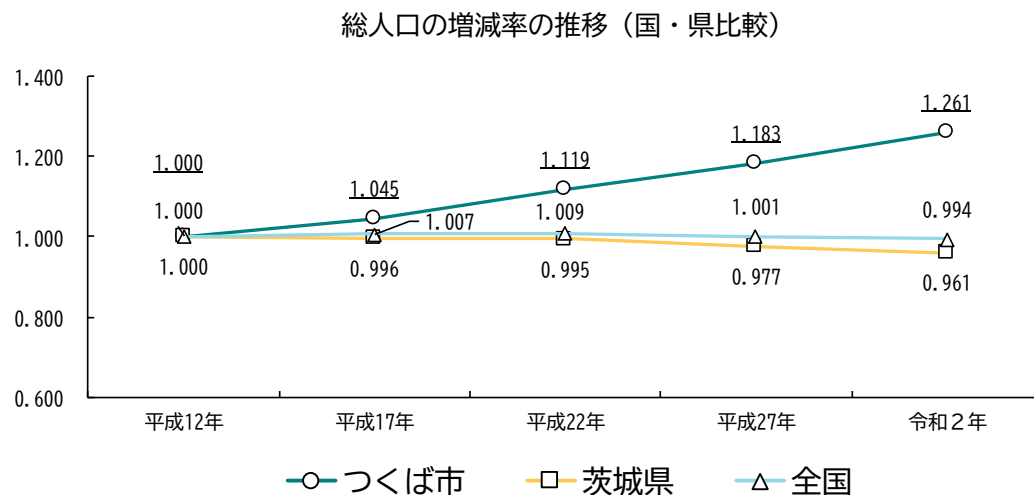
ア つくば市の年齢3区分別人口の推移及び総人口の増減率の推移（国・県比較）

つくば市の総人口は、平成27年（2015年）で一旦減少しましたが、再び増加に転じ、令和2年（2020年）には総人口が229,751人となりました。3区分別人口は、65歳以上が令和2年（2020年）には平成21年（2009年）の1.4倍と急増しています。

さらに、総人口の増減率の推移をみると、全国、茨城県の増減率は減少傾向にありますが、つくば市は増加傾向となっています。



資料：茨城県の年齢別人口（茨城県常住人口調査結果）四半期報（各年10月現在）



資料：国勢調査

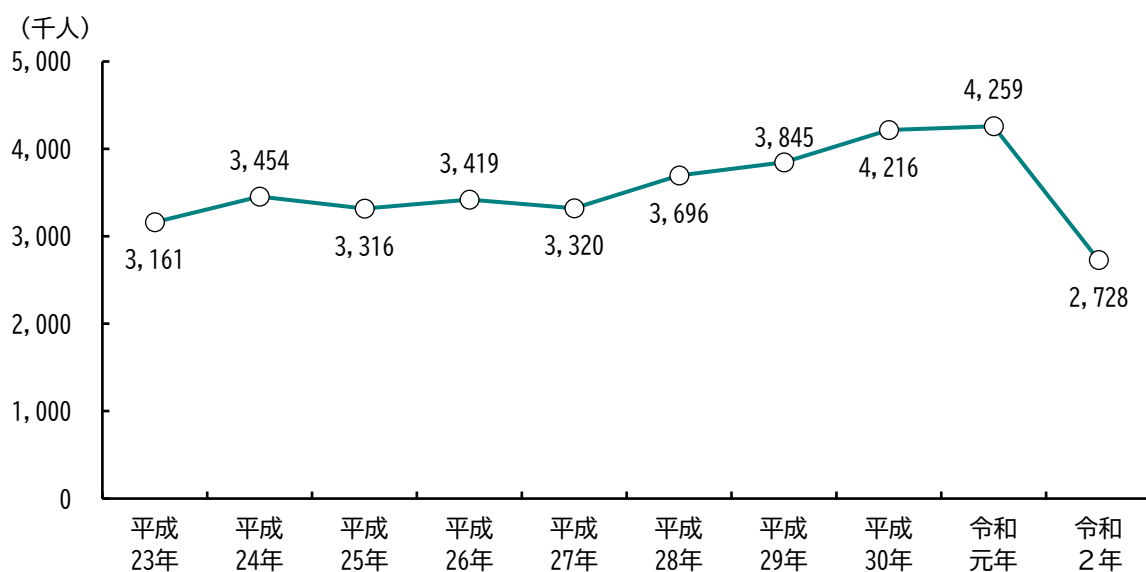
(2) 観光動向

ア 観光入込客数の推移（つくば市）

つくば市の観光入込客数の増減率の推移をみると、茨城県に比べて増加率は比較的緩やかですが、令和元年（2019年）まで増加傾向にありました。

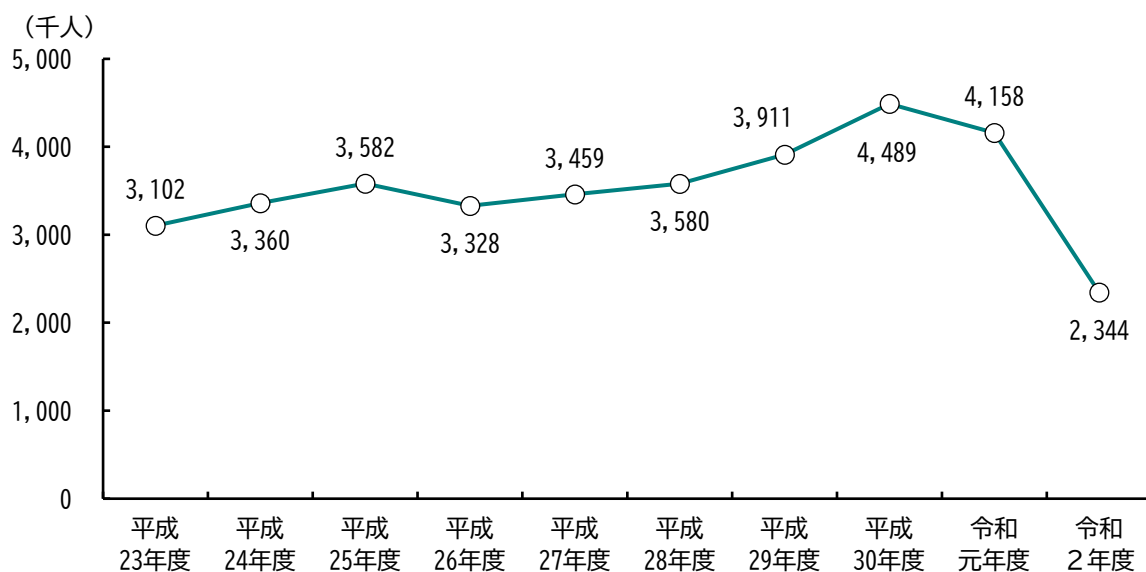
その後、令和2年（2020年）には新型コロナウイルス感染症の影響で減少に転じています。

【年集計】観光入込客数の推移（つくば市）



資料：つくば市観光推進課

【年度集計】観光入込客数の推移（つくば市）

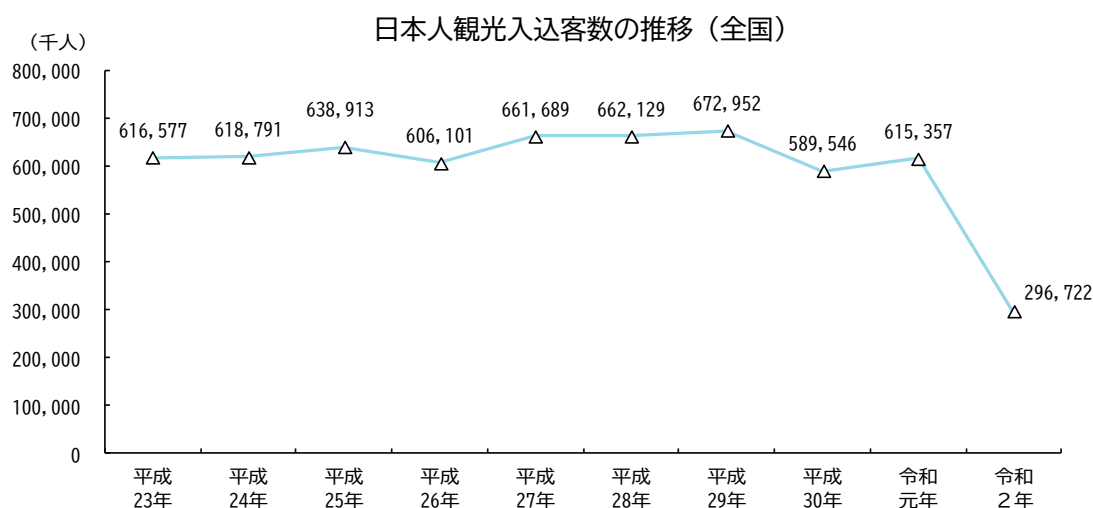


資料：つくば市観光推進課



イ 日本人観光入込客数の推移（全国）

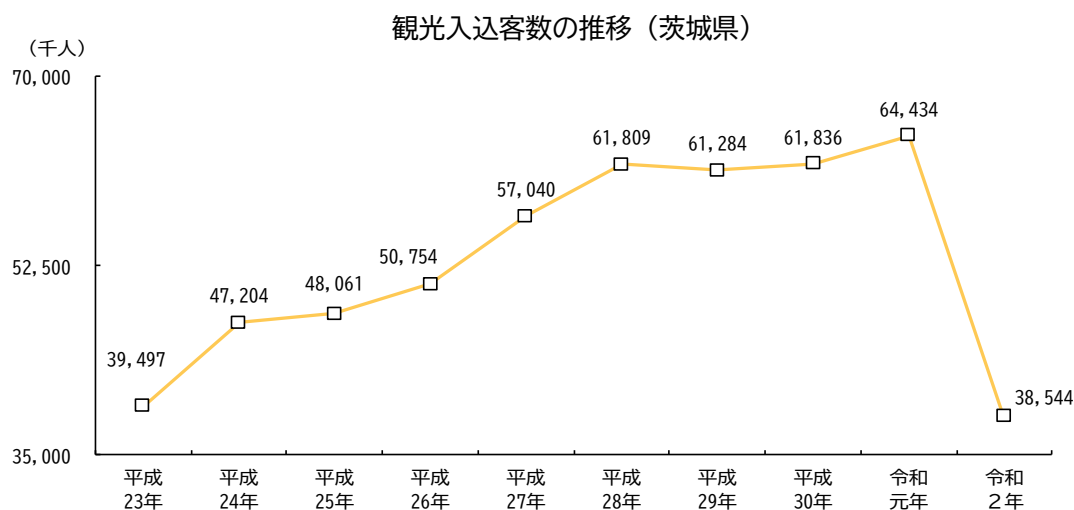
全国の日本人観光入込客数の推移をみると、平成29年（2017年）まで横ばいで推移していましたが、平成30年（2018年）には減少に転じています。その後、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年（2020年）には、296,722千人まで減少しています。



資料：日本人：観光庁「旅行・観光消費動向調査」、外国人：日本政府観光局（JNTO）
各調査は調査方法が異なるため、合計値は参考値

ウ 観光入込客数の推移（茨城県）

茨城県の観光入込客数の推移をみると、平成23年（2011年）から令和元年（2019年）まで増加傾向にあり、令和元年では64,434千人（延べ人数）となりました。その後、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年（2020年）には、38,544千人まで減少しています。

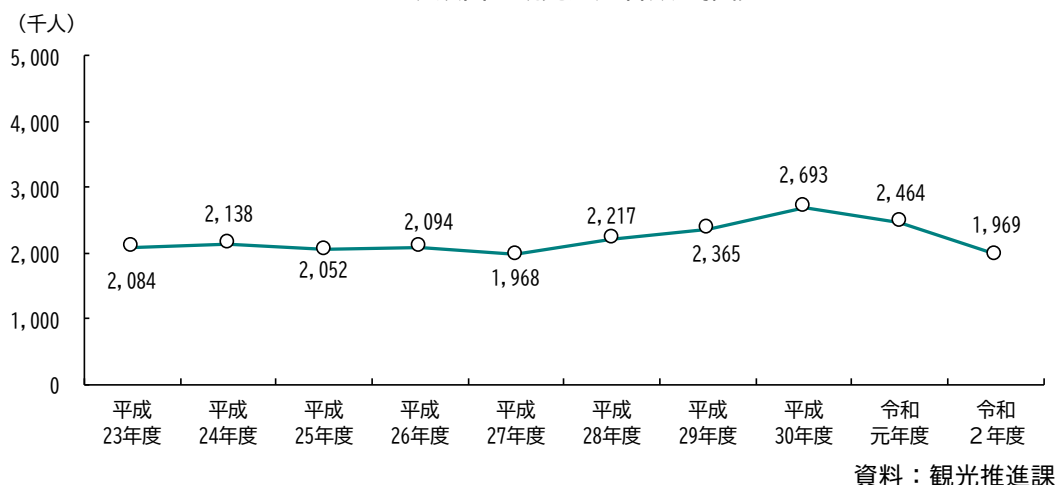


資料：茨城の観光レクリエーション現況
茨城県の令和2年（2020年）は【観光客動態調査の結果】より引用
【注記】入込客数は県内の観光地点及び行祭事・イベントの入込客数を単純合計した入込客の総数（延べ人数）。

エ 筑波山の観光入込客数の推移

筑波山の観光入込客数の推移をみると、平成27年度（2015年度）以降年々増加していましたが、令和元年度（2019年度）には、秋の行楽シーズンの天候不順による影響がみられ、令和2年度（2020年度）には、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、減少しています。

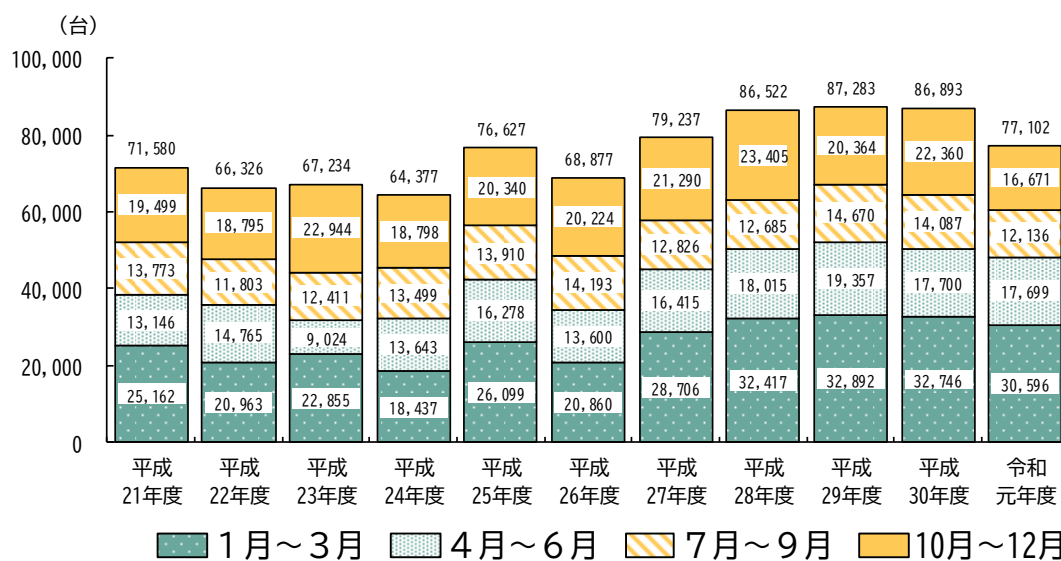
筑波山の観光入込客数の推移



オ 筑波山市営駐車場利用台数の推移

筑波山市営駐車場利用台数の推移をみると、平成21年度（2009年度）以降増減を繰り返しながら増加し、平成28年度（2016年度）には86,522台となっています。それ以降は横ばいで推移し、令和元年度（2019年度）には77,102台に減少しています。

筑波山市営駐車場利用台数の推移

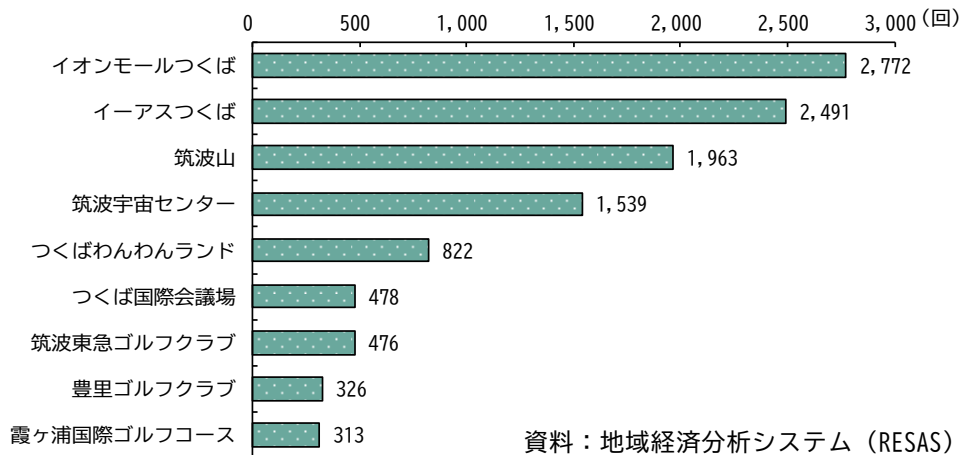




カ 令和元年（2019 年）休日期間のインターネットによる目的地検索の上位目的地（自動車利用者）

令和元年（2019年）休日期間の目的地検索の上位目的地は、「イオンモールつくば」が2,772回と最も多く、次いで「イーアスつくば」が2,491回、「筑波山」が1,963回となっています。

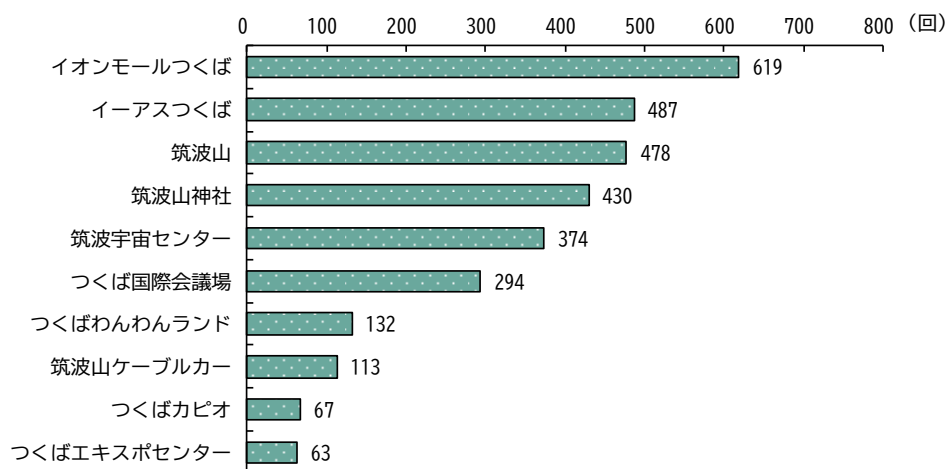
令和元年（2019 年）休日期間のインターネットによる目的地検索の上位目的地（自動車利用者）



キ 令和元年（2019 年）休日期間のインターネットによる目的地検索の上位目的地（公共機関利用者）

令和元年（2019年）休日期間の目的地検索の上位目的地は、「イオンモールつくば」が619回と最も多く、次いで「イーアスつくば」が487回、「筑波山」が478回となっています。

令和元年（2019 年）休日期間のインターネットによる目的地検索の上位目的地（公共機関利用者）



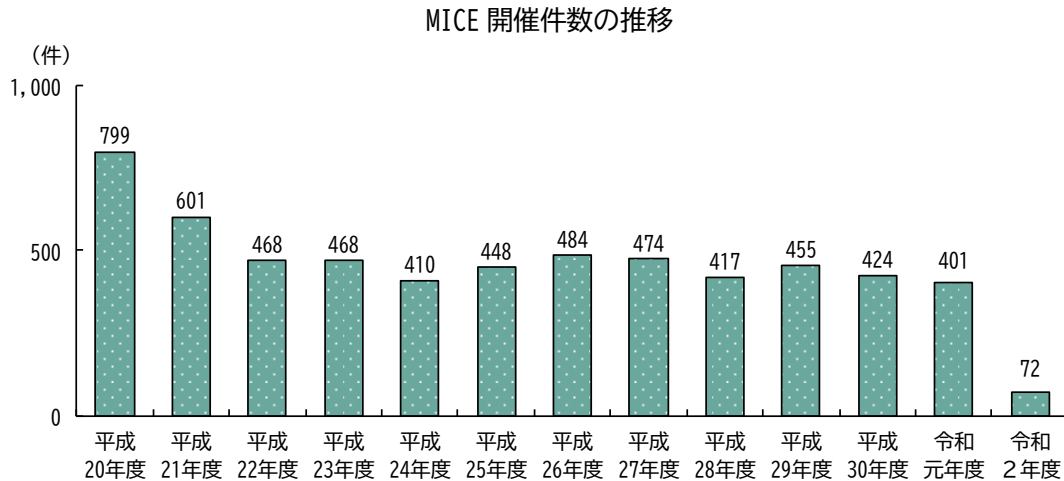
【注記】 検索回数は、同一ユーザの重複を除いた月間のユニークユーザ数。

下記条件にすべて該当した場合にのみ表示。

- ・施設分類が、観光資源、宿泊施設や温泉、広域からの集客が見込まれるレジャー施設や商業施設に該当
- ・年間検索回数が自動車は 50 回、公共交通は 30 回以上
- ・年間検索回数が全国 1,000 位以内または都道府県別 50 位以内または市区町村別 10 位以内

ク MICE開催件数の推移

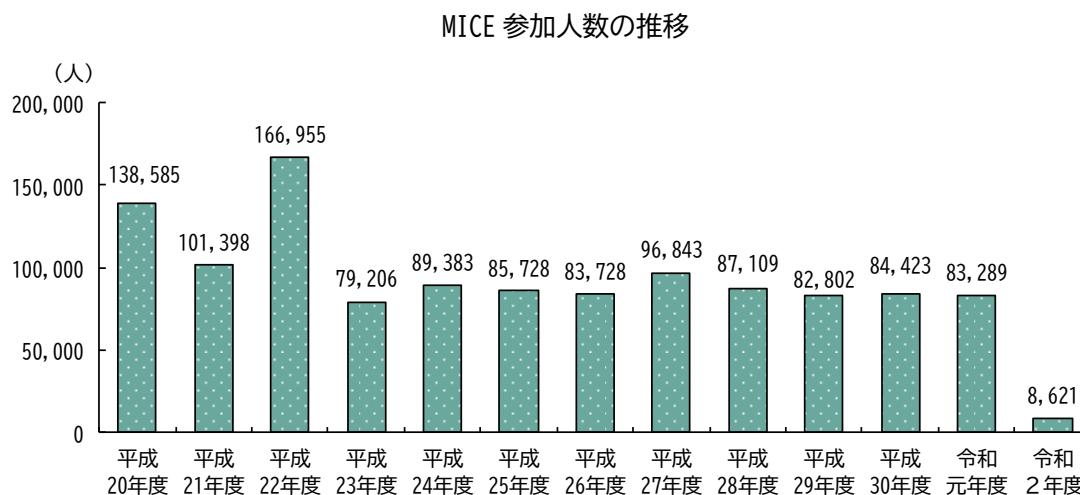
MICE開催件数の推移をみると、平成22年度（2010年度）以降は400件台で増減を繰り返しながら推移していましたが、令和2年度（2020年度）には新型コロナウイルス感染症の影響により大幅な減少となりました。



資料：つくば観光コンベンション協会

ケ MICE参加人数の推移

MICE参加人数の推移をみると、平成22年度（2010年度）に166,955人を記録した後、平成23年度（2011年度）以降は8～9万人台で推移しています。令和2年度（2020年度）は新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少しています。



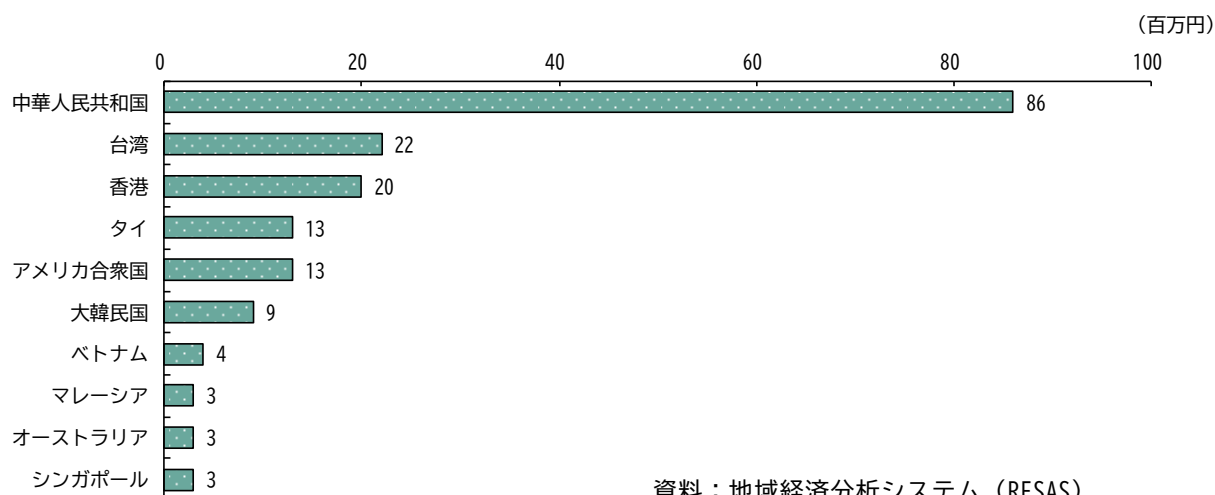
資料：つくば観光コンベンション協会



コ 茨城県の国籍別外国人訪問客がクレジットカードを使用した消費額 (令和元年(2019年)9月)

茨城県の令和元年(2019年)9月の国籍別消費額をみると、「中華人民共和国」が86百万円と最も高額で、次いで「台湾」、「香港」となっています。

茨城県の国籍別外国人訪問客がクレジットカードで使用した消費額(令和元年(2019年)9月)



資料：地域経済分析システム(RESAS)

【注記】消費額は、外国人訪問客がクレジットカードで使用した消費額を地域別のシェア率等から算出した金額。

国・地域は、カード所有者の居住地であるため、観光客以外の永住者・定住者による消費額も含まれる。

サ つくば市の文化財の概要

つくば市に現存する文化財は、以下のとおりです。

単位:件

	有形文化財						無形文化財	記念物	記念物	合計
	建造物	絵画	彫刻	工芸品	書跡	考古資料	民俗文化財	史跡	天然記念物	
国指定	1	0	0	2	0	0	0	3	1	7
県指定	8	5	2	7	2	1	0	2	2	29
市指定	8	16	23	7	0	6	8	6	9	83
国登録	23	0	0	0	0	0	0	0	0	23
市認定	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
合計	40	21	25	16	2	7	9	11	12	143

資料：つくば市文化財保存活用計画

「市民が誇り、市民とともに伝える文化財」へ向けて(平成30年(2018年)11月時点)

5 アンケート結果の概要

(1) 市外・県外在住者向けアンケート

市外・県外在住者向けに実施したインターネット調査結果のうち、主要結果を抜粋し、市外・県外からの本市への観光の現状及び意識を整理しました。

ア 調査の目的

観光地としての知名度や観光の意向、これまでの観光の経験と魅力評価、期待するもの等を質問し、今後の本市観光振興に何が求められているかを把握することを目的に実施。

イ 調査期間

令和3年（2021年）7月21日～令和3年（2021年）7月30日

ウ 調査対象

関東圏（東京・神奈川・千葉・埼玉・群馬・栃木・茨城）在住者のうち、18歳以上の男女 ※ただし、つくば市在住者は除く

エ 回収数 1,049通

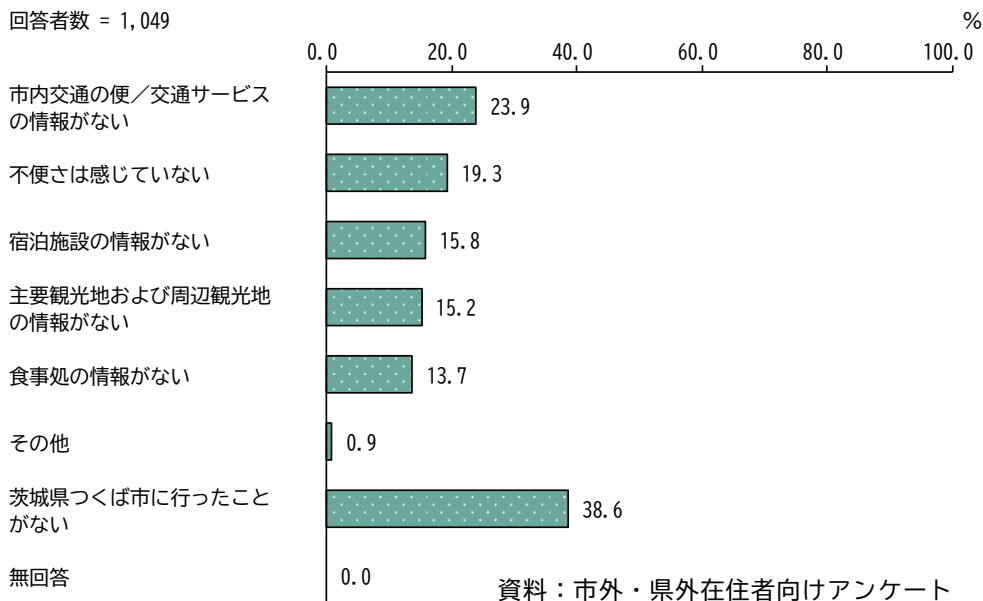
オ 主な結果

（ア）つくば市を観光する際の不便な点について

「市内交通の便／交通サービスの情報がない」が最も多く23.9%となっています。

設問：茨城県つくば市を観光するにあたり、どのようなところに不便さを感じますか

回答者数 = 1,049

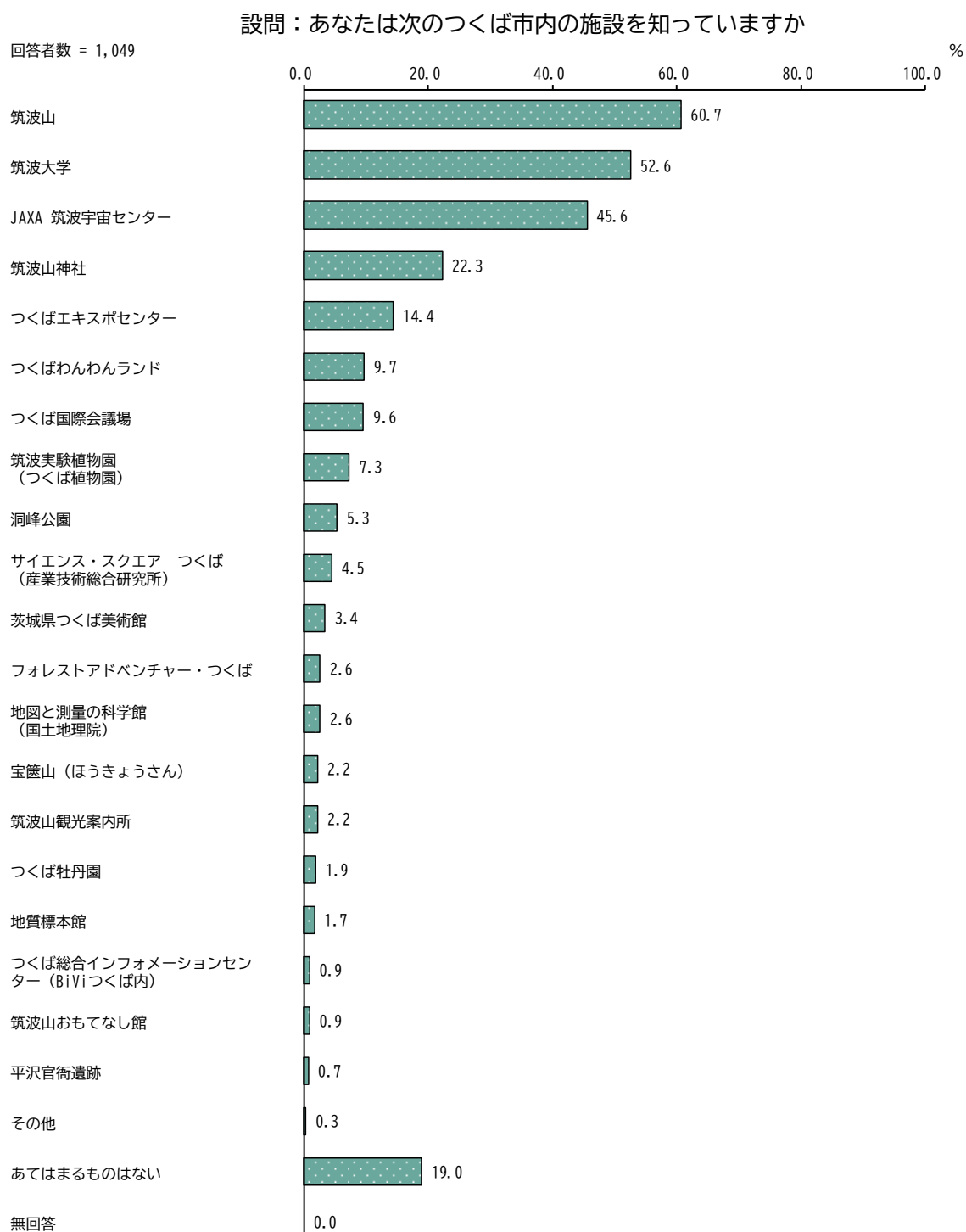


資料：市外・県外在住者向けアンケート



(イ) つくば市内の施設の認知度について

「筑波山」の割合が60.7%と最も高く、次いで「筑波大学」の割合が52.6%、「筑波宇宙センター」の割合が45.6%となっています。



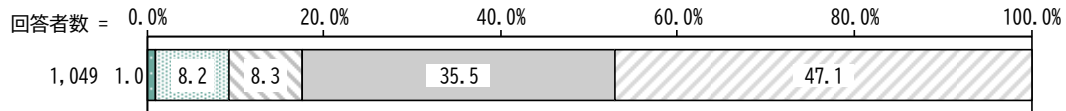
資料：市外・県外在住者向けアンケート



(ウ) 筑波山地域ジオパークの認知度について

「名前も聞いたことがないし興味はない」の割合が47.1%と最も高く、次いで「名前も聞いたことがないが興味がある」の割合が35.5%となっています。

設問：筑波山地域ジオパークを知っていますか



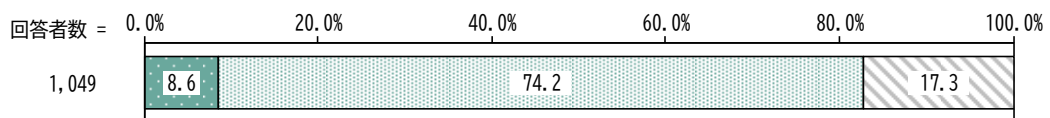
- よく知っている
- よく知らないが名前は聞いたことがあるが興味がある
- 名前は聞いたことがあるが興味はない
- 名前も聞いたことがないが興味がある
- 名前も聞いたことがないし興味はない
- 無回答

資料：市外・県外在住者向けアンケート

(エ) つくば市での観光消費意欲について

「わからない」の割合が74.2%と最も高く、次いで「食べてみたい・買ってみたいものはない」の割合が17.3%となっています。

設問：つくば市で食べてみたいもの・買ってみたいものはありますか



- ある
- わからない
- 食べてみたい・買ってみたいものはない
- 無回答

資料：市外・県外在住者向けアンケート

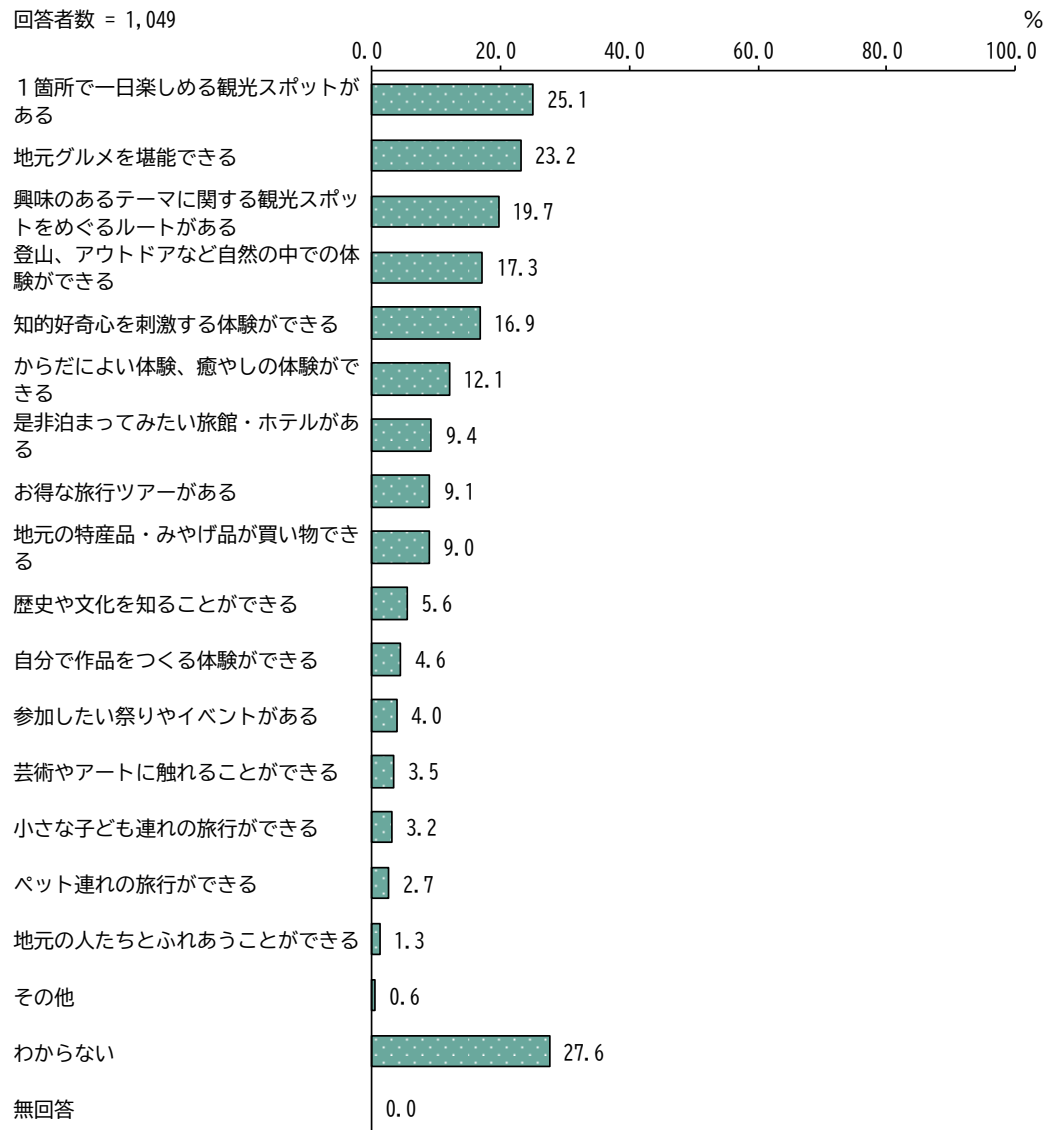


(オ) つくば市への観光動機について

「1箇所で一日楽しめる観光スポットがある」の割合が25.1%と最も高く、次いで「地元グルメを堪能できる」の割合が23.2%、「興味のあるテーマに関する観光スポットをめぐるルートがある」の割合が19.7%となっています。

設問：茨城県つくば市にどのような魅力があれば行きたいと思いますか

回答者数 = 1,049



資料：市外・県外在住者向けアンケート

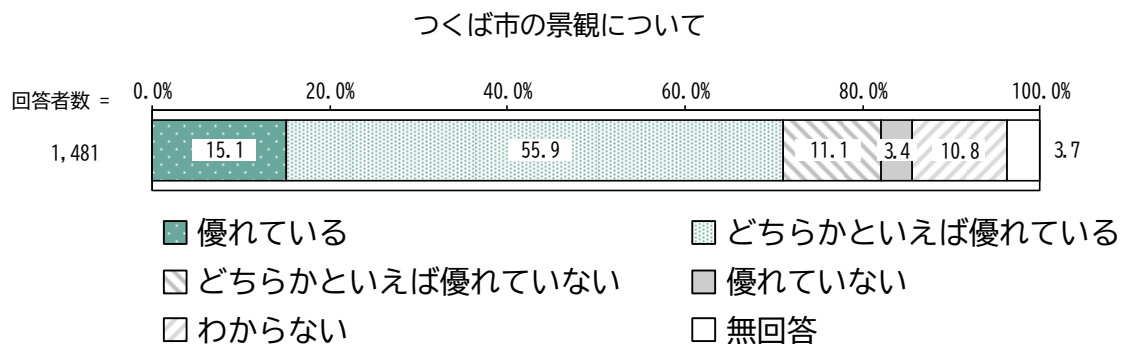
(2) 市民意識調査（令和元年度（2019年度））

つくば市では、市の現状やまちづくりの取組に対する満足度及び市が進める主要な施策に対するご意見をお伺いするために、市民意識調査を実施しています。

令和元年度（2019年度）に本市で行った市民意識調査の中から、「市民が思うつくば市の魅力」、「市民によるつくば市の観光施策の評価」、「市民による観光施策の具体的なニーズ」といった観光に関する設問の結果を抜粋し、市民の観光への意識を整理しました。

ア つくば市の景観について

つくば市の景観について、「優れている」「どちらかといえば優れている」を合わせた割合が7割を超えています。



資料：市民意識調査（令和元年度（2019年度））

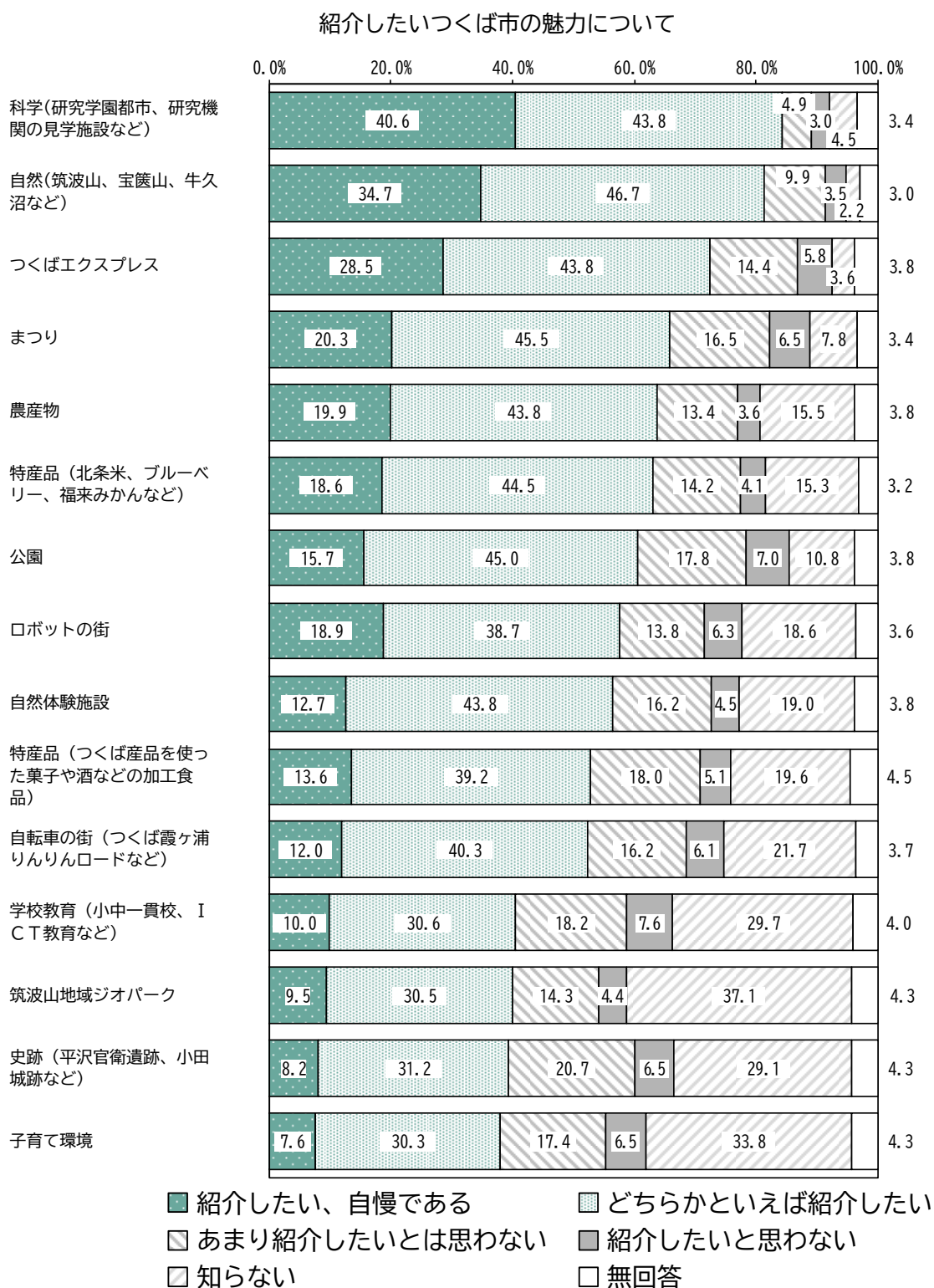


[つくば市内]



イ 紹介したいつくば市の魅力について

紹介したいつくば市の魅力について、「科学(研究学園都市、研究機関の見学施設など)」が40.6%で最も多く、「自然(筑波山、宝篋山、牛久沼など)」が34.7%、「つくばエクスプレス」が28.5%と続いています。

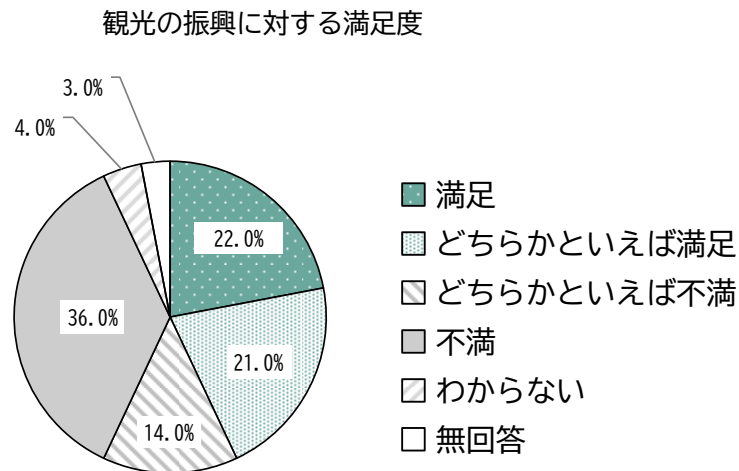


資料：市民意識調査（令和元年度（2019年度））

ウ 観光の振興に対する満足度

観光の振興についての満足度は、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた割合よりも、「どちらかといえば不満」「不満」と答えた割合が高く、満足度が低い傾向にあります。

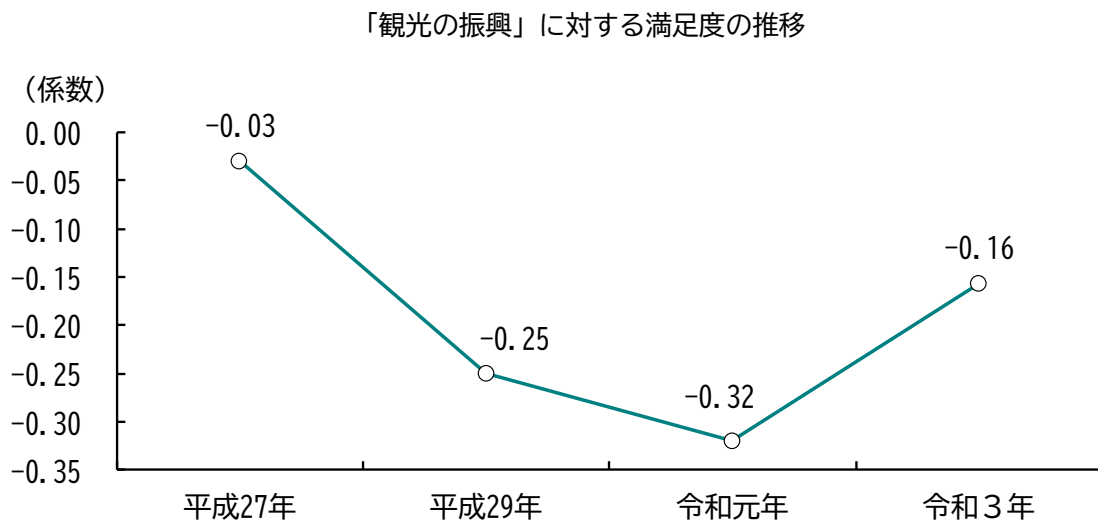
また、市の現状や取組について同様の質問項目（全42項目）の回答のうち、観光の振興に対する満足度の順位は40位と、低い結果となっています。



エ 「観光の振興」に対する満足度の推移

「観光の振興」に対する満足度の回答について、以下の方法で点数化し、調査年ごとの推移をみると、観光の振興に対する満足度は、年々下がっていることがわかります。

なお、令和3年（2021年）の速報値によると、満足度は上向きに転じています。





<満足度の算出方法>

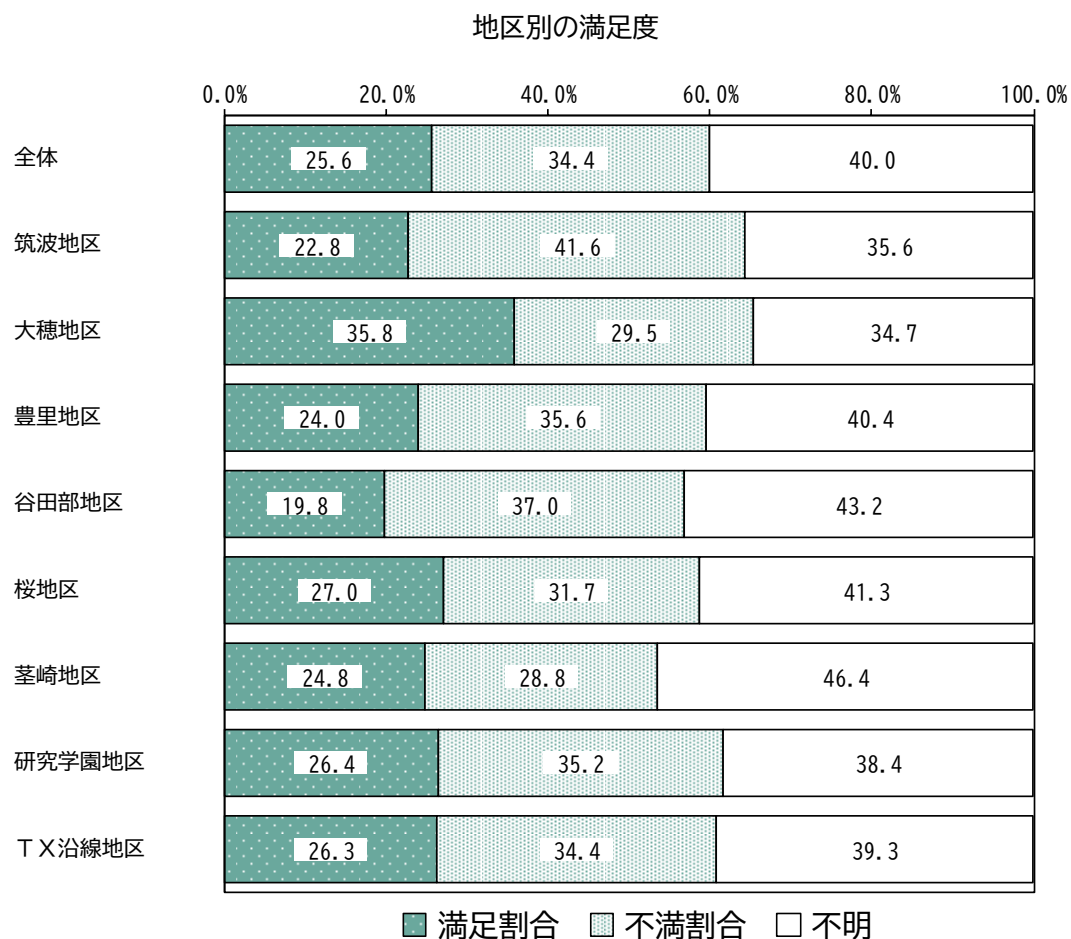
以下の表のとおり点数化をし、「わからない」「無回答」を除く回答者数で平均値を算出。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	わからない・無回答
各回答の点数	2点	1点	-1点	-2点	対象外

オ 地区別満足度

「満足」「どちらかといえば満足」と答えた割合を「満足割合」、「どちらかといえば不満」「不満」と答えた割合を「不満割合」とし、地区別に観光の振興に対する満足度を比較したところ、満足割合が不満割合を上回っているのは大穂地区のみとなっています。

また、全体の満足割合より低い地区は、谷田部地区、筑波地区、豊里地区、荃崎地区となっています。





カ 不満に感じている理由

観光の振興に対して不満を感じる理由としては、「観光PRや振興が不十分」であること、「観光地がない」ことなどが多く挙げられていました。

また、各施策に対する自由記述項目でも、「筑波山の観光PRが不足している」「観光地をもっとアピールし、観光名所が増えてほしい」といった回答がありました。このことから、観光PRや観光資源の磨き上げを推進していく必要があることがわかります。

不満に感じている理由の順位

順位	理由	回答数（63件）
1位	観光PRや振興が不十分	19（30％）
2位	観光地がない	18（28％）
3位	筑波山の観光の振興が不足している	10（15％）



6 つくば市の観光における主な課題

これまでの取組や社会情勢、アンケート調査、市民意識調査の結果から抽出した、つくば市の観光を推進するための課題は以下のとおりです。

(1) 観光地としての認知不足

- これまでの取組では、紙媒体を活用した情報発信や観光キャンペーンの実施による観光 PR を行い、不特定多数の方に広く知っていただくことを目的とした情報発信、観光 PR を行ってきました。成果として、観光入込客数は増加しており、第2次観光基本計画の目標数値も達成していることから、一定の効果はあったと考えられますが、一方で、どのような人にどのような情報が届いているのか、またつくば市に興味を持つ人がどのような情報を必要としているのかを把握する仕組みがありませんでした。
- 市民意識調査を見ると、「観光 PR や振興が不十分」という結果が出ております。また、同調査の自由記述においても、「筑波山の観光 PR が不足している」とあり、市民からも観光 PR の不足が指摘されており、魅力ある地域づくりには、市民にも自分の住むまちに愛着や誇りを持っていただくことも重要と考えています。そのためには、市民が自らの地域を知ることができるきっかけづくりが必要です。
- アンケート調査の結果における認知度に関する調査項目では、総じてつくば市の観光資源に対する認知度が低い傾向にあることがわかりました。一方で、知らないが行ってみたいなどの興味関心がある割合が高いことから、認知度を向上させることで、新たな観光需要創出につながると考えています。

(2) 観光資源の魅力向上への取組が不十分

- つくばならではの体験の提供や他の観光地との差別化を図ることで、観光客や旅行者などに選ばれる観光地を目指す取組が必要です。
- 令和元年度(2019 年度)の市民意識調査では、観光の振興に関する自由記述の中で「観光地がない」や「観光地をもっとアピールし、観光名所が増えて欲しい」という指摘がありました。市民にとって誇りあるまちにしていくためには、観光資源の認知度の向上と合わせ、地域資源の魅力の掘り起こしなど既存資源の磨き上げによる高付加価値化が必要です。
- 令和元年度(2019 年度)の市民意識調査では、紹介したい(自慢したい)という項目として、自然、科学が挙げられています。その一方で、市民にとって誇りあるまちとしていくためには、これらの観光資源をいかした観光地としての充実が必要であることが示されています。

- アンケート調査の結果では、「つくば市で食べてみたいもの・買ってみたいものはあるか」という問いについて、「わからない」という割合が 74.2%となっていることから、物産品・特産品についての認知度の向上はもとより、今ある物産品・特産品の磨き上げが必要です。

(3) 観光資源間の周遊性が不十分

- 市内には多くの観光資源が点在し、それぞれが独自に PR やイベントを行っている状況で、観光資源間の連携が不十分といえます。観光地としての魅力度向上のために、各観光資源をつなぐストーリーやテーマ性のある周遊ルートの整備など、地域が一丸となった観光資源間の連携、ネットワーク化の推進が必要です。
- 市域をまたぐ広域連携はつくば市の観光地としての魅力度向上に必要不可欠な要素であり、他自治体等広域のメンバーで構成される筑波山地域ジオパーク推進協議会の枠組みを活用した、積極的な連携、取組が必要です。
- つくば市への滞在期間についての調査結果から、「日帰り」の割合が 82.9%となっており、宿泊を伴う滞在型観光の傾向が低いことがわかります。観光消費額を増加させるためには、各観光資源をつなぐ周遊ルートの整備を進めることで、観光客の滞在時間の延長による滞在型観光の推進が必要です。

(4) 持続可能な観光地づくりの視点が不十分

- ビッグデータや各種数値データを活用した検証体制が整備されていませんでした。社会情勢の変化に伴い、SNS の普及や IoT 等デジタル技術が目覚ましく進歩しています。今後はこのようなデータや技術を活用し、データマーケティングを意識した観光施策の振興に取り組み、持続可能な観光地域づくりを目指す必要があります。
- 観光需要の極端な集中を回避すべく、時間的な分散、来訪者の空間的な分散や受入環境拡大等の整備を検討・実施し、筑波山の魅力度向上に努める必要があります。また、各種イベントの実施や移動手段の提案等によって、観光スポットの分散化や年間を通じ天候に左右されずに楽しめる観光地域づくりが求められています。
- 筑波山において、ハイシーズンにおける道路渋滞や登山道の混雑が発生しています。観光客のニーズを捉えた周辺観光資源の提案による分散化等の取組が必要です。



第3章

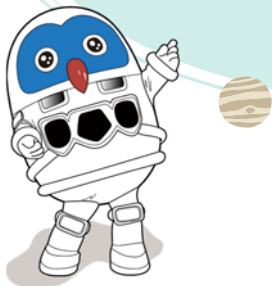
つくば市観光振興の指針

1 基本理念

つくば市は、豊かな自然環境、歴史と文化、国際性そして最先端を行く研究・教育機関の集積など、他に類を見ない多様な地域資源があり、それらはすべてつくばならではの「観光資源」と捉えることができます。自然、歴史、文化、研究・教育機関など数多くの観光資源を活用することにより、つくばならではの空間とストーリーを創出し、観光地としての魅力度の向上、加えてグローバルな視点から国内外の誘客拡大につなげることを本計画の指針とし、以下基本理念とします。

基本理念

つくばと “つながる” つくばが “つながる”
—つくばの自然・科学・歴史・文化で人と地域と世界をつなぐ—



2 基本方針

基本理念を具現化し、目指す観光地域づくり像を実現するため、基本方針を次のとおり定めます。

- 1 観光客と つくばが “つながる”
－つながる・役立つ・広がる情報発信－
- 2 伝えたい資源を観光に “つなげる”
－観光資源の強みをいかした更なる誘客促進－
- 3 地域と “つながる”
－周遊観光の促進－
- 4 未来に “つなげる”
－持続可能な観光地域づくりの構築－

3 目標指標

(1) 数値設定

令和8年度（2026年度） 観光入込客数：5,000,000人

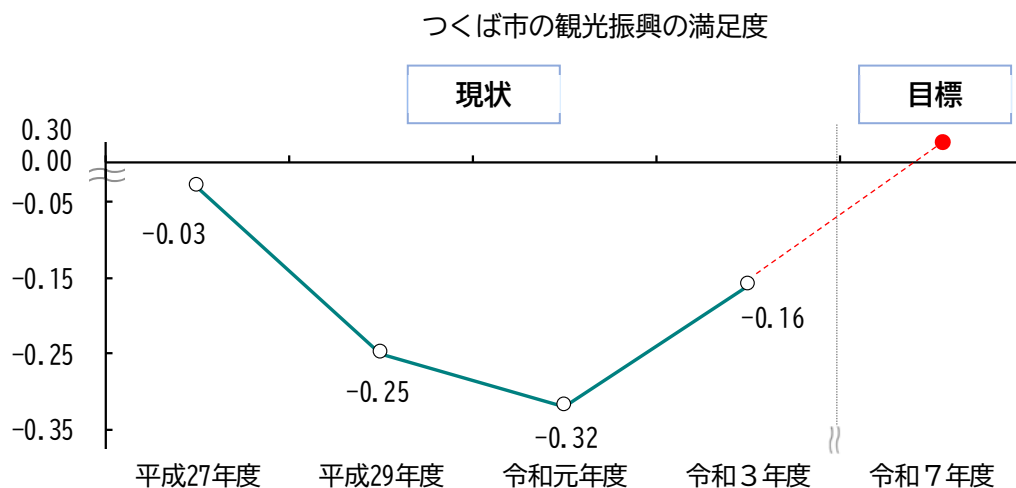
※令和元年度（2019年度）観光入込客数4,158,800人をもとに、第2期つくば市戦略プランの目標数値（以下の数値）からの伸び率により算出しています。

令和6年度（2024年度） 観光入込客数：4,720,000人



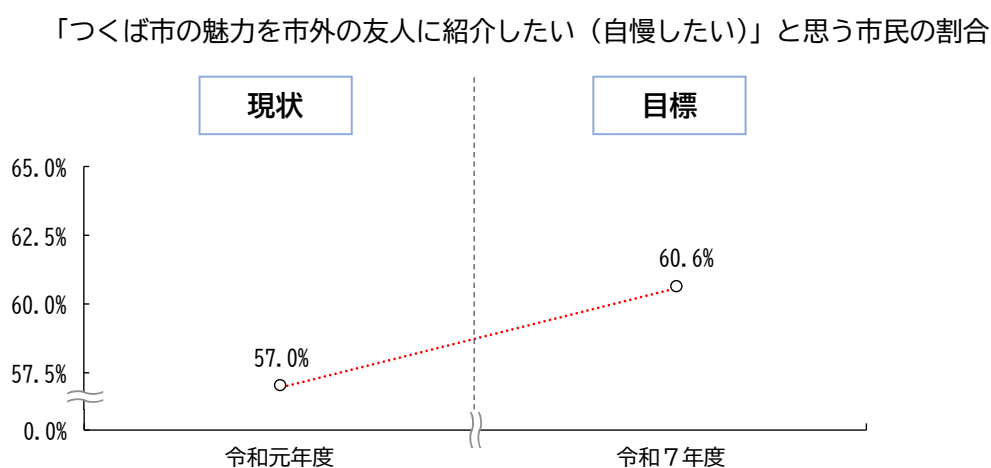
(2) 市民意識の醸成

市民意識調査におけるつくば市の観光振興の満足度を向上させます



「観光の振興」に対する満足度指数を令和3年度（2021年度）の-0.16から令和7年度（2025年度）にはプラスへと向上させます。

市民意識調査における「つくば市の魅力を市外の友人に紹介したい（自慢したい）」と思う人の割合を増加させます



「あなたが市外の友人に紹介したい（自慢したい）と思うつくば市の魅力はなんですか。」という設問の全項目について「どちらかといえば、紹介したい」と「紹介したい、自慢である」を合計した際の割合を令和元年度（2019年度）の57.0%から、令和7年度（2025年度）には60.6%に向上させます。

4 施策の体系

〔 基本理念 〕

〔 基本方針 〕

〔 施策 〕

「つくばの自然・科学・歴史・文化で人と地域と世界をつなぐ」
つくばと“つながる”
つくばが“つながる”

1 観光客とつくばが“つながる”
－つながる・役立つ・広がる情報発信－

(1) つながる情報発信

(2) 役立つ情報発信

(3) 広がる情報発信

2 伝えたい資源を観光に“つなげる”
－観光資源の強みをいかした更なる誘客促進－

(1) つくばの“強み”の磨き上げ

(2) つくばらしい体験の提供

(3) つくばならではの特産品の振興

(4) 世界の英知がつくばで“つながる”
MICE 誘致・アフターコンベンションの充実

3 地域と“つながる”
－周遊観光の促進－

(1) 市内周遊観光の推進

(2) 広域周遊観光の推進

(3) 交通インフラとの連携強化

(4) 筑波山地域ジオパークとの連携

(5) 訪日外国人旅行者の誘客促進

4 未来に“つなげる”
－持続可能な観光地域づくりの構築－

(1) 自然・環境・歴史・文化の保全

(2) 観光マーケティングの振興

(3) ころあたたまるおもてなし意識の醸成

(4) 観光客の満足度向上
(安全・安心な観光の推進)

(5) 筑波山の交通渋滞・登山道混雑の緩和

第1章

第2章

第3章

第4章

資料編



基本方針に基づく主な施策

1 観光客とつくばが“つながる” －つながる・役立つ・広がる情報発信－

社会情勢の変化により情報発信の手段が多様化する昨今、これまでの行政主体の情報発信や紙媒体を中心とした情報発信では、より多くの人に情報提供する手法として限界があります。

本市の観光を振興するためには、一番身近である市民や地元事業者自らが地元へ愛着や誇りを持ち、市の魅力や価値をより多くの人に知ってもらうための情報発信が不可欠です。そのために、市民目線に立ち、市民が自らの地域について深く知る機会の創出、地域を知るきっかけとなる情報発信を推進します。

また、観光客に対しては、筑波山、科学技術の普及啓発を図ることを目的としたつくばサイエンスツアー推進事業等の認知度をさらに高めていくとともに、観光に関する情報収集を行うことで、ターゲットを意識した戦略的な情報発信につなげます。

(1) つながる情報発信

市民、観光客が観光に関する知りたい情報・知らせたい情報をいつでも、どこでも入手できるようにすることを目的として、紙媒体のみならず、ICT技術等を活用した情報発信に取り組みます。

【主な取組例】

- まちの魅力を存分に楽しめる市内周遊観光の情報コンテンツを構築し、地域の伝えたい魅力や伝統、文化など観光資源を積極的に発信
- 観光施設等へのデジタルサイネージの導入等を推進し、その場で観光客が求める情報にアクセスすることができる環境の整備
- 様々な SNS ツールを積極的に活用し、利用者の検索傾向等の市場動向を分析することで、情報を求める人に必要な情報が届くような情報発信手法の見直し
- 市民や観光客の来訪(行動)に結び付く情報の発信 等

【関係主体】

行政	観光コンベンション協会	観光事業者	交通事業者	商工事業者	研究機関	大学	市民
○	○	○					

(2) 役立つ情報発信

市民を含む観光客は、様々な年齢層やファミリー層、アウトドア層などのカテゴリーに属し、それぞれが必要とする情報は多様化しています。それぞれの目的や嗜好などのニーズに合った情報を提供できる仕組みを構築します。

【主な取組例】

- 観光資源やイベント情報の整理・一元化を推進し、観光に関する様々な情報が容易に収集できる仕組みの構築
- ターゲットを意識し、それぞれのニーズに応じた戦略的・効果的な情報の発信
- つくばの季節を感じる身近な最新情報や筑波山の最新の混雑状況、グルメ情報などの旬な情報について、SNS 等を活用したスピーディーな情報の発信
- 交通アクセス情報や周遊に役立つ情報など、観光客にとって便利で楽しめる情報の発信
- 観光情報をわかりやすく提供するデジタルサイネージの構築、ウェブ広告等を戦略的・効果的に活用したプロモーション 等

【関係主体】

行政	観光コンベンション協会	観光事業者	交通事業者	商工事業者	研究機関	大学	市民
○	○	○	○	○	○		



(3) 広がる情報発信

近年急速に拡大するSNSの即時性、拡散性を活用した情報発信に取り組みます。また、誰もが共有・活用することのできる魅力的な写真・動画のオープンデータ化を進めるとともに、意外性があり、人に教えたくなるような情報などを意識した情報発信に取り組みます。

【主な取組例】

- 市民等が積極的に SNS 等を活用した口コミ情報を発信できるよう、市内観光地の魅力ある写真のオープンデータ化など、誰もが気軽に情報発信しやすい環境づくりの構築
- 影響力と発信力を持つインフルエンサーを活用したイベント等の効果的な情報の発信
- つくば市の PR 効果を増大させる、テレビや映画などへの露出を促すフィルムコミッション事業の推進 等

【関係主体】

行政	観光コンベンション協会	観光事業者	交通事業者	商工事業者	研究機関	大学	市民
○	○	○	○	○	○	○	○

2 伝えたい資源を観光に“つなげる” －観光資源の強みをいかした更なる誘客促進－

本市の豊かな自然や科学などの地域資源・観光資源を磨き上げ、つくばらしい体験の提供、つくばならではの物産品・特産品の提供に取り組みます。

また、つくば市の特色・特徴をいかした観光コンテンツづくり等、対象や目的に合わせ、様々な地域資源・観光資源を最大限に活用した多様な観光プログラムの整備を図ります。

(1) つくばの“強み”の磨き上げ

つくばでの観光の中心的存在である筑波山を始め、宝篋山、小貝川や牛久沼などの豊かな自然や夜景、つくばサイエンスツアーなどの特徴的な観光資源、多様な歴史・文化遺産をいかし、地域のニーズにも合致する、つくば市独自の観光コンテンツづくりをより一層推進していきます。

また、つくば市内の歴史的建造物など、これまでスポットが当てられていなかった地域資源の掘り起こし・磨き上げも推進していきます。

【主な取組例】

- 筑波山や宝篋山、小貝川や牛久沼などの豊かな自然をいかした、様々な学びやアクティビティなどの体験型の観光コンテンツの検討
- まちに根付く貴重な文化や歴史的資源についての情報整理や情報発信の強化、並びに各地域資源への新たな価値の創出
- 様々な天候に対応した、周遊観光ルートの検討
- 修学旅行・校外学習・生涯学習・企業研修等、ターゲットを意識した「学び」のコンテンツの造成 等

【関係主体】

行政	観光コンベンション協会	観光事業者	交通事業者	商工事業者	研究機関	大学	市民
○	○	○			○		○

(2) つくばらしい体験の提供

世界中から多様な文化が集まるつくばだからこそできる、つくばらしいイベントの推進や、特色である「科学」や「学び」をテーマとした体験の提供を推進することで、選ばれる観光地域を目指します。

また、新型コロナウイルス感染症の影響など、社会情勢の変化にも臨機応変に対応できる安心・安全に配慮したイベントの実施に取り組みます。

【主な取組例】

- 「科学」と「学び」をテーマとしたつくばらしい体験型観光プログラムの創出
- つくばの魅力でもある多様な文化をいかし、それらが織りなすつくばらしい、市民の誰もが自慢できる「まつりつくば」、「つくばフェスティバル」の開催
- 日本夜景遺産にも認定されている「筑波山の夜景」を活用した夜間観光プログラムの強化
- 豊里ゆかりの森、筑波ふれあいの里、荃崎こもれび六斗の森等、つくばの豊かな自然をいかした、来訪者が気軽に楽しむことができる体験型プログラムの創成 等

【関係主体】

行政	観光コンベンション協会	観光事業者	交通事業者	商工事業者	研究機関	大学	市民
○	○	○	○	○	○		○



[中央公園]



(3) つくばならではの特産品の振興

つくばならではの食材を使った「食」や「グルメ」の再発見及び開発・普及、つくば市認証物産品「つくばコレクション」等の認知度向上、つくば市の特産品をいかした魅力の創出・拡充に取り組みます。

【主な取組例】

- つくば観光コンベンション協会やつくば市商工会と連携し、つくばならではの物産品・特産品の開発及び特産品の普及促進
- つくば市認証物産品「つくばコレクション」等の PR、販売促進
- つくばの「食」を PR するイベントの開催
- 土産物の販路拡大
- 観光地やグルメ・土産物ガイドの作成 等

【関係主体】

行政	観光コンベンション協会	観光事業者	交通事業者	商工事業者	研究機関	大学	市民
○	○	○		○			○



〔福来みかん〕



〔ラーメン〕



〔うどん〕



〔日本酒〕

（４） 世界の英知がつくばで“つながる”

MICE誘致・アフターコンベンションの充実

MICEの開催は、主催者・出展者・参加者等による消費支出や関連の事業支出など、大きな経済波及効果を生み出します。これらを踏まえ、アフターコンベンションやMICE開催支援の充実により、積極的なMICE誘致を推進します。

また、こうした世界の英知が集まる国際会議や全国会議の開催を契機として、市民がその英知を享受することのできる“学び”の場を提供することで、市民・企業・行政が一体となって国際会議を歓迎する機運の醸成に取り組みます。

【主な取組例】

- MICE を誘致するためのプロモーションの展開
- つくば市の誇る研究・教育機関の集積や豊富な自然をいかしたアフターコンベンションやエクスカージョンの充実
- 開催される国際会議等における、市民の傍聴・参加や市民講座等併催の促進
- MICE 誘致推進のためのプロモーション動画の作成・配信 等

【関係主体】

行政	観光コンベンション協会	観光事業者	交通事業者	商工事業者	研究機関	大学	市民
○	○	○		○	○	○	○



〔国際会議〕

3 地域と“つながる”－周遊観光の促進－

市内に点在する科学、自然、歴史などの豊富な資源について、ストーリーやテーマごとに整理し、周遊ルートを設定することでネットワークの構築を図り、周遊観光を促進します。また、筑波山地域ジオパーク推進協議会や市域を超えた広域連携による地域の魅力創出に取り組むとともに、つくば霞ヶ浦りんりんロードの枠組みを活用し、各種公共交通機関との連携強化により、広域観光の推進を図ります。

(1) 市内周遊観光の推進

つくば市は、小貝川地域や牛久沼地域、小田城跡や平沢官衙遺跡などの豊富な自然・歴史的資源を有しています。これらをいかし、市内全域での周遊観光を推進することで、つくば市の観光資源や魅力をまるごと楽しむことのできる取組を推進します。

【主な取組例】

- 小貝川地域や牛久沼地域といった豊かな自然環境や、まだ知られていない魅力的な観光資源を活用し、地域住民とともに市内周遊観光を推進
- 小田城跡、平沢官衙遺跡などの歴史的資源の活用による市内周遊観光を推進
- 観光パンフレットやフットパスマップの電子化等による周遊観光の利便性の向上
- 商工事業者等の民間活力を積極的に活用し、小貝川地域や牛久沼地域におけるアウトドアを中心とした観光拠点化を推進 等

【関係主体】

行政	観光コンベンション協会	観光事業者	交通事業者	商工事業者	研究機関	大学	市民
○	○	○	○	○			○



(2) 広域周遊観光の推進

重要な自然観光資源である「ヤマ」や「カワ」、「ヌマ」、「ミチ」は、つくば市だけで完結するものではなく、そこには他のまちとの“つながり”があります。市域にとらわれず、近隣都県や周辺自治体との広域的な連携による魅力創出に取り組み、多様な文化、人との“つながり”のある、広域周遊観光の推進に取り組めます。

【主な取組例】

- ヤマ：筑波山地域ジオパークの取組など、周辺自治体と連携することで、筑波山を舞台とした面的な広域周遊観光ルートの整備拡充及び情報発信を推進
- カワ：小貝川等の自然や歴史を活用した広域周遊観光を推進
- ヌマ：牛久沼の水辺を活用した広域周遊観光を推進
- ミチ：つくば霞ヶ浦りんりんロードの活用等、自転車を活用した広域観光を推進
- 茨城県等と連携を図り、新たな広域観光周遊ルートの形成やツアー造成を推進 等

【関係主体】

行政	観光コンベンション協会	観光事業者	交通事業者	商工事業者	研究機関	大学	市民
○	○	○	○	○	○		○

(3) 交通インフラとの連携強化

公共交通機関による移動手段の提供は、観光者の快適で安心・安全な周遊観光促進の要となります。つくば市を周遊観光する観光客の満足度や利便性の向上のため、交通インフラとの連携を強化します。

【主な取組例】

- 観光客への安心・安全な公共交通手段の提供
- 市内のみならず広域からの誘客を図るため、公共交通ネットワークの連携強化
- 常磐道、圏央道、北関東道、東北道などの高速道路ネットワークを活用し、SA・PAでの観光キャンペーンの実施や観光パンフレットの配備等により誘客を促進
- 公共交通の運行がない観光地間を結ぶ移動手段の提供
- 筑波山の交通渋滞を緩和するため、環境に優しい公共交通の利用を促進 等

【関係主体】

行政	観光コンベンション協会	観光事業者	交通事業者	商工事業者	研究機関	大学	市民
○	○	○	○				



〔ケーブルカー〕



〔つくばエクスプレス〕



〔筑波山シャトルバス〕



(4) 筑波山地域ジオパークとの連携

平成28年度（2016年度）に日本ジオパークに認定された、筑波山地域ジオパークでは、筑波山とその周辺の豊かな自然の保全や、自然環境や歴史、文化、産業をいかした教育・観光を主軸とした活動を行っています。観光の観点からも、筑波山周辺地域で連携し、筑波山地域ジオパークの魅力発信やジオパークを目的とする観光客の受入れ態勢強化を推進します。

【主な取組例】

- 筑波山地域ジオパークにおける地域資源（＝地形・地質と、それに関連した自然・文化）の価値や魅力の積極的な発信
- ガイド付きツアー等（ジオツーリズム）の推進
- 案内サインの整備等、受入れ体制の充実
- 首都圏を対象とした教育旅行プログラムの提供
- 市内の学校を対象とした筑波山登山などの校外学習を含む教育プログラムの提供
- 筑波山地域ジオパークの拠点整備 等

【関係主体】

行政	観光コンベンション協会	観光事業者	交通事業者	商工事業者	研究機関	大学	市民
○	○	○			○	○	○



[筑波山地域ジオパーク]

(5) 訪日外国人旅行者の誘客促進

今後のインバウンド需要を見据え、受入環境整備の拡充や訪日外国人旅行者が魅力的に感じる観光コンテンツづくりが必要となっています。また、首都圏からの誘客に加え、成田空港や茨城空港方面からの誘客も視野に入れた、国際競争力のある魅力的な観光地を目指します。

【主な取組例】

- 市内観光地での多言語対応や観光案内看板等の多言語化の推進、訪日外国人向けの多言語観光情報発信サイト等での情報発信の強化
- つくばの特色である市内在住外国人の多さに着目した VFR(Visiting friends and relatives)観光の推進
- 日本百名山、日本の道百選など、訪日外国人への訴求力が高い外部機関による認定・評価取得の推進による、訪日外国人の誘客促進
- JNT0 認定外国人観光案内所認定制度の活用などによる、観光案内所でのおもてなし力の向上
- 体験プログラムや観光ルート設定の検討による、訪日外国人が訪れたくなる環境整備の推進 等

【関係主体】

行政	観光コンベンション協会	観光事業者	交通事業者	商工事業者	研究機関	大学	市民
○	○	○	○	○	○	○	



4 未来に“つなげる” —持続可能な観光地域づくりの構築—

つくば市は、筑波山や宝篋山をはじめとする貴重な地域資源を有しています。これらの地域資源を将来にわたって保全し、持続可能な利用を行うためには、観光客と地域住民双方の自然への配慮が重要です。また、多面的かつ客観的なデータ収集と分析に基づいた中長期的な観光地マネジメントを行っていく必要があります。

先人たちが守ってきた地域の価値を次世代に確実に受け継いでいくため、地域の自然や環境、歴史、文化の保全に取り組むとともに、災害時等においても安心・安全を観光客へ提供するための受入環境整備や、観光客へのおもてなしの向上に取り組めます。

(1) 自然・環境・歴史・文化の保全

つくば市が有する筑波山をはじめとする貴重な地域資源は、古くから地域住民のシンボルとなっており、私たちの世代までその雄大な自然、環境、歴史、文化が引き継がれてきました。これらを後世につなげていくため、その保全に取り組んでいます。

【主な取組例】

- 観光客へ向けた、自然環境保全の啓発
- 環境負荷の少ない自然共生型のアウトドアアクティビティの推進や観光・宿泊施設における環境保護の取組の推進
- 事業者や観光客が、地域住民とともに地域の歴史や文化・自然環境の保全に貢献できる機会の創出
- 観光ガイド等を活用した旅行先の文化等の理解を深める体験の創出 等

【関係主体】

行政	観光コンベンション協会	観光事業者	交通事業者	商工事業者	研究機関	大学	市民
○	○	○	○				

(2) 観光マーケティングの振興

これまでは収集が困難だった様々な観光動向情報が、ICTの急速な進化により、データ収集を容易に行うことができる社会へと変化しつつあります。

こうした社会の変化に対応し、様々な社会情勢の変化をデータで捉え、的確に効果検証していく仕組みづくりが、持続可能な観光誘客を担保していくうえで重要となっています。

ICT技術等の活用による社会経済データの収集、分析を推進し、効果検証を未来へつなげ、それらを積み上げていくことで、自立した経済活動を促す観光施策を推進します。

【主な取組例】

- 地域経済分析システム等の活用により、来訪者の属性や消費傾向など観光データの収集・分析
- 収集・分析したデータの活用による、関係機関と連携した持続可能な観光誘客の推進
- 恒常的なデータ収集ができるデジタルマーケティングの構築 等

【関係主体】

行政	観光コンベンション協会	観光事業者	交通事業者	商工事業者	研究機関	大学	市民
○	○	○	○				○



(3) ころあたまおもてなし意識の醸成

来訪者のニーズ把握や観光満足度向上に寄与する「おもてなし」体制の確保は、観光客受入環境整備の重要な要素です。地域でまちづくりの活性化に取り組まれている方々と協力しながら、各関係機関との連携を強化して、観光客の多種多様なニーズを的確に捉えた、「ころあたまおもてなし」を提供できる体制づくりに取り組みます。

【主な取組例】

- 観光ボランティアガイドの拡充及び質の向上を図ることによる、多種多様な要望に対応できる「おもてなし」体制の構築
- つくば観光コンベンション協会やつくば市商工会等との連携による、観光事業従事者の「おもてなし」のレベルアップ
- 観光事業者、市民、観光関係団体及び行政が一体となった、心のこもったおもてなし体制の構築
- 地域住民が主体となった観光ボランティアガイドの育成等、住民が当事者意識を持って地域の活性化に取り組める仕組みの構築 等

【関係主体】

行政	観光コンベンション協会	観光事業者	交通事業者	商工事業者	研究機関	大学	市民
○	○	○	○				○

(4) 観光客の満足度向上（安心・安全な観光の推進）

訪日外国人や高齢者、障害者等あらゆる人に対応するため、観光案内機能や二次交通の充実、筑波山麓地域におけるユニバーサルデザインを取り入れた観光施設の充実や、災害対策の更なる強化を図ることにより、観光客が安心・安全かつ快適に観光できる環境づくりに取り組みます。また、将来にわたって魅力ある観光資源を残していくため、自然や環境の維持保全に取り組みます。

【主な取組例】

- 筑波山や宝篋山などの周辺の整備を推進することによる、訪日外国人や高齢者、障害者等の多種多様な要望に応えられるよう観光地における安心・安全の確保
- 訪日外国人旅行者を視野に入れたわかりやすい誘導サイン、案内看板等の受入環境の整備
- 観光地における無料 Wi-Fi 環境の整備拡充によるネットワークとつながる環境づくりの推進
- キャッシュレス決済の推進による利便性の向上
- 持続可能な公共交通ネットワークの構築や、自転車・歩行環境の向上を図ることによる、誰もが使いやすくして便利なユニバーサルインフラ整備の推進
- つくば市の自然や環境を保全する取組の推進 等

【関係主体】

行政	観光コンベンション協会	観光事業者	交通事業者	商工事業者	研究機関	大学	市民
○	○	○	○				

(5) 筑波山の交通渋滞・登山道混雑の緩和

つくば市を代表する観光拠点である筑波山は、古くから地域住民のシンボルとなっており、近年では登山需要の高まり等に伴う観光客の増加により、特定の期間には大規模な交通渋滞、登山道の混雑が顕在化しています。このことを受け、周辺地域と一体になった渋滞、混雑の緩和対策を実施します。

【主な取組例】

- 茨城県や観光事業者との連携による、観光ハイシーズンにおける筑波山の渋滞緩和の対策の検討
- 観光ハイシーズンにおける筑波山周辺駐車場の整備等の検討など、物理的な渋滞緩和の対策の検討
- 時期の分散、場所の分散を意識した周遊観光の推進
- 渋滞緩和を目的とした筑波山市営駐車場の料金体系見直しの検討 等

【関係主体】

行政	観光コンベンション協会	観光事業者	交通事業者	商工事業者	研究機関	大学	市民
○	○	○	○				



〔筑波山登山道混雑〕



〔筑波山の交通渋滞〕



〔筑波山の交通渋滞〕



資料編

1 つくば市観光基本計画策定委員会要項

（設置）

第1条 第3次つくば市観光基本計画（以下「基本計画」という。）の策定にあたり、学識経験者、関係機関・関係事業者、市民等の意見を反映するため、第3次つくば市観光基本計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

第2条 委員会の所掌事項は、次に掲げるとおりとする。

- （1）基本計画の策定に関すること。
- （2）その他基本計画の策定に必要な事項に関すること。

（組織）

第3条 委員会の委員は、別紙に掲げる機関・団体の代表者等をもって組織する。

（任期）

第4条 委員の任期は、委嘱の日から基本計画の策定が終了する日までとする。ただし、委員が欠けた場合における後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長等）

第5条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により定め、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（アドバイザー）

第6条 委員会にアドバイザーを置くことができる。

- 2 アドバイザーは、委員会の承認を得て、委員長が選任する。
- 3 アドバイザーは、基本計画策定にあたり重要な事項について委員長の諮問に応じ、委員会に出席して意見を述べるができる。



(会議)

第7条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、その議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

(映像等の送受信による通話方式による会議)

第8条 委員長は、委員の全部又は一部について、会議を開催する場所に参集することが困難であると認めるときは、委員同士が映像と音声の送受信により相手の状態を相互に認識しながら通話をすることができる方法（以下「映像等の送受信による通話の方法」という。）により、会議を開催することができる。ただし、つくば市付属機関の会議及び懇談会の公開に関する条例（平成29年つくば市条例第35号）第4条の規定により、会議の全部又は一部を非公開とする場合はこの限りでない。

2 委員長は、映像等の送受信による通話の方法により会議を開催する場合には、会議を開催する場所に参集する委員を除き、当該会議に参加する場所として相当と認める場所を、委員ごとに指定するものとする。

3 委員が映像等の送受信による通話の方法により会議に参加したときは、当該委員は、会議へ出席したものとみなす。

4 映像等の送受信による通話の方法による会議の参加に伴い生じる通信費その他の費用は、各委員の負担とする。

(意見の聴取)

第9条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させその意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、経済部観光推進課において処理する。

(その他)

第11条 この要項に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附則

この要項は、令和3年2月12日から施行する。

2 つくば市観光基本計画策定委員名簿

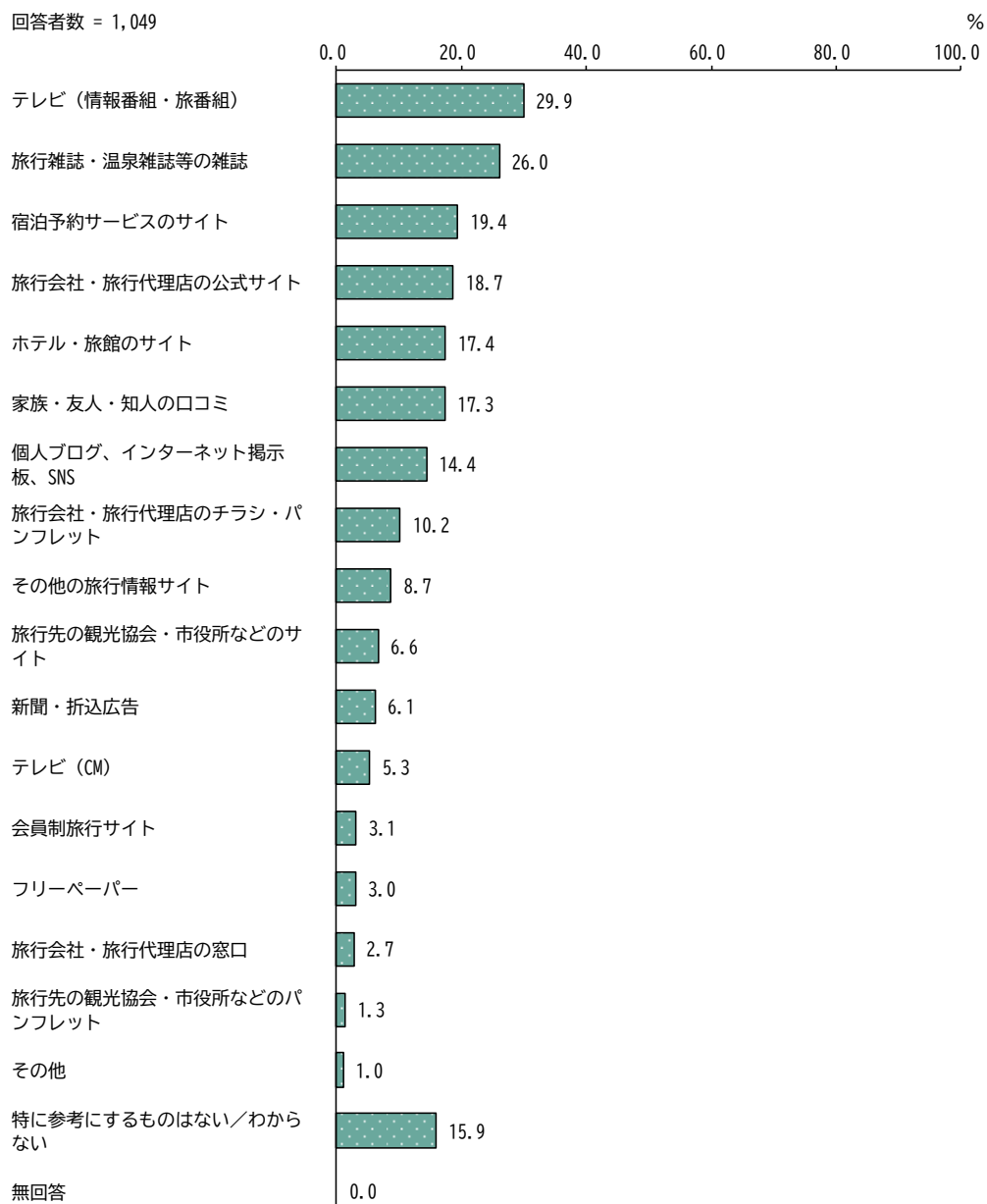
	所属機関・団体	氏 名	ふりがな
1	国立大学法人筑波大学	岡本 直久	おかもと なおひさ
2	国立大学法人筑波技術大学	生田目 美紀	なまため みき
3	株式会社近畿日本ツーリスト関東つくば支店	松本 圭司	まつもと けいじ
4	株式会社JTB茨城南支店	新井 英輔	あらい えいすけ
5	関東鉄道株式会社	武藤 成一	むとう せいいち
6	首都圏新都市鉄道株式会社	東 英俊	あずま ひでとし
7	筑波観光鉄道株式会社	三輪 武士	みわ たけし
8	茨城県ホテル旅館生活衛生同業組合つくば支部	青木 研一	あおき けんいち
9	一般財団法人茨城県科学技術振興財団 つくばサイエンスツアー推進課	中村 充	なかむら みつる
10	一般財団法人つくば市国際交流協会	布浦 万代	ふうら まよ
11	つくば観光ボランティアガイド298	吉原 一行	よしはら かずゆき
12	つくば市商工会	松信 利彦	まつのぶ としひこ
13	一般社団法人つくば観光コンベンション協会	星野 弘	ほしの ひろし
14	市民委員	浅井 知枝	あさい ともえ
15	市民委員	河内 洋行	こうち ひろゆき
16	市民委員	橘 敦子	たちばな あつこ
17	市民委員	田中 依子	たなか よりこ
18	市民委員	松本 茂	まつもと しげる

3 アンケート結果

(1) 市外・県外在住者向けアンケート

設問：旅行（帰省を含む）に行く際に、どの情報を参考にすることが多いですか

回答者数 = 1,049



設問：旅行（帰省を含む）に行く際に、どの情報を参考にすることが多いですか（年代別）

単位：％

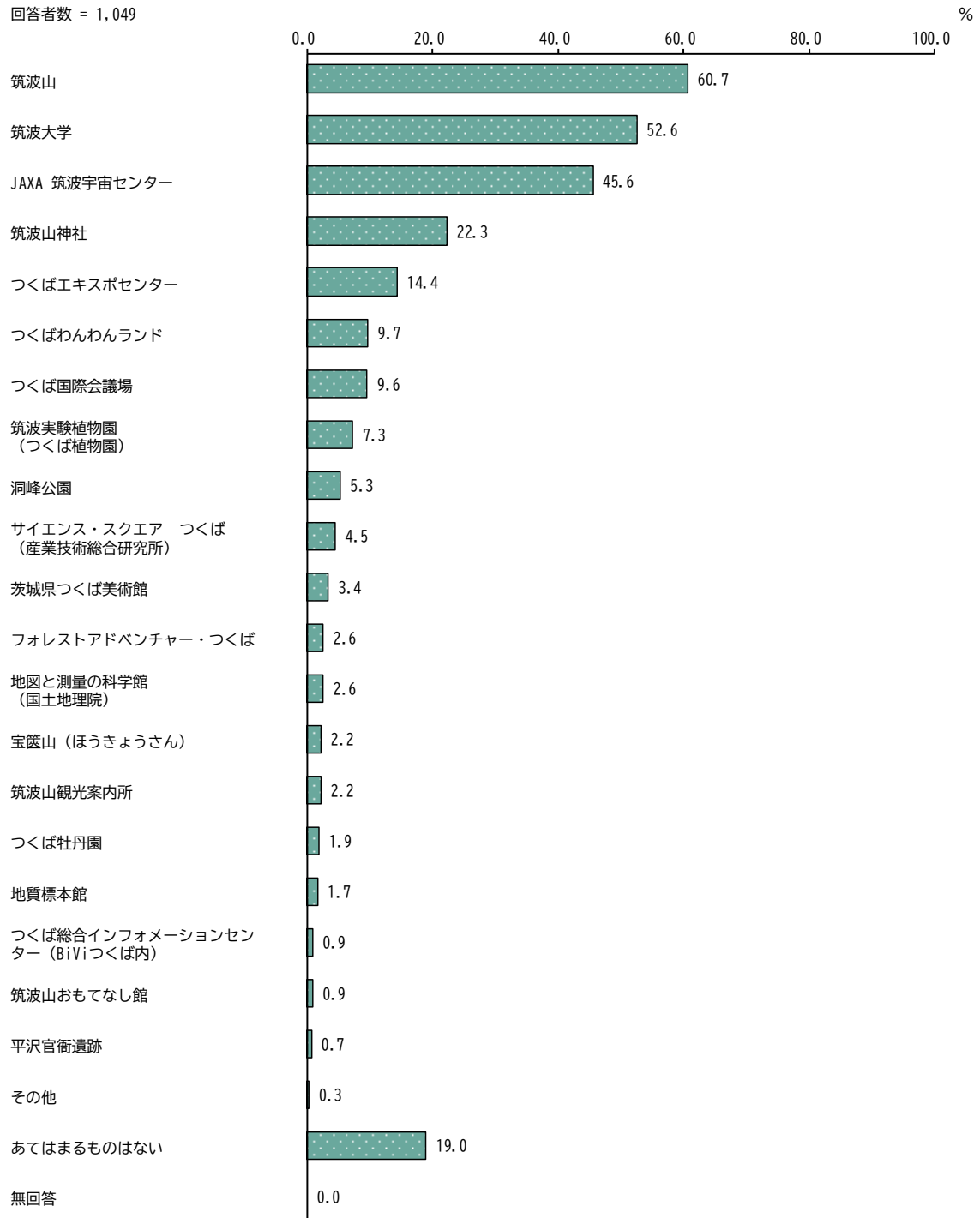
項目	テレビ (情報番組・旅番組)	テレビ (CM)	新聞・折込広告	旅行雑誌・温泉雑誌等 の雑誌	フリーペーパー	旅行会社・旅行代理店 の公式サイト	会員制旅行サイト	旅行先の観光協会・市 役所などのサイト	宿泊予約サービスのサ イト	ホテル・旅館のサイト
全体	29.9	5.3	6.1	26.0	3.0	18.7	3.1	6.6	19.4	17.4
18-19 歳	30.9	7.9	2.6	17.1	2.6	14.5	1.3	5.3	14.5	16.4
20-29 歳	24.5	6.1	1.4	16.3	4.8	14.3	3.4	5.4	21.1	17.0
30-39 歳	28.7	4.0	1.3	26.7	2.7	20.7	2.7	4.7	24.7	15.3
40-49 歳	34.9	5.3	2.6	26.3	2.6	14.5	3.3	6.6	24.3	20.4
50-59 歳	27.0	2.0	3.9	29.6	3.3	19.7	2.0	7.9	18.4	23.0
60-69 歳	34.9	6.0	11.4	30.9	3.4	24.2	6.0	6.0	20.8	16.8
70-99 歳	28.6	6.1	19.7	35.4	1.4	23.1	2.7	10.2	12.2	12.9

項目	個人ブログ、インタ ネット掲示板、SNS	その他の旅行情報サイ ト	旅行会社・旅行代理店 の窓口	旅行会社・旅行代理店 のチラシ・パンフレッ ト	旅行先の観光協会・市 役所などのパンフレッ ト	家族・友人・知人の口 コミ	その他	特に参考にするものは ない／わからない	無回答
全体	14.4	8.7	2.7	10.2	1.3	17.3	1.0	15.9	-
18-19 歳	20.4	3.3	-	4.6	0.7	18.4	1.3	23.7	-
20-29 歳	21.1	4.8	-	2.7	0.7	16.3	2.0	26.5	-
30-39 歳	18.7	9.3	4.7	7.3	1.3	16.0	-	18.0	-
40-49 歳	18.4	11.2	1.3	9.2	-	18.4	-	13.8	-
50-59 歳	9.9	14.5	3.9	13.2	1.3	11.8	1.3	16.4	-
60-69 歳	6.0	10.1	3.4	14.1	1.3	16.8	0.7	8.1	-
70-99 歳	6.1	7.5	5.4	20.4	4.1	23.8	1.4	4.8	-

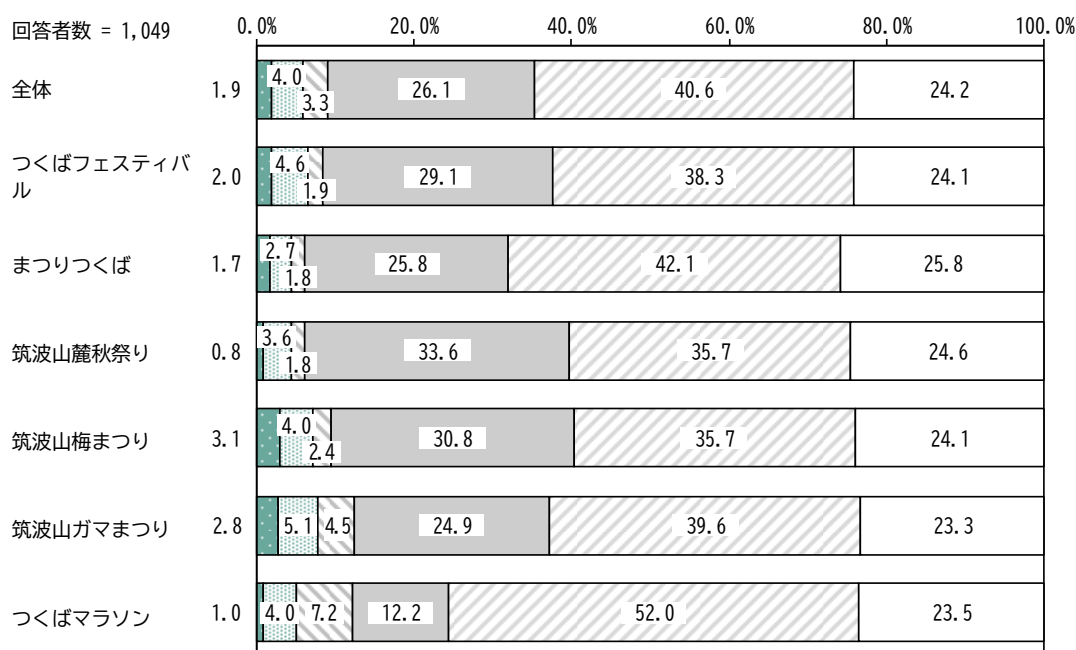


設問：あなたは次のつくば市内の施設を知っていますか

回答者数 = 1,049

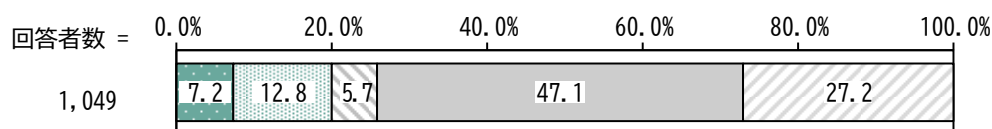


設問：つくば市内のイベントに行ったことがありますか



- ☒ 知っていて行ったことがある
 ☒ 知っているが行ったことはなく興味がある
☒ 知っているが行ったことはなく興味もない
 ☒ 知らなかったが興味がある
☒ 知らなかったし興味もない
 ☒ わからない

設問：温泉に入ることできる宿泊施設が筑波山にあることを知っていますか

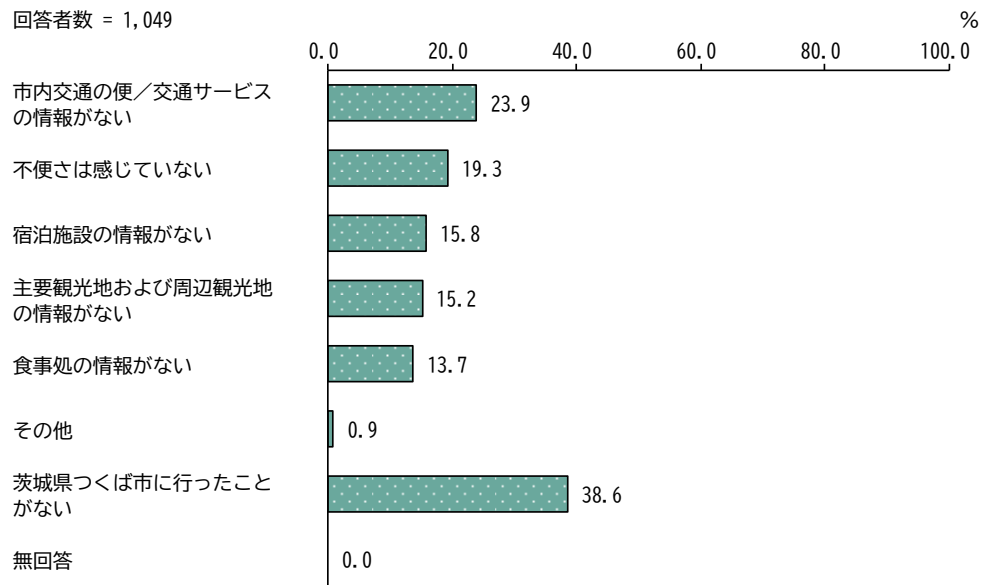


- ☒ 知っていて行ったことがある
 ☒ 知っているが行ったことはなく興味がある
☒ 知っているが行ったことはなく興味もない
 ☒ 知らなかったが興味がある
☒ 知らなかったし興味もない
 ☒ わからない



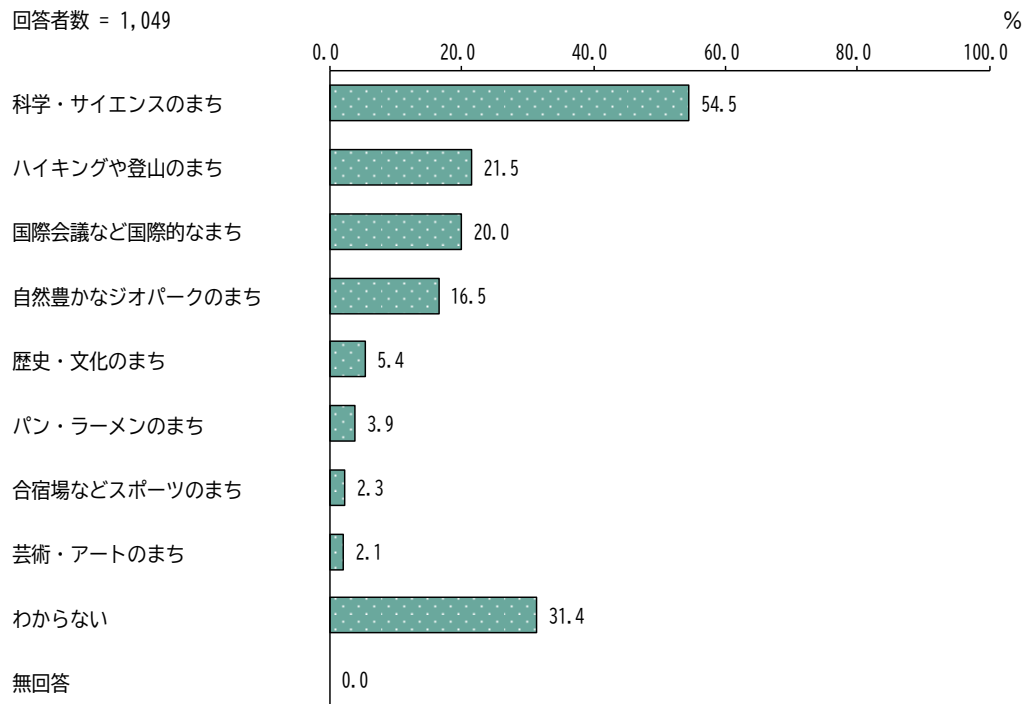
設問：茨城県つくば市を観光するにあたり、どのようなところに不便さを感じますか

回答者数 = 1,049

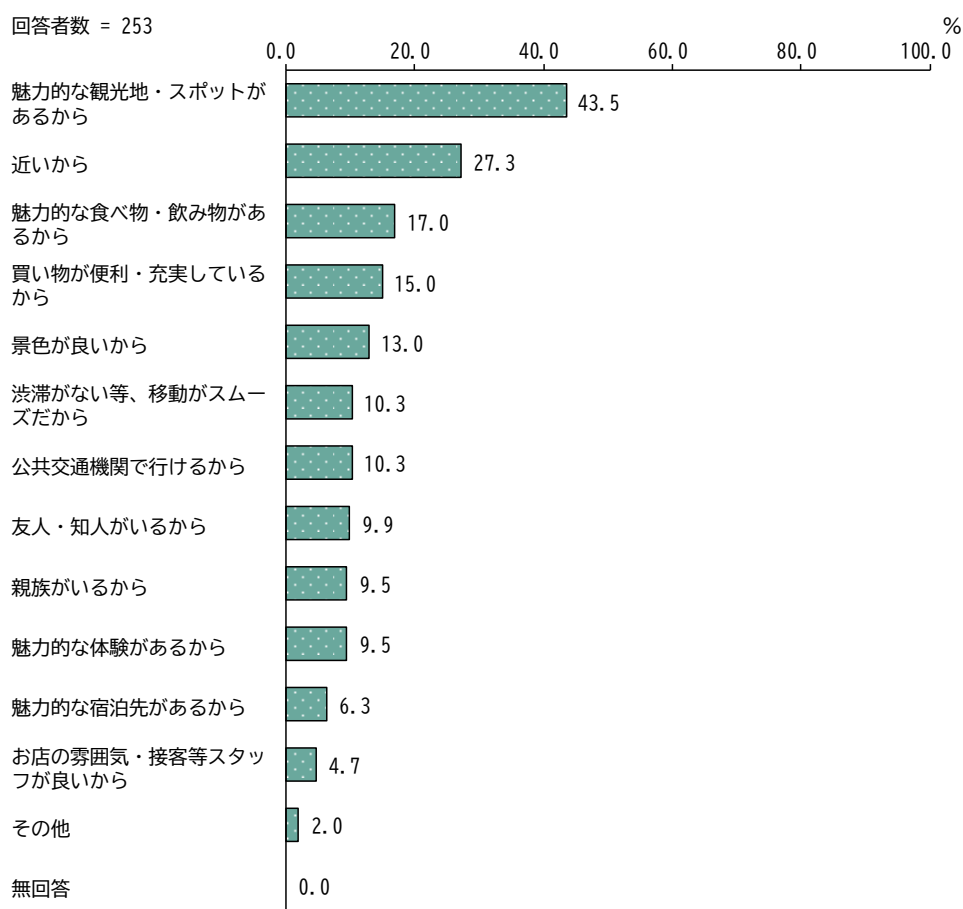


設問：茨城県つくば市のイメージとして、あてはまるものは、以下のうちどれですか

回答者数 = 1,049



設問：つくば市へまた行ってみたいと思うのはなぜですか



第1章

第2章

第3章

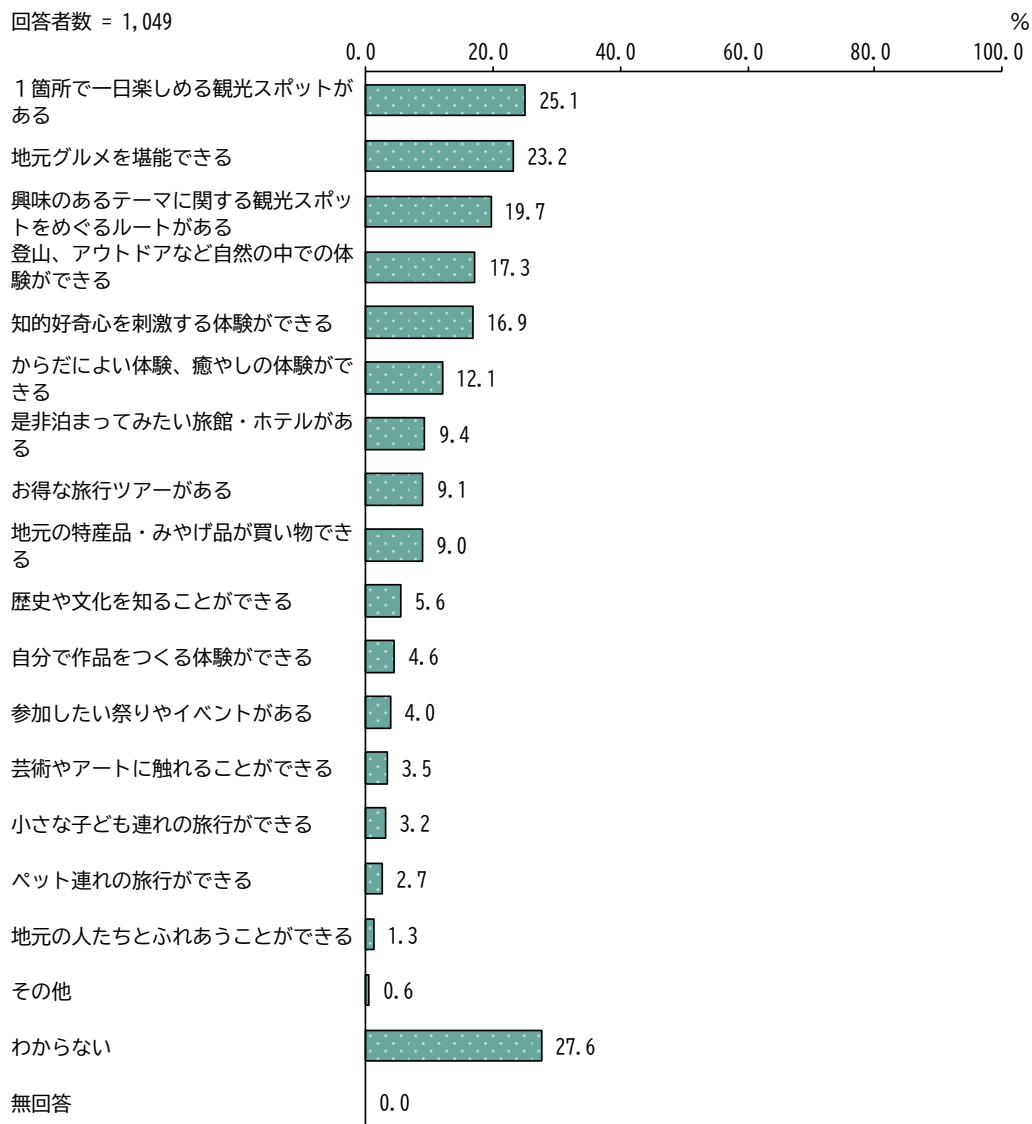
第4章

資料編



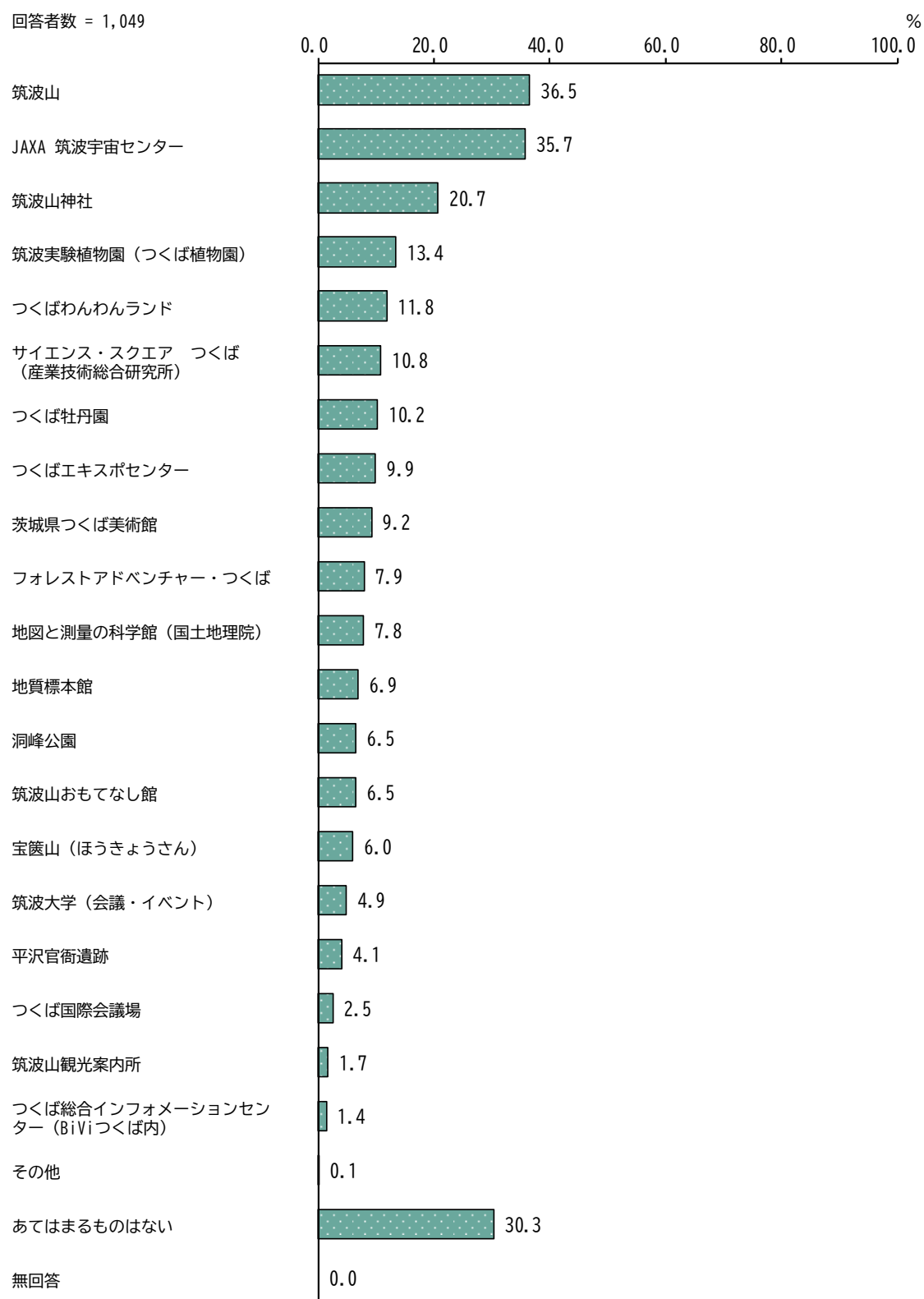
設問：茨城県つくば市にどのような魅力があれば行きたいと思いますか

回答者数 = 1,049



設問：次のつくば市内の施設で行ってみたいと思う施設はどれですか

回答者数 = 1,049



第1章

第2章

第3章

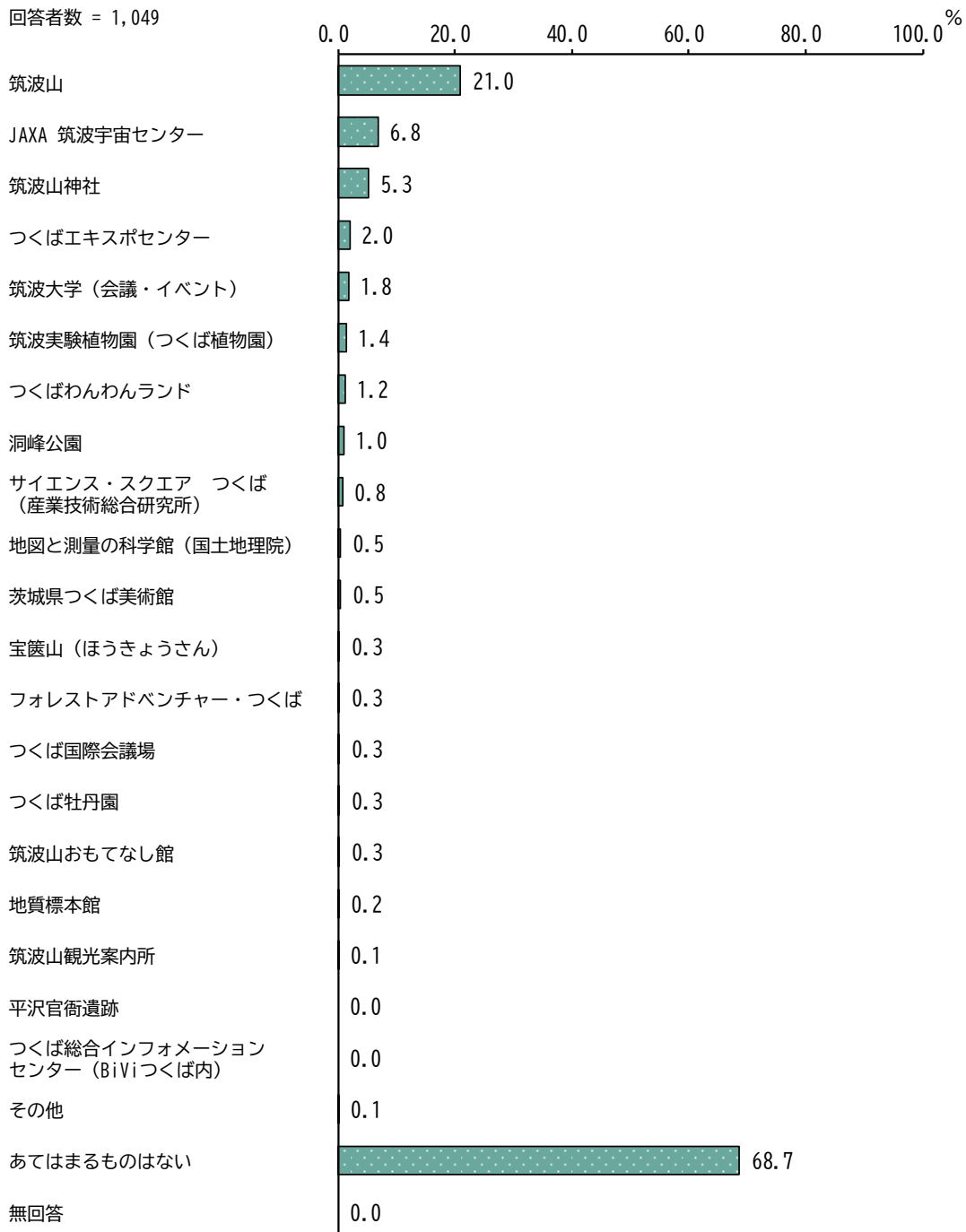
第4章

資料編

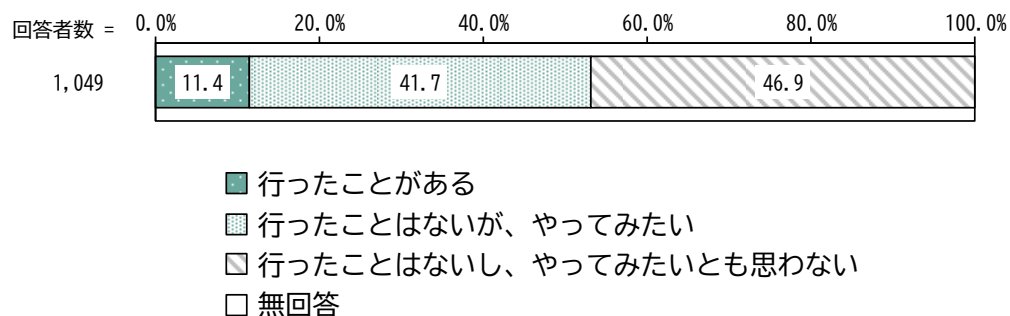


設問：次の茨城県つくば市内の観光地・施設の中であなたが知人友人にお勧めしたいものはどれですか。

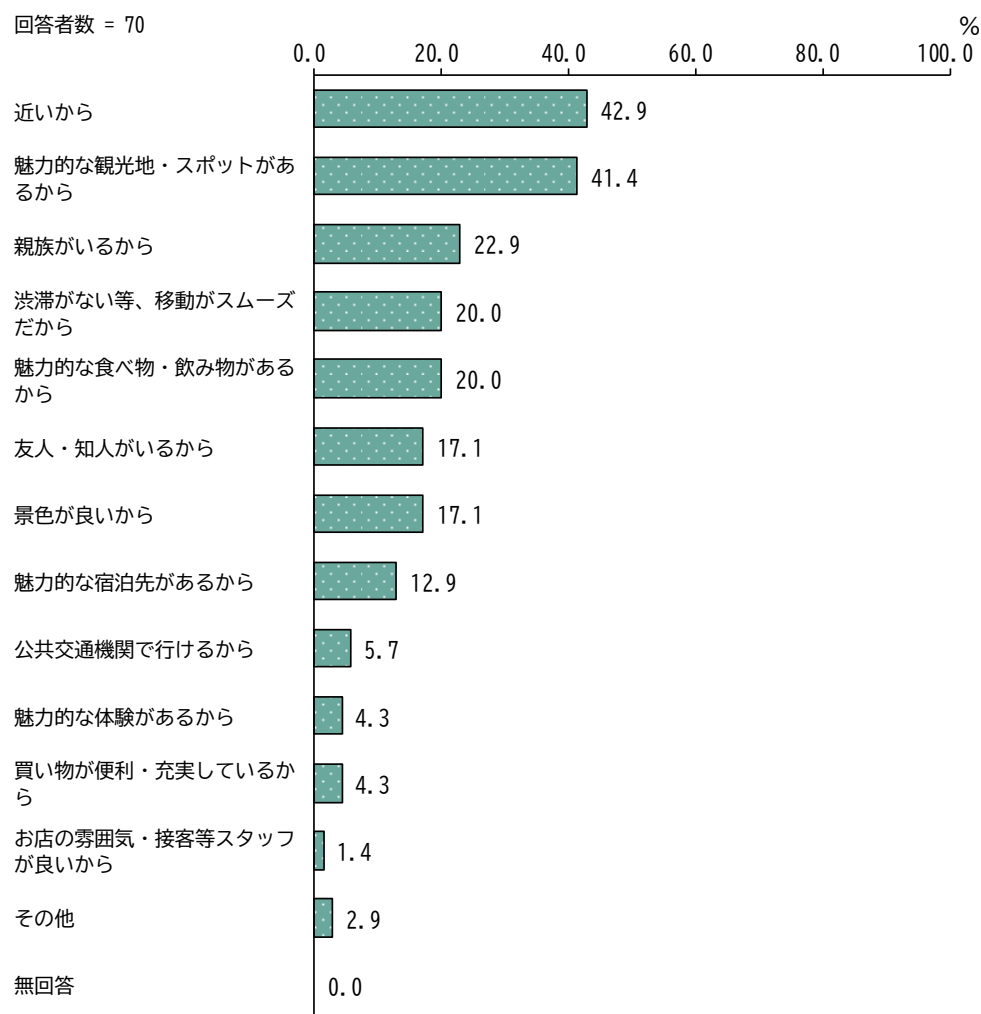
回答者数 = 1,049



設問：筑波山登山など、屋外の自然体験（アクティビティ）を茨城県つくば市で行ったことがありますか

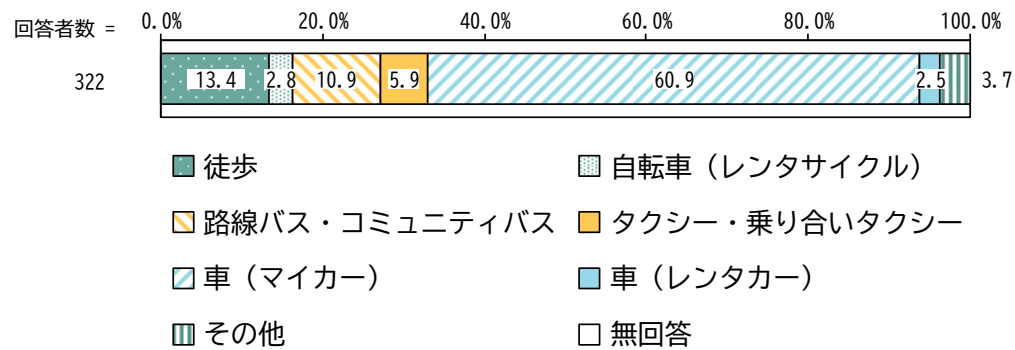


設問：茨城県によく行く理由は何ですか

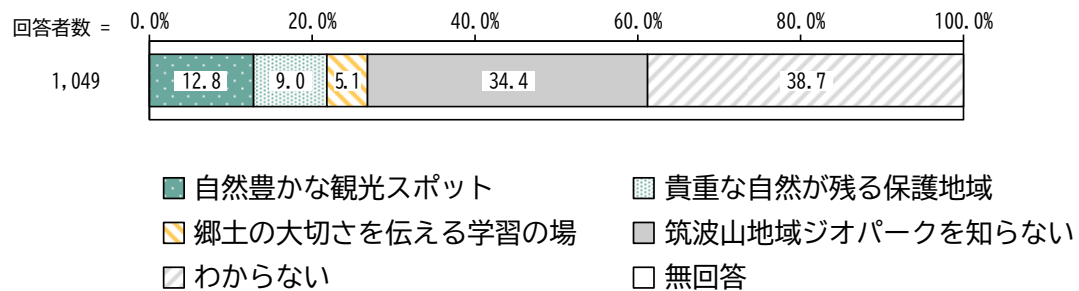




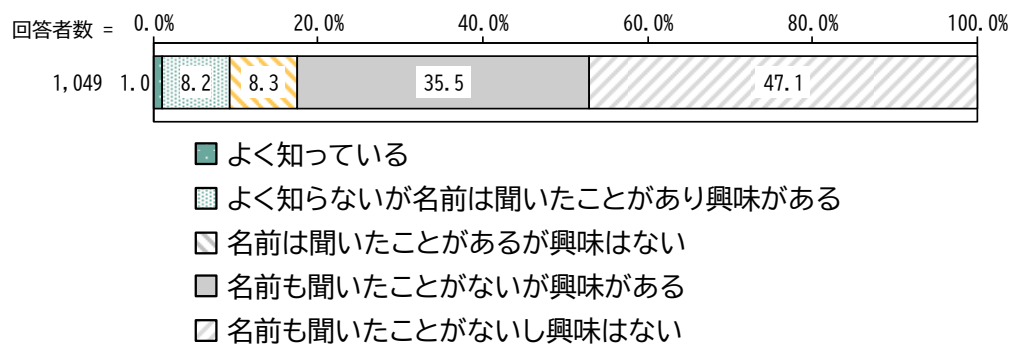
設問：茨城県つくば市内ではどのように移動する事が多いですか



設問：筑波山地域ジオパークのイメージに近いものはどれですか

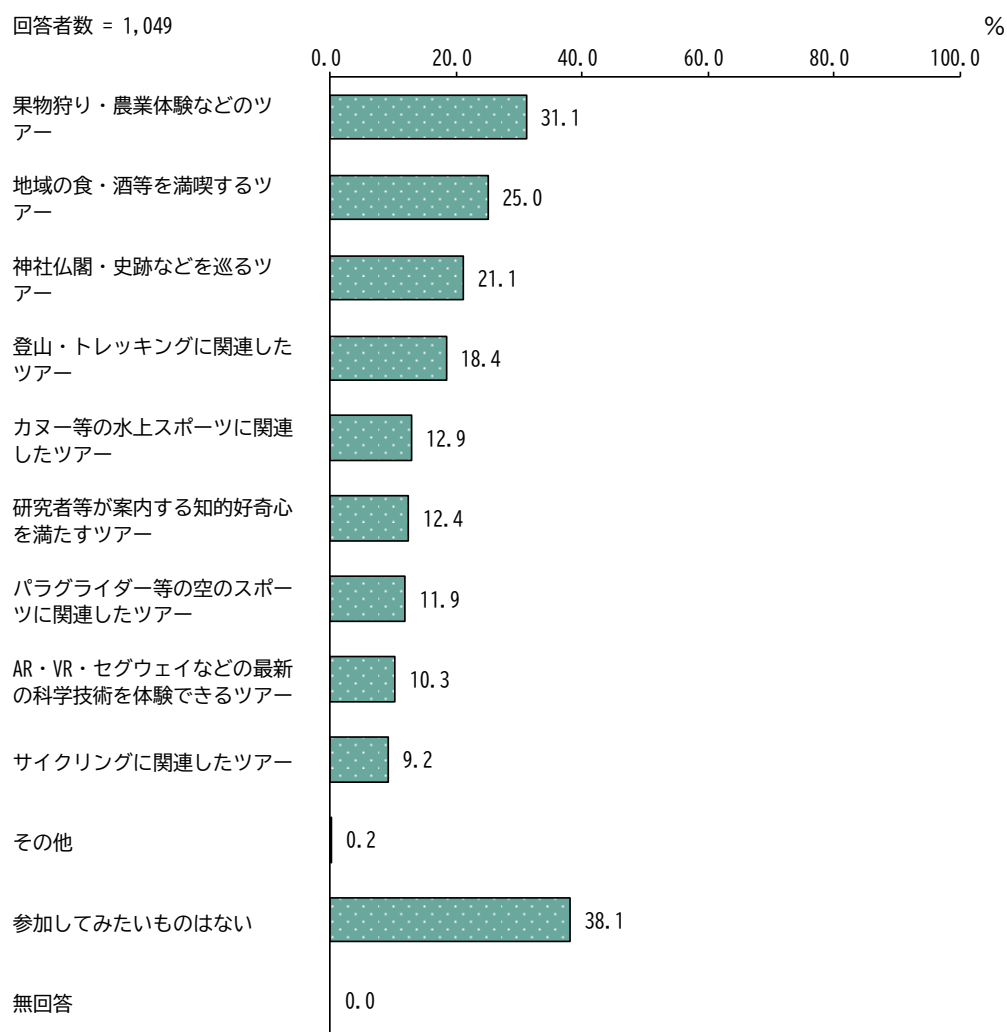


設問：筑波山地域ジオパークを知っていますか



設問：筑波山地域ジオパークの大地の恵みを感じるツアーとして参加してみたいものはどれですか

回答者数 = 1,049



第1章

第2章

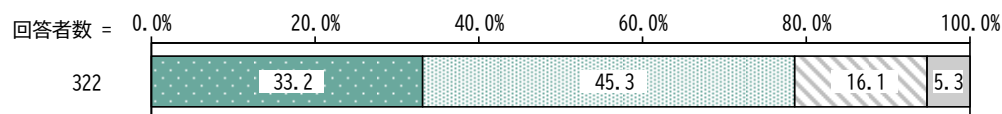
第3章

第4章

資料編



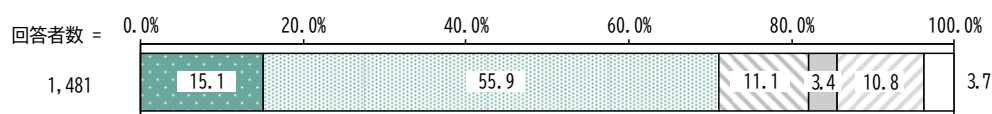
設問：茨城県つくば市へは、また行ってみたいと思いますか



- ☒ 近いうちに行ってみたい
- ☒ 将来機会があれば行ってみたい
- ☒ 自ら行ってみたいとは思わないが、人から誘われれば行ってもよい
- ☒ 行ってみたいとは思わない
- ☒ その他

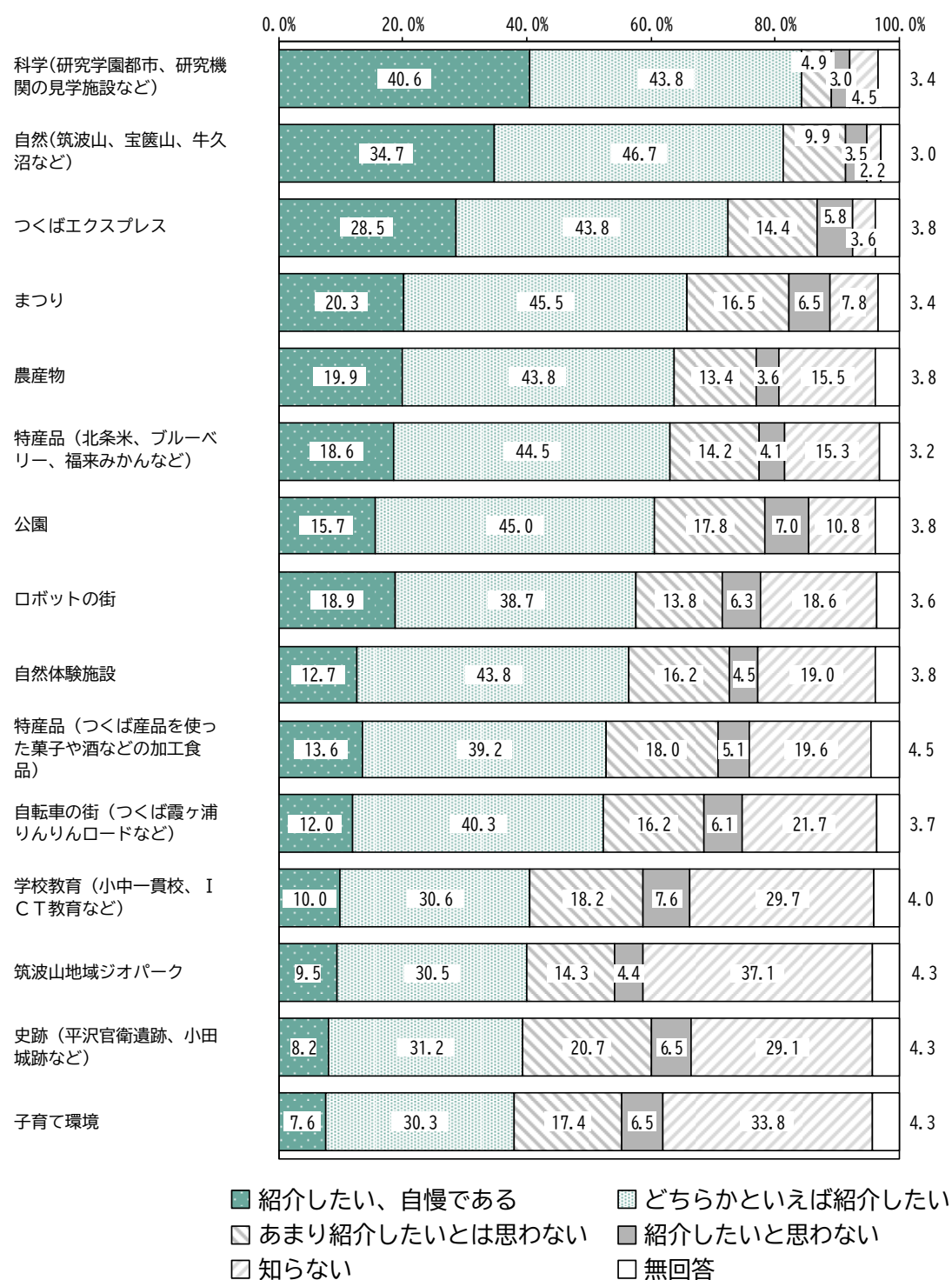
(2) 市民意識調査（令和元年度（2019年度））

設問：つくば市の景観について



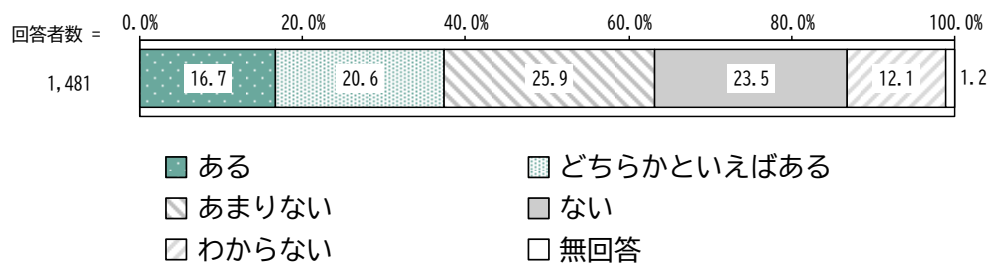
- ☒ 優れている
- ☒ どちらかといえば優れている
- ☒ どちらかといえば優れていない
- ☒ 優れていない
- ☒ わからない
- ☒ 無回答

設問：紹介したいつくば市の魅力について

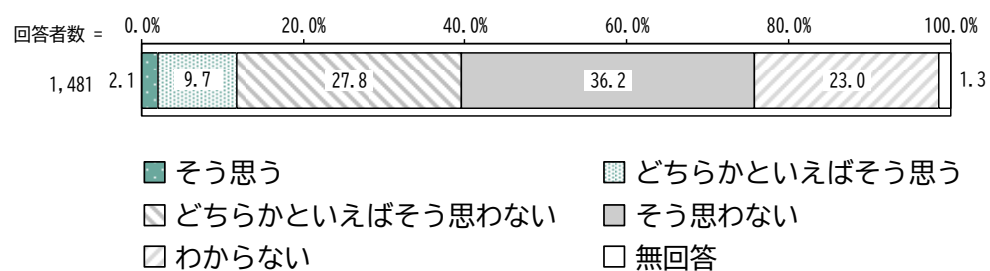




設問：つくばが「科学のまち」であることの恩恵を感じるかについて



設問：先端的な製品・サービスが暮らしの中にかかれていると思うかについて



4 用語解説

【あ行】

アフターコンベンション (after convention)

見本市・シンポジウム・博覧会など、コンベンション後の催しや懇親会のことを指す。

インバウンド (inbound)

外国人が訪れる旅行を指す。日本へのインバウンドについては、訪日（外国人）旅行という。

エクスカージョン (excursion)

訪れた場所で、地域の自然や歴史、文化など、様々な学術的内容で専門家の解説を聞くとともに、参加者も現地での体験や議論を行い、理解を深めていく「体験型の見学会」のことを指す。

エコ・ツーリズム (eco tourism)

エコ・ツーリズムとは、地域ぐるみで自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力を観光客に伝えることにより、その価値や大切さが理解され、保全につながっていくことを目指していく仕組み。

【か行】

グリーン・ツーリズム (green tourism)

農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動を指す。

コンベンション (convention)

博覧会や見本市、会議といった大規模な催しを指す。

【さ行】

ジオパーク (geo park)

「地球・大地（ジオ：geo）」と「公園（パーク：park）」とを組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、貴重な地形・地質やそれと関連した地域資源を保全し、教育や観光に活用している地域を指す。

スポーツ・ツーリズム (sports tourism)

スポーツを見るまたは行うための旅行及びそれに伴う周辺観光や、スポーツを支える人々との交流などスポーツに関わる旅行を指す。

サステナブルツーリズム (sustainable tourism)

訪問客、業界、環境及び訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在及び将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光を指す。



【た行】

地域経済支援システム（RESAS）

地域経済分析システム（RESAS：リーサス）は、地方創生の様々な取組を情報面から支援するために、経済産業省と内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部事務局）が提供している。

自治体職員や、地域の活性化に関心を持つ様々な分野の方々によって、効果的な施策の立案・実行・検証のためなどに広く利用されている。

【は行】

フットパス（footpath）

元々は、森林や田園等に設けられた小道・小径の意味。現在のフットパスは、イギリスの歩行権運動に由来し、「歩くことを楽しむための道」として整備された道を指す。

【や行】

ユニバーサルデザイン（universal design）

ユニバーサルデザインはあらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等に関わらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。

【英数字】

ICT（アイシーティー）

Information and Communication Technologyの略称。

「情報通信技術」の略で、IT（Information Technology）とほぼ同義の意味を持つが、コンピューター関連の技術をIT、コンピューター技術の活用に着目する場合をICTと区別して用いる場合がある。国際的にはICTが定着していることから、日本でも近年ICTがITに代わる言葉として広まりつつある。

IoT（アイオーティー）

Internet of Thingsの略称。

「モノのインターネット」の略で、情報通信技術の概念を指す言葉。これまで主にパソコンやスマートフォンなどの情報機器が接続していたインターネットに、産業用機器から自動車、家電製品まで、様々な「モノ」をつなげる技術です。

JNTO（ジェイエヌティーオー）

Japan National Tourism Organization（正式名称：独立行政法人 国際観光振興機構）の略称。

世界の主要都市に海外事務所を持ち、日本へのインバウンド・ツーリズム（外国人の訪日旅行）のプロモーションやマーケティングを行っている。

MICE（マイス）

企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition／Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。



SDGs（エスディーゼズ）

「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称。

持続可能な開発のための17のグローバル目標と169のターゲットからなる、国連の開発目標。

SNS（エスエヌエス）

SNS（Social Networking Service）の略称。

人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型のWebサイト。

VFR（ブイエフアール）

VFRとは Visit Friends and Relativesの略称。旅行目的の分類の一つ。友人や親族の訪問を目的とした旅行を指す。



5 つくば市の観光資源の詳細

1 豊かな自然環境

●筑波山地域ジオパーク

筑波山地域ジオパークは、平成28年（2016年）9月に日本ジオパークの一つとして認定され、令和3年（2021年）2月に再認定されました。茨城県中南部に位置するつくば・石岡・笠間・桜川・土浦・かすみがうらの6市エリアから構成され、日本百名山にも選ばれている「筑波山」をはじめ、日本第2位の湖面積を誇る「霞ヶ浦」や日本最大の平野「関東平野」など、日本を代表する大地の遺産が含まれています。また、筑波山地域ジオパーク推進協議会では、筑波山地域ジオパークをイメージできるような食品・料理を「筑波山地域ジオパーク認定商品」として、令和2年度（2020年度）に13事業者14品が新しく認定され、計36品となりました。認定商品には認定ロゴマークの表示が認められており、筑波山地域ジオパークのホームページ、各種イベント等でのPRにより、食を通じた筑波山地域ジオパークの魅力を発信しています。

●筑波山

筑波山は日本百名山の一つで、山肌の色が朝は藍、昼は緑、夕は紫と、一日に幾度も表情を変えることから”紫峰”と呼ばれている美しい山です。男体山、女体山の二峰を持つことから、生産のシンボル、神の住む山として、古くから多くの人々に愛され、信仰されてきました。また「西の富士、東の筑波」と並び称されてきた優美な姿は、多くの歌人を魅了し「万葉集」や「小倉百人一首」などに数多く歌われています。また、筑波山からは富士山の美しい景観や関東平野の夜景を眺められるため、2005年に関東の富士見百景、2018年に日本夜景遺産に選定されました。

●筑波山温泉郷

関東の名山筑波山の中腹には、筑波温泉・筑波山温泉「双神の湯」のふたつの源泉があります。泉質は、アルカリ性の強い単純温泉で肌がすべすべになることから「美肌の湯」ともいわれています。

●筑波山梅林

筑波山中腹の標高約250m付近に位置する市営の梅林で、筑波山地域ジオパークの見どころの一つとなっています。4.5haの園内には、約1,000本の白梅・紅梅が植えられています。梅林最上部には、見晴らしの良い「展望四阿（あずまや）」があります。また、筑波山梅林には約1,000株のあじさいが植えられており、毎年梅雨の時期に見頃をむかえます。

●フォレストアドベンチャー・つくば

フォレストアドベンチャー・つくばは、つくば市が整備し、民間事業所が運営する公設民営の観光施設です。森の地形や樹木をそのままいかし、樹木間をワイヤーや丸太などで繋いで作ったコースを、専用のハーネスを着用して渡っていく自然共生型アウトドアパークです。コースは3コースあり、身長110cm以上、体重130kg以下のお子様から大人まで楽しむことができます。

つくば市が整備し、民間事業所が運営する公設民営の観光施設です。

●つくば霞ヶ浦りんりんロード

旧筑波鉄道の廃線敷と霞ヶ浦を周回する湖岸道路を合わせた全長約180 Kmのサイクリングコースです。日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングルートを国内外へPRを図るために、令和元年（2019年）11月に一定の水準を満たすルートを対象とした「ナショナルサイクルルート」に選ばれました。

●不動峠

石岡市とつくば市の境にある標高294mの峠です。自転車愛好家たちに人気があり、週末はヒルクライムを楽しむ人たちで賑わっています。

●桜川

桜川は、茨城県の南西部を流れ霞ヶ浦に流入する利根川水系の一級河川です。

●小貝川

小貝川は、関東平野を北から南へ流れる一級河川です。利根川水系松川の支流で、支流中2位の長さを誇ります。周辺には、小貝川スポーツ公園があり、市民の憩いの場ともなっています。

●牛久沼

牛久沼は、茨城百景の一つです。沼の中の中央に長く突き出た泊崎大師堂があり、多くの観光客が訪れています。

●宝篋山

宝篋山はつくば市北東部にある、標高461mの山です。東には霞ヶ浦、遠くに太平洋(鹿島灘)を望むことができます。また、南西には関東平野を一望でき、空気の澄んだ日には富士山が、北には名峰筑波山、その先には榛名山・赤城山・日光連山など360度のパノラマを楽しむことができます。2005年には関東の富士見百景に選定されました。登山コースも6コース整備されており、それぞれ特色ある景色や植物を楽しむことができます。



●筑波ふれあいの里

筑波ふれあいの里は、自然的要素(水郷筑波国定公園区域内のため自然が残されており、沢水が豊富であり、景観がよい等)、文化的要素(筑波山神社、蚕影神社、六所皇大神宮、夫木ヶ石等)に恵まれた動植物の多いところです。大小の研修室を備えた宿泊施設をはじめ、バーベキュー場やコテージ、キャンプ場も併設しています。

●豊里ゆかりの森

豊里ゆかりの森は、敷地面積12haのアカマツとクヌギの平地林の自然公園です。カブトムシやクワガタムシ、アゲハチョウその他の蝶等の昆虫採集や観察もできます。夏にはオニヤンマも飛び交い、小鳥のさえずり等々と自然がいっぱいです。ゆかりの森の中には、昆虫館、宿泊施設「あかまつ」、など様々な施設があります。

●荃崎こもれび六斗の森

荃崎こもれび六斗の森は、豊かな自然(田園、牛久沼に流れる谷田川)を眺望できる高台に位置し、季節によって様々な自然とふれあうことができます。豊かな自然の中で、キャンプ・バーベキューが行えます。

●高崎自然の森

高崎自然の森は、つくば市が管理する森林公園です。自然環境の保全と人と自然とのふれあいを目的に地域の平地林を開放しています。園内は、いくつもの散策路が設けられ、季節の移り変わりでいろいろな発見があり、たくさんの生きもののたちと出会い、豊かな自然を満喫することができます。

2 イベント、まつり

●まつりつくば

毎年8月下旬に開催されるつくば市最大のイベントです。つくばエクスプレス「つくば駅」周辺に複数の会場があり、多彩なイベントが開催されます。

●つくばフェスティバル

昭和63年(1988年)の筑波研究学園都市建設25周年記念事業として始まり、近年は2日間で約14万人が来場する、つくばを代表するイベントの一つです。

●筑波山麓秋祭り

筑波山麓の5地区（筑波、田井、北条、平沢、小田）で毎年10月下旬から11月上旬にかけて開催されているイベントです。史跡公開や展覧会などの催し物があります。

●筑波山梅まつり

茨城県二大梅まつりの一つで、早春の筑波山を代表するイベントです。筑波山梅林で毎年2月下旬から3月中旬にかけて開催されています。

●筑波山ガマまつり

ガマまつりは、昔からガマで商売をしている関係者が、ガマの油を生み出したといわれる光誉上人の供養と商売繁盛を祈願するおまつりとして永く開催されています。

●くさざき夢まつり

荏崎地区の各種団体等が一体となって開催している、地域のお祭りです。出店やステージイベントなど様々な催し物があり、幅広い世代が参加しています。

3 歴史・文化資源

●筑波山神社

江戸時代、筑波山は江戸から見て鬼門にあたることから、徳川幕府により篤く信仰されてきました。明治8年（1875年）に中禅寺大御堂の跡地に拝殿が造られ、昭和3年（1928年）の改修を経て現在に至ります。また、

●筑波山大御堂

筑波山神社の近くにあり、大本山護国寺別院、坂東三十三観音の二十五番目の札所として、多くの人たちが訪れてきます。

●国指定史跡 平沢官衙遺跡

古代（奈良・平安時代）の常陸国筑波郡の郡役所跡と想定される遺跡で、昭和55年（1980年）に国の史跡指定を受けました。校倉、土倉、板倉の3棟の高床倉庫を復元して古代空間を再現し、案内所を併設しています。



●蚕影神社

神郡のつくば道沿いにある全国にある蚕影神社の総本山です。養蚕業が盛んであった昭和中期まで関東一円、遠くは長野まで信仰を集めていました。

●大曾根鹿島神社

日本武尊が東征の時、船で上陸し、飲み水を求めて立ち寄った場所という伝説が残る神社です。茨城県の環境保全地域の制度により、「緑地環境保全地域(自然保護公園)」に指定されています。

●金村別雷神社

小貝川のほとりに存在する神社で、「関東三雷神」の一つであり、茨城百景にも選ばれています。雷を支配する別雷大神を祭神としています。

●千勝神社

千勝神社は、つくば市南部にある神社で、社伝によれば今から1,500年ほど前の第25代武烈天皇の時代の502年に、常陸と下総の国境で、猿田彦大神を祭神として祀ったことに始まると伝わります。高さ約10m、幅約9mの総檜造りで、茨城県下随一の大きさを誇る鳥居を潜って入る境内には、関東唯一の三殿並立の社殿が建っています。

●普門寺

普門寺は鎌倉時代末、元享年間(1321～1324年)、筑波山麓一帯で布教活動を行っていた乗海大和尚によって創設された真言宗豊山派の寺院です。

●泊崎大師堂

泊崎大師堂は、弘法大師(空海)が泊崎の地を訪れて千座護摩を修めたところに建てられたと伝えられています。昔から縁結びと長寿に御利益があるとされています。

●つくば市出土文化財管理センター

平沢官衙遺跡の近くに位置しており、市内の遺跡発掘調査による出土品を整理・保管し、その一部を展示しています。付近にある北条中台遺跡の埴輪や、島名熊の山遺跡の須恵器大甕、小泉館跡の陶磁器などを展示しています。

●つくばセンター広場

TXつくば駅に近接している広場です。まつりつくばなど大きなイベントの際にメイン会場として使用されることが多い場所です。商業施設が併設されているため、買い物にも便利です。つくばセンタービルとともに建築家・磯崎新氏により設計されました。

●国指定史跡 小田城跡

小田城跡は、鎌倉から戦国時代まで常陸国南部で最大の勢力を誇った小田氏の居城跡で、昭和10年に国の史跡指定を受けました。堀と土塁に囲まれた本丸空間内に池等を復元しており、小田氏と小田城について学習できる案内所も設けています。

●長屋門

江戸期に生まれた農家、商家の建築様式で、両サイドに居住ないし納屋空間をしつらえた大型の門があります。つくば市内には塚本邸をはじめ、200軒以上もの長屋門が現在あります。

●つくば道

つくば道は筑波山の参拝のために徳川時代に整備された参道であり、その風情が現在も残されています。国の「日本の道100選」に選ばれています。

●桜歴史民俗資料館

桜地区の考古資料や民具を展示しています。ナウマンゾウの化石、縄文時代のクッキー状炭化物や土偶、県指定文化財「古来の板碑」などを展示しているほか、農作業や養蚕、近代までこの地域で盛んであった藍染の民具など、貴重で興味深い資料を展示しています。

●つくば市谷田部郷土資料館

谷田部地区内の文化財、遺物、古文書などの歴史資料を展示しています。江戸時代の発明家「飯塚伊賀七」が製作した木製和時計の復元品を展示しています。また、谷田部藩細川氏の展示資料もあります。



4 科学の観光資源

●JAXA 筑波宇宙センター

宇宙開発の最先端分野の研究・開発・試験を行っている我が国の宇宙開発拠点の1つとなります。展示館「スペースドーム」には、国際宇宙ステーションの一部である、日本が開発した「きぼう」日本実験棟の実物大モデルなどが展示されています。現在の宇宙開発の取組や、これまでの歴史、実物のHⅡロケットや人工衛星の試験モデルなど、本物の宇宙開発を身近に感じることができる施設となっています。

●つくばエキスポセンター

科学技術を見て・触れて・楽しむことができる科学館。科学の不思議を学びながら体験できる展示のほか、世界最大級のプラネタリウムでは大迫力の映像と美しい星空の世界が楽しめます。昭和60年（1985）年に開催された科学万博にて、日本の科学技術を紹介する恒久施設として誕生しました。

●サイエンス・スクエアつくば（産業技術総合研究所）

「サイエンス・スクエアつくば」は、国立研究開発法人産業技術総合研究所（以下「産総研」という。）が行っている最先端の研究の成果をわかりやすく紹介している「産業技術のショールーム」です。産総研の幅広い研究を、試作品や動画などをまじえて紹介し、タッチパネルや音声ガイド等の情報端末も用意されています。最先端の研究が未来の社会をどのように変えていくのかについて、親子で考えるきっかけとなる施設です。

●地質標本館

地球科学専門の博物館です。「地球の歴史となりたち」「地球と人間の関わり合い」を理解していただくために、研究活動で得られた成果を最新の地球科学情報とともに日本の地質、地下資源、海洋の地質、地球環境、火山と地熱、地震と活断層などのテーマごとにまとめて展示しています。その他、岩石・鉱物・化石などの標本も多数展示しています。

●筑波実験植物園（つくば植物園）

国立科学博物館が植物の研究を推進するために設置された植物園です。およそ14haの敷地には、日本に生育する植物、私たちの生命（いのち）を支える植物、筑波山で見られる植物など、7,000種類を超える植物が植栽され、およそ3,000種類が見学できます。

●地図と測量の科学館（国土地理院）

地図や測量に関する歴史、原理や仕組み、新しい技術などを総合的に展示する施設です。館内には、専用の赤青メガネで見ると立体的に浮き上がって見える日本列島が広がっています。古地図や現存する世界最古のものといわれる地球儀などの展示、楽しみながら地理や地図が学べるパソコンコーナーもあります。館外の地球ひろばには、地球の丸さを実感できる直径22mの日本列島球体模型があります。

●つくばサイエンスツアー（つくばサイエンスツアーオフィス）

土曜・日曜・祝日（年末年始を除く）に運行している、市内6つの研究教育施設を巡る循環バスツアーです。第1・3土曜日には限定でスタッフガイド同行コース（予約制）を開催しています。

5 特産品

●福来みかん

筑波山麓にのみ自生する小ぶりのみかんで、爽やかな香りや酸味が特徴です。皮を乾燥させた薬味をはじめ、菓子、酒、ラーメンなど様々な加工品に活用されています。

●ブルーベリー

平成11年に「ブルーベリーシティ宣言」をしたつくば市は、日本三大ブルーベリー生産地とも呼ばれ、いち早くブルーベリーに取り組んだ産地です。現在では市内に30を超えるブルーベリー農園が点在しており、6月～8月にはブルーベリーの摘み取り体験も楽しめます。ブルーベリーは品種も多く、寒冷地でよく育ち大粒で爽やかな酸味が特徴のハイブッシュ系と温暖な地域で育てられ甘味の強いラビットアイ系があり、品種のバリエーションも豊富だといわれています。

●芝

茨城県は芝の栽培面積約3,000haの日本一の産地であり、そのほとんどがつくば市で生産されています。平坦な地形を利用して芝が栽培され、日本有数の芝産地として確立されました。



●米

つくば市は皇室献上米として納められていた米の産地でもあります。筑波山麓の市北部などのブランド米、寒暖差をいかした滋味あふれる食味に優れた筑波北条米などのブランド米、市南部では牛久沼を背に豊かな水資源と平地をいかしたコシヒカリが栽培されています。

●日本酒

筑波山の豊かで上質な湧水を使って丹精込めて造られるつくばのお酒で、つくばと筑波山にちなんだ名をつけられた銘酒があります。

●筑波山地域ジオパーク認定商品

筑波山地域ジオパークのPR及び地域の活性化を目的として、地域内で採れた食材を使った商品や、地域内で製造された商品で、筑波山地域ジオパークをイメージできるような商品を「筑波山地域ジオパーク認定商品（食品及び料理）」として、平成30年度から認定してきました。

●ワイン

つくば市産ワイン用ブドウを使ったワインを製造・販売するワイナリーが、平成29年12月26日付で構造改革特別区域計画「つくばワイン・フルーツ酒特区」に認定されました。

6 食文化

●パン

つくば市は、「パンの街つくば」と呼ばれるほど、パン屋の名店が多く存在します。

●ラーメン

つくば市は、ラーメンの街として、魅力あるラーメン店がしのぎを削る激戦区。市内にラーメン専門店は約100店舗、ラーメンを食べられるお店は約200店舗にもなります。

●つくばうどん

筑波山名物つくばうどんは頭文字をとって筑波茜鷄の「つ」くね、地元産のしいたけやゴボウなどの「く」ろ野菜、ローズポークの「ば」ら肉の具に地産小麦とレンコンパウダーを使用した麺のご当地うどんです。店舗ごとにアレンジが加わり、味付けも異なっています。

7 花の名所

●科学万博記念公園

昭和60年（1985年）の科学万博跡地に作られました。見ものは高さ10mの“科学の門”で、小さな球がぶら下がっているだけなのですが、見る方向により歴史に残る4人の科学者（東側から見るとエジソン、西側からはアルキメデス、南側はニュートン、北側からガリレオの顔が見えます）の顔が浮かび上がるという不思議な門です。園内には、家族連れや若者たちでにぎわう芝生広場や池、アヤメ園、そして全天候型テニスコートが5面あります。

3月下旬から4月上旬には、300本ものソメイヨシノが、広い園内をピンク色に染め、つくば市の桜の名所の1つとして有名です。

●北条大池

江戸時代の古地図にはすでに載っている農業用ため池です。周囲には桜並木の遊歩道があり、桜の名所として知られています。

●つくば牡丹園（Peony Garden Tokyo in Tsukuba）

つくば牡丹園は、550種類の牡丹や250種類のシャクヤクをはじめとした花々が咲き誇ります。開園期間は牡丹やシャクヤクの季節、4月中旬～5月下旬です。

●筑波山の福寿草

2月から3月にかけて、筑波山のケーブルカー周辺で咲いている様子を見ることができます。

●筑波山のカタクリの花

筑波山頂周辺の自然研究路やカタクリの里、ケーブルカー沿線には、3万株のカタクリ草が自然のまま群生しており、4月中旬に見頃を迎えます。

●洞峰公園

つくば市最大規模の公園です。沼あり、緑ありの豊かな自然環境と充実したスポーツ施設が特徴となっています。ソーラーシステムを有する温水プール、体育館、ナイターも可能な砂入り人工芝のテニスコート6面、そのほか野球場、多目的フィールド、フィールドアスレチックなどがあります。

●燧ヶ池周辺

筑波山の麓にある田園の中にある農業用ため池です。背景には堂々たる筑波山、そして枝振りの良い見事な古木の大榎という素晴らしいロケーションであり、季節ごとに桜、蓮の花、彼岸花と色を添えます。筑波山の隠れた名撮影ポイントとして写真愛好家に人気が高くなっています。

●農林さくら通り

つくば市の桜の名所として全長約1.5kmの桜並木道が見られます。

6 これまでの取組実績 平成28年度（2016年度）～令和2年度（2020年度）

ア 観光施設整備

筑波山観光施設整備事業	
筑波山における魅力ある観光資源をいかし、訪れる人々が安全で充実した時間が過ごせる観光施設等の整備を行う。	
(1) 筑波山観光案内所整備	令和4年（2022年）3月 竣工予定 令和2年度（2020年度）：観光案内所解体工事 仮設観光案内所（設置） 観光案内所擁壁改築工事（次年度繰越）
(2) 筑波山梅林整備	令和2年度（2020年度）：梅林内Wi-Fi整備、誘導サイン設置 平成30年度（2018年度）：四阿茅葦屋根ふき替え、菱露台整備 平成29年度（2017年度）：見返り縁台再整備、扇橋再整備 平成28年度（2016年度）：おもてなし館周辺整備（木製デッキ、木製階段、石階段、遊歩道等舗装）
筑波山麓整備事業	
筑波山麓地域の周遊観光を促進し、地域経済に寄与するため、利便施設等を整備する。	
(1) 筑波山麓地域整備	令和元年度（2019年度）：神郡駐車場整備、宝篋山登山道看板設置 平成28年度（2016年度）：バイオトイレ案内看板設置
筑波山観光用水渇水対策事業	
筑波山観光用水の安定供給に向け、老朽化した水道施設を改良し、観光客の利便性を確保する。	
令和4年（2022年）3月：竣工予定 筑波山観光用水管路改良工事 令和2年度（2020年度）：管路改良測量・設計（女体山頂～つつじヶ丘）、水源湧水量調査 平成30年度（2018年度）：御幸ヶ原公衆トイレ受水槽設置工事、水源湧水量調査 平成29年度（2017年度）：水源湧水量調査	

イ 観光施設維持管理

観光施設維持管理事業	
快適で魅力ある観光地として、市内の観光施設を適正に管理する。	
(1) 筑波山御幸ヶ原（山頂）観光施設の維持管理（通年）	①公衆トイレ清掃委託（毎日） ②浄化システム点検委託（年8回） ③浄化槽点検委託（年24回） ④汚泥汲取委託 ⑤器具類交換、浄化槽設備等の修繕 ⑥ケーブルカー山頂駅 2階の休憩スペースの活用。
(2) つつじヶ丘登山コースの維持管理	①おたつ石コース除草 ②つつじヶ丘高原除草
(3) 市営筑波山及び山麓駐車場、公衆トイレの維持管理	①市営筑波山駐車場施設運営委託（毎日） ②市営山麓駐車場（小田・平沢・筑波・六所・神郡）除草等の管理 ③筑波山駐車場公衆トイレ及び浄化槽：トイレ清掃（毎日）、浄化槽点検（毎月実施）
(4) 筑波山梅林の維持管理	①梅林剪定、施肥 ②梅林内木道修繕、案内サイン修繕 ③梅林内除草管理等（年間）
(5) 宝篋山小田休憩所及び宝篋山観光施設の維持管理	①宝篋山小田休憩所運営委託 ②宝篋山バイオトイレ清掃（年24回）
(6) 筑波山観光案内所・筑波山おもてなし館の観光案内及び維持管理	①施設運営委託 ②定期清掃

森林体験パーク施設管理事業

森林を活用した自然共生型アウトドアパークとして、魅力ある通年型観光施設を提供する。

利用者数

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
利用者数	人	10,337	13,279	14,217	16,178	12,676

ウ 観光行事

まつりつくば事業

つくばならではの多様な文化をいかし、観光の振興と中心市街地の活性化を目的に、魅力あるコンテンツで来訪者や祭りに関わる誰もが楽しめる観光誘客イベントの開催を支援する。(大会本部)

来場者数

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
来場者数	人	中止	470,000	460,000	550,000	440,000

つくばフェスティバル事業

世界各国の文化と触れ合える飲食・体験ブースやステージなど、国際都市としてのつくばの魅力を伝えるため「ふれあい、そして国際交流」をテーマに春のイベントの開催を支援する。(実行委員会)

来場者数

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
来場者数	人	中止	150,000	140,000	75,000	140,000

くさぎ夢まつり事業

昭和49年(1974年)から商工産業祭、平成12年度(2000年度)からひまわりまつりとして開催され、現在は、荃崎地区の区長会やPTA等の関係団体で運営される「くさぎ夢まつり」として、幅広い年齢層が楽しめるイベントの開催を支援している。(補助事業)

来場者数

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
来場者数	人	中止	8,000	7,000	2,000	10,000



エ 観光振興

つくば観光コンベンション協会補助事業

市内経済の活性化及び観光施策の強化を図るため、つくば観光コンベンション協会が実施する各種観光事業を支援する。

(1) 観光宣伝事業

豊かな自然環境の「筑波山地区」と研究・教育機関が集積する「筑波研究学園都市」等の観光資源について市内外に広く PR を実施。

(2) 観光客誘致事業

夏の筑波山ガマまつり、秋の筑波山もみじまつり、春の筑波山梅まつりを開催し、筑波山への観光誘客を促進。

筑波山ガマまつり来場者数

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
来場者数	人	中止	5,000	5,000	5,000	5,000

筑波山梅まつり来場者数

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
来場者数	人	75,000	130,000	190,000	170,000	15,000

(3) コンベンション事業

つくばエクスプレスや茨城空港などからのアクセス利便性の良さをいかし、関係機関と連携して国際コンベンションを核とした MICE 誘致活動を実施。

国際会議

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
開催件数	件	1	62	45	56	63

国内会議

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
開催件数	件	11	100	87	92	79

経済波及効果

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
経済波及効果	千円	約 700,000	約 9,400,000	約 8,200,000	約 8,800,000	約 9,000,000

つくば観光コンベンション協会補助事業

(4) フィルムコミッション事業

つくば市の豊かな地域資源を映画や TV 等を通して全国に紹介することにより、つくば市の知名度向上を目的に、市内への誘致及び市内でのロケーション撮影を支援。

撮影

	単位	令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
撮影件数	件	17	71	61	44	62

経済波及効果

	単位	令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
経済波及効果	千円	約 15,000	約 65,000	約 57,000	約 56,000	-

観光振興事業

つくば観光コンベンション協会や関係機関と連携し、つくばの魅力ある観光資源を活用し、多様なニーズに合わせた各種事業を展開し、国内外からの観光誘客拡大を図る。

(1) 筑波山麓秋祭り補助事業

来場者

	単位	令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
来場者数	人	中止	52,000	68,000	63,000	53,000

(2) 観光案内業務

■観光案内業務

つくば総合インフォメーションセンター観光案内所

	単位	令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
観光案内所数	件	6,833	19,504	19,237	20,157	16,482

筑波山観光案内所

	単位	令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
観光案内所数	件	10,924	12,437	7,416	7,351	7,004

(3) スポーツツーリズム受入

■スポーツツーリズムの実績

利用団体数

	単位	令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
利用団体数	団体	3	82	87	94	60



MICE支援事業

MICEの開催を促進し、国際観光地域づくりの形成を図り、もって観光振興及び地域経済の活性化に寄与するため、補助金を交付する。

MICE支援補助事業

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
うち交付件数	件	0	29	18	17	19

筑波山交通渋滞対策事業

ゴールデンウィーク及び秋の行楽シーズンに関係機関と連携し、筑波山の交通渋滞対策として、渋滞情報や駐車場の情報を発信、混雑箇所への警備員の配置、看板設置による迂回誘導、併せてパークアンドバスライド等を実施する。

また、登山道においても、激しい混雑が発生していることから、女体山頂付近で効果的な誘導整理を実施する。

パークアンドバスライド実施日数（春）

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
実施日数	日	中止	3	3	3	3

パークアンドバスライド実施日数（秋）

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
実施日数	日	中止	1	3	3	-

おもてなし観光推進事業

つくば市を訪れた方の満足度向上を目的に、つくばの魅力を案内する観光ボランティアガイドの育成事業及び筑波山の豊かな自然や歴史などを紹介するネイチャーガイド事業を実施する。

(1)観光ボランティアガイド育成事業

育成講座開催件数

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
開催件数	回	11	16	8	12	10

(2)筑波山ネイチャーガイド事業

開催日数

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
開催日数	日	中止	9	9	11	9

フットパス事業（周遊観光推進事業）

市内に点在する観光資源を活用し、市内周遊観光を促進するため、フットパスの企画及び道標を整備し、年間を通して魅力的な観光地を提供し、通年での誘客促進を図る。フットパスコースは5コースあります。

増刷数

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
増刷数	部	8,000	9,000	10,000	-	10,000

サイエンスツアー事業

つくばに所在する研究機関等との連携を強化し、観光客へ本市に集積する科学技術への理解を深めてもらうとともに、科学教育の充実や、観光、飲食業をはじめとする地域産業の活性化を目的に、サイエンスツアー事業を支援する。(つくばサイエンスツアー実行委員会(茨城県・つくば市・研究機関等)から(一財)茨城県科学技術振興財団つくばサイエンスツアーオフィスへ事業委託のうえ実施)

サイエンスツアー受け入人数

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
受け入人数	人	2,150	11,976	14,478	16,209	16,976

サイエンスツアーバス利用者数

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
バス利用者数	人	600	5,358	4,575	4,601	4,277

観光PRの実施

各種イベント情報、四季折々のつくばの観光情報などについて、各種キャンペーンやメディア等を通じて観光PRを行うほか、高速道路SAへのチラシ設置や、SNS等を活用し、観光PRを実施する。

■観光キャンペーン

【令和2年度(2020年度)】

いばらき応援プロジェクト(IFS)

【令和元年度(2019年度)】

(1) TX 秋葉原駅構内 (2) 茨城県人会賀詞交歓会

(3) 都庁キャンペーン (4) 寅さんサミット (5) 筑波山梅まつりキャンペーン

【平成30年度(2018年度)】

(1) 総理大臣表敬 (2) 荒川区表敬 (3) 茨城県人会賀詞交歓会 (4) 茨城県知事表敬

(5) みとちゃん誕生会

【平成29年度(2017年度)】

(1) ブルーベリーフェスティバル in 東京交通会館 (2) いばらき産直市

(3) おもてなし県民大会 (4) 都市対抗野球大会物産展 (5) いばらきマルシェつ

くばフェア等

【平成28年度(2016年度)】

(1) 夏及び秋の観光キャンペーン (2) いばらき産直市 in 日暮里

(3) 秋のうまいもんキャンペーン in 銀座 (4) 寅さんサミット

(5) 梅まつりキャンペーン in 圏央道開通式 (6) いばらき県産品まつり 等

■SNSによるPRの実施

フォロワー数

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
フォロワー数	人	3,980	3,164	2,548	-	-

いいね数

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
いいね数	人	2,653	839	1,098	-	-



オ 観光客動態調査

観光客動態調査事業

市内の観光地等における観光客の動態を把握し、観光施策の適正な実施及び推進に必要な基礎資料を得ることを目的として、観光入込客数の調査を実施する。

■つくば市観光入込客数

つくば市全体

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
観光入込客数	人	2,344,400	4,158,800	4,489,500	3,911,400	3,580,200

筑波山全体

	単位	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
観光入込客数	人	1,969,100	2,463,600	2,693,300	2,304,700	2,104,300

第3次つくば市観光基本計画

編集発行：つくば市 経済部観光推進課
〒305-8555 茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1
電 話：029-883-1111（代表）
ホームページ：<https://www.city.tsukuba.lg.jp/>